早稲田大学大学院
スポーツ科学研究科

２０１８年度 科目等履修生
聴講可能科目シラバス

※希望する科目の名称を検索して参照してください。
※聴講可能科目および時間割は変更になる可能性があります。
**　更新情報に注意してください。**

日付	更新情報等
2018 年 1 月 29 日	情報公開

授業科目名：	担当教員名：
武道論演習（1）A	志々田　文明

授業の概要

早稲田大学の富木謙治は、柔術（柔道と合気柔術）を基盤とした比較論に基づく武道論を戦前から研究していた実績を背景に、武道の近代化論を中心に論陣を張った。体育としての武道論である。また富木は、戦前からの柔道の稽古と嘉納治五郎の柔道理論を学びつつ合気柔術を学んだことによって、柔道における「離隔態勢の技」の研究を「形」を行い「柔道第二乱取法」を提案した。富木のこの研究は柔道の創始者・嘉納治五郎の実戦的関心から影響を受けて行われたものであり、いわば嘉納のやり残した仕事の継承であった。　そこで本年度の演習では、富木の独創的創案がもつ意味を、近代武道史の広い文脈のなかで考える。受講者の問題関心を参考に、その過程で武道論の基礎的考え方に触れていきたい。

授業の到達目標

1．体育としての武道論の理論を理解したか。
2．嘉納治五郎の求めた思想を理解したか。
3．富木謙治の継承点を理解したか。

授業計画

第1回　富木謙治の思想と武道歴を確認するために、生涯について俯瞰する（1）
第2回　富木謙治の思想と武道歴を確認するために、生涯について俯瞰する（2）
第3回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（1）
第4回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（2）
第5回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（3）
第6回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（4）
第7回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（5）
第8回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（6）
第9回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（7）
第10回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（8）
第11回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（9）
第12回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（10）
第13回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（11）
第14回　富木謙治の思想について戦前と戦後における主要論文と著作を批判的に検討する（12）
第15回　まとめ

教科書

・富木謙治著『武道論』大修館書店
・富木謙治著『体育と武道』早稲田大学出版部
・その他、個別論文

参考文献

・Shishida, F. (2011) Jigoro Kano’s pursuit of ideal judo and its succession: Judo’s techniques performed from a distance, "Ido Movement for Culture. Journal of Martial Arts Anthropology". Vol. 11, No.1: 42-48.
・Shishida, F. (2012) A Judo that Incorporates Kendo: Jigoro Kano’s Ideas and Their Theoretical Development, Archives of Budo, Vol.8(4): 225-233.
・Shishida, F. (2013) IL Principio Del Judo E IL Principio Del Kendo: IE Idee DI Jigoro Kano L’evoluzione Teorica Di Kenji Tomiki, "Gioco, Dramma, Rito Nelle Arti Marziali e Negli Sport da Combattimento (I play, drama, ritual in martial arts and combat sports) pp.162-168. [In Italian]
・Shishida, F. & M. Flynn, M. S. (2013) How does the philosophy of martial arts manifest itself? Insights from Japanese martial arts, "Ido Movement for Culture. Journal of Martial Arts Anthropology". Vol. 13, No. 3: 29-36.
・Shishida, F., Masanori Sakaguchi, Tadayuki Sato, Yasuo Kawakami (2014) Technical principles of “Atemi-waza” in the first technique of the “Itsutsu-no-kata” in Judo: From a viewpoint of Jujutsu-like “Atemi-waza”, Journal of Sport Sciences, 11: 212-224. [In Japanese] (志々田文明, 阪口正律, 佐藤忠之, 川上泰雄 (2014) 柔道の「五の形」一本目における当身技の術理：柔術的当身技の視点から, スポーツ科学研究, 11: 212-224)
・Shishida, F. (2015) Why can a little lady throw down a strong man using only a finger?: The mechanism

of soft atemi-waza, Archives of Budo, Available online at “proceedings.archbudo.com” Archives of Budo Conference Proceedings 2015 HMA Congress: 225-233.
・Shishida, F., Sakaguchi M., Sato T., Kawakami Y. (2015 b) Technical principles of Atemi-waza in the first technique of the Itsutsu-no-kata in Judo: From a viewpoint of Jujutsu-like Atemi-waza, Journal of Sport Sciences, 12, 121-136. (This article is a translation of an earlier paper in Japanese by the same authors, published in this journal under the title
″柔道の「五の形」一本目における当身技の術理:柔術的当身技の視点から″(スポーツ科学研究/Journal of Sports Sciences, Vol. 14 [2014]: 212-224).

成績評価方法
試　　験　　0% なし
レポート　　0% なし
平常点評価　100% 授業への出席、態度、小テスト、到達度の確認などを総合して評価する。
そ の 他　　0% なし

備考・関連URL
https://sites.google.com/site/fshishidalab/
https://sites.google.com/site/dongajiawushuwudaoforamu/

授業科目名：	担当教員名：
武道論演習（1）B	志々田　文明

授業の概要

　柳生宗矩は父・石舟斎宗厳に代わって家康に出仕し、以後三代将軍徳川家光の兵法指南役となって活躍し、大名にまで取り立てられた。そのこともあって柳生家の新陰流の影響力は江戸と尾張を中心に全国に及び、遠く今日の剣道界にも光彩を放っている。本年度の演習ではその剣術の俊英たちの姿や門外不出の極意伝書を伝えた柳生厳長著『正伝新陰流』を分析して、伝統の剣術思想を明らかにする。

授業の到達目標

・柳生厳長著『正伝新陰流』の史料批判
・柳生新陰流の剣術思想の理解

授業計画

第１回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（1）
第２回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（2）
第３回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（3）
第４回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（4）
第５回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（5）
第６回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（6）
第７回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（7）
第８回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（8）
第９回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（9）
第10回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（10）
第11回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（11）
第12回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（12）
第13回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（13）
第14回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（14）
第15回　柳生厳長著『正伝新陰流』の史話篇を精読、分析する（15）

教科書

特になし

参考文献

・柳生宗矩『兵法家伝書』岩波文庫
・柳生十兵衛「月之抄」
・今村嘉雄編輯『史料柳生新陰流』（上下巻）人物往来者
・今村嘉雄 『定本 大和柳生一族―新陰流の系譜』新人物往来社
・渡辺誠 『真説・柳生一族 新陰流兵法と柳生三代の実像』 洋泉社

成績評価方法

試　　験　　0%　なし
レ ポ ー ト　　0%　なし
平常点評価　100%　授業への出席、態度、小テスト、到達度の確認などを総合して評価する。
そ の 他　　0%　なし

備考・関連URL

https://sites.google.com/site/fshishidalab/
https://sites.google.com/site/dongajiawushuwudaoforamu/

授業科目名： スポーツ倫理学・教育学演習（1）A	担当教員名： 友添　秀則

授業の概要

スポーツ教育学・倫理学の文献について講読する。加えて、修士論文執筆のために方法論についても講ずる。

授業の到達目標

スポーツ教育学・倫理学の研究方法についての理解を深める。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　文献収集の方法（1）
第3回　文献収集の方法（2）
第4回　レジメ作成の方法
第5回　スポーツ教育学・倫理学の先行文献の分析方法（1）
第6回　スポーツ教育学・倫理学の先行文献の分析方法（2）
第7回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（1）
第8回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（2）
第9回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（3）
第10回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（4）
第11回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（5）
第12回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（6）
第13回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（7）
第14回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議（8）
第15回　スポーツ教育学・倫理学文献の輪読・討議の総括

教科書

体育の人間形成論（大修館書店）

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割りあてられたテーマに関する発表内容について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ倫理学・教育学演習（1） B	担当教員名： 友添　秀則

授業の概要

スポーツ教育学・倫理学の文献について講読する。加えて、修士論文執筆のために方法論についても講ずる。

授業の到達目標

スポーツ教育学・倫理学の研究方法についての理解を深める。

授業計画

第１回　スポーツ教育学に関する先行研究の分析・発表（1）
第２回　スポーツ教育学に関する先行研究の分析・発表（2）
第３回　スポーツ教育学に関する先行研究の分析・発表（3）
第４回　スポーツ教育学に関する先行研究の分析・発表（4）
第５回　スポーツ教育学に関する先行研究の分析・発表（5）
第６回　体育・スポーツにおける倫理学的研究の分析・発表（1）
第７回　体育・スポーツにおける倫理学的研究の分析・発表（2）
第８回　体育・スポーツにおける倫理学的研究の分析・発表（3）
第９回　体育・スポーツにおける倫理学的研究の分析・発表（4）
第10回　体育・スポーツにおける倫理学的研究の分析・発表（5）
第11回　文献研究に必要とされるスキル（1）
第12回　文献研究に必要とされるスキル（2）
第13回　文献研究に必要とされるスキル（3）
第14回　論文構想の設定
第15回　総括と今後の課題

教科書

体育の人間形成論（大修館書店）

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割りあてられたテーマに関する発表内容について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ社会学演習（1）A	担当教員名： 中澤　篤史

授業の概要

　スポーツ・身体・人間に関連する社会現象を、社会学を中心とした社会科学的アプローチから探究する。演習は、スポーツ・身体・人間について論じた社会学／社会科学の文献の講読と議論を通じて、スポーツ社会学の理論を理解することをめざす。

授業の到達目標

　スポーツ社会学の理論の理解

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　文献の講読と議論（１）スポーツ社会学への招待
第３回　文献の講読と議論（２）社会への注目
第４回　文献の講読と議論（３）社会的文脈
第５回　文献の講読と議論（４）身体
第６回　文献の講読と議論（５）人間
第７回　文献の講読と議論（６）政治
第８回　文献の講読と議論（７）経済
第９回　文献の講読と議論（８）教育
第10回　文献の講読と議論（９）階層
第11回　文献の講読と議論（10）ジェンダー／セクシャリティ
第12回　文献の講読と議論（11）民族
第13回　文献の講読と議論（12）福祉
第14回　文献の講読と議論（13）障害
第15回　総括論議

教科書

　授業内で適宜、知らせる。

参考文献

　なし。

成績評価方法

平常点評価　100%　スポーツ社会学の理論の理解度

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ社会学演習（1）B	担当教員名： 中澤　篤史

授業の概要

スポーツ・身体・人間に関連する社会現象を、社会学を中心とした社会科学的アプローチから探究する。演習は、スポーツ・身体・人間について論じた社会学／社会科学の文献の講読と議論を通じて、スポーツ社会学の方法を理解することをめざす。

授業の到達目標

スポーツ社会学の方法の理解

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　文献の講読と議論（１）社会学的アプローチ
第３回　文献の講読と議論（２）スポーツ社会学の理論と方法
第４回　文献の講読と議論（３）スポーツと社会的文脈
第５回　文献の講読と議論（４）スポーツと身体
第６回　文献の講読と議論（５）スポーツと人間
第７回　文献の講読と議論（６）スポーツと政治
第８回　文献の講読と議論（７）スポーツと経済
第９回　文献の講読と議論（８）スポーツと教育
第10回　文献の講読と議論（９）スポーツと階層
第11回　文献の講読と議論（10）スポーツとジェンダー／セクシャリティ
第12回　文献の講読と議論（11）スポーツと民族
第13回　文献の講読と議論（12）スポーツと福祉
第14回　文献の講読と議論（13）スポーツと障害
第15回　総括論議

教科書

授業内で適宜、知らせる。

参考文献

なし。

成績評価方法

平常点評価　100%　スポーツ社会学の方法の理解度

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ史演習（1）A	石井　昌幸

授業の概要

各自個別研究を行い、その成果を発表し、ディスカッションと教員の指導によって深めていくことと、学術的英文の精読演習とを並行して行う。後者では、テキストを読解しながら、学術書の精読に慣れるとともに、教員の解説を通じて、アメリカ・スポーツ史とその特質についての専門的知識を得る。

授業の到達目標

スポーツ文化の形成と変遷について、歴史学の方法を用いて研究するための専門的知識と技法を習得する。また、学術的な英文を精読するための技術もあわせて習得する。

授業計画

第1回　ガイダンス、テキストの紹介、個人研究テーマ決定に関する指導と議論
第2回　テキストの精読・解説・議論〈1〉工業化社会における文化（1）
第3回　テキストの精読・解説・議論〈2〉工業化社会における文化（2）
第4回　テキストの精読・解説・議論〈3〉アメリカにおけるスポーツ空間の形成（1）
第5回　テキストの精読・解説・議論〈4〉アメリカにおけるスポーツ空間の形成（2）
第6回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈1〉
第7回　テキストの精読・解説・議論〈5〉アメリカ例外主義とはなにか（1）
第8回　テキストの精読・解説・議論〈6〉アメリカ例外主義とはなにか（2）
第9回　テキストの精読・解説・議論〈7〉20世紀後半アメリカにおけるスポーツ空間の再編（1）
第10回　テキストの精読・解説・議論〈8〉20世紀後半アメリカにおけるスポーツ空間の再編（2）
第11回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈2〉
第12回　テキストの精読・解説・議論〈9〉北米サッカー・リーグからメジャーリーグ・サッカーへ（1）
第13回　テキストの精読・解説・議論〈10〉北米サッカー・リーグからメジャーリーグ・サッカーへ（2）
第14回　テキストの精読・解説・議論〈11〉ワールドカップとアメリカ人（1）
第15回　テキストの精読・解説・議論〈12〉ワールドカップとアメリカ人（2）

教科書

Andrei S. Markovits and Steven L. Hellerman, Offside: Soccer and American Exeptionalism, Princeton University Press: Princeton, 2001.

参考文献

授業時に参考資料となるプリントを配布。

成績評価方法

試　　験		実施しません。
レポート	30%	学期末に課すレポートにより採点します。
平常点評価	70%	テキスト輪読時に英語の読解力・論旨の理解力等を基準として判断します。また、個人研究発表の質（史料収集力、分析の精緻さ、論理的な議論を組み立てる力などの観点から判断）と、ディスカッションの力・積極性もあわせて判断基準とします。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ史演習（1）B	石井　昌幸

授業の概要

各自個別研究を行い、その成果を発表し、ディスカッションと教員の指導によって深めていくことと、学術的英文の精読演習とを並行して行う。後者では、テキストを読解しながら、学術書の精読に慣れるとともに、教員の解説を通じて、イギリス現代スポーツ史とその特質についての専門的知識を得る。

授業の到達目標

スポーツ文化の形成と変遷について、歴史学の方法を用いて研究するための専門的技法を習得する。また、学術的な英文を精読するための技術もあわせて習得する。

授業計画

第1回　ガイダンス、テキストの紹介、個人研究テーマ決定に関する指導と議論
第2回　テキストの精読・解説・議論〈1〉スポーツへの参加と観戦（1）
第3回　テキストの精読・解説・議論〈2〉スポーツへの参加と観戦（2）
第4回　テキストの精読・解説・議論〈3〉戦後イギリス・スポーツの再編過程（1）
第5回　テキストの精読・解説・議論〈4〉戦後イギリス・スポーツの再編過程（2）
第6回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈1〉
第7回　テキストの精読・解説・議論〈5〉現代におけるアマチュアリズム（1）
第8回　テキストの精読・解説・議論〈6〉現代におけるアマチュアリズム（2）
第9回　テキストの精読・解説・議論〈7〉イギリスにおけるプロ・スポーツの伝統（1）
第10回　テキストの精読・解説・議論〈8〉イギリスにおけるプロ・スポーツの伝統（2）
第11回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈2〉
第12回　テキストの精読・解説・議論〈9〉現代イギリス・スポーツとメディア
第13回　テキストの精読・解説・議論〈10〉イギリス・スポーツとエスニシティ
第14回　テキストの精読・解説・議論〈11〉イギリス・スポーツと政府
第15回　総括と次年度へ向けての課題の議論

教科書

Richard Holt and Tony Mason, Sport in Britain 1945-2000, Blackwell: Oxford, 2000.

参考文献

成績評価方法

試　　験		実施しません。
レポート	30%	学期末に課すレポートにより採点します。
平常点評価	70%	テキスト輪読時に英語の読解力・論旨の理解力等を基準として判断します。また、個人研究発表の質（史料収集力、分析の精緻さ、論理的な議論を組み立てる力などの観点から判断）と、ディスカッションの力・積極性もあわせて判断基準とします。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
舞踊論演習（1）A	杉山　千鶴

授業の概要

本演習では、国内の伝統芸能・民俗芸能を対象とし、そこに生じている問題を洗い出し、検討するものである。先行研究の講読によって当該の対象について理解を深め、現状について検討する。

また夏季休業中にはフィールドワークを行い、実践の場に立ち会い、資料館等で資料を収集する。

授業の到達目標

現象に対する問題意識を養う。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　フィールドワークの対象の検討
第３回　対象地に関する文献・資料の講読①
第４回　対象地に関する文献・資料の講読②
第５回　対象地に関する文献・資料の講読③
第６回　対象とする伝統芸能・民俗芸能に関する先行研究の講読①
第７回　対象とする伝統芸能・民俗芸能に関する先行研究の講読②
第８回　対象とする伝統芸能・民俗芸能に関する先行研究の講読③
第９回　対象とする伝統芸能・民俗芸能に関する先行研究の講読④
第10回　フィールドワーク実践に向けて①スケジュールの確定
第11回　対象とする伝統芸能・民俗芸能に関する先行研究の講読⑤
第12回　対象とする伝統芸能・民俗芸能に関する先行研究の講読⑥
第13回　問題の検討
第14回　フィールドワーク実践に向けて②資料館、保存会の確認
第15回　フィールドワーク実践に向けて③インタビュー項目の作成と問題の共有

教科書

随時教場で紹介する。

参考文献

随時教場で紹介する。

成績評価方法

平常点評価　50%　授業への意欲的姿勢
そ　の　他　50%　出席点

備考・関連URL

授業科目名： 舞踊論演習（1） B	担当教員名： 杉山　千鶴

授業の概要

　演習（1）A の内容、フィールドワークで得られた知見や資料を元に報告書を作成する。報告書作成の過程では、常に問題について検討を繰り返し、補充として先行研究や資料の講読を行う。

授業の到達目標

①現象に対する問題意識を養う。
②明瞭かつ論理的な文章作成力。

授業計画

第１回　ガイダンス：授業計画他
第２回　フィールドワークの振り返りと先行研究の再検討①
第３回　フィールドワークの振り返りと先行研究の再検討②
第４回　問題の見直し
第５回　構成の決定
第６回　報告書の作成と修正、補足資料の講読①
第７回　報告書の作成と修正、補足資料の講読②
第８回　報告書の作成と修正、補足資料の講読③
第９回　報告書の作成と修正、補足資料の講読④
第10回　報告書の作成と修正、補足資料の講読⑤
第11回　問題の再確認と結論の検討①
第12回　問題の再確認と結論の検討①
第13回　抄録の作成①
第14回　抄録の作成②
第15回　報告書の修正と完成

教科書

　随時教場で紹介する。

参考文献

　随時教場で紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50% 報告書の内容
そ　の　他　50% 授業への意欲的姿勢

備考・関連 URL

授業科目名：	担当教員名：
体育科教育学演習（1）A	吉永　武史

授業の概要

体育科教育学の研究領域は、授業の前提条件に関わる基礎的研究、授業計画のための理論的研究、授業実践を対象に事実の記述分析や仮説検証を行う実践的研究によって構成される。本演習では主に、体育科教育の実践のための理論的研究に焦点を当て、体育科教育に関する文献の講読などを通して、体育科の目的・目標論、教科内容論、教材づくり論、学習指導論について検討していく。

授業の到達目標

本演習では、体育科の目的・目標論、教科内容論、教材づくり論、学習指導論に関する基礎的知識を習得し、体育科教育学のカリキュラム論ならびに教授・学習指導論についての理解を深めていくことを目標とする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　体育科のカリキュラム論（1）：学校カリキュラムにおける体育領域の位置と役割
第３回　体育科のカリキュラム論（2）：体育カリキュラムの社会的構成をめぐる諸相（開発主体の問題に着目して）
第４回　体育科のカリキュラム論（3）：体育カリキュラムの社会的構成をめぐる諸相（その政治的性格を問う）
第５回　体育科のカリキュラム論（4）：体育のカリキュラムモデルとカリキュラム評価
第６回　体育科の教授・学習指導論（1）：英語圏にみる体育科の学習指導論
第７回　体育科の教授・学習指導論（2）：日本にみる体育科の学習指導論
第８回　体育科の教授・学習指導論（3）：教材論
第９回　体育科の教授・学習指導論（4）：教師行動論（効果的な教師行動を支える教授技術）
第10回　体育科の教授・学習指導論（5）：学習者論（学習者の素朴概念と学習指導）
第11回　体育科の教授・学習指導論（6）：学習論（学習参加を促す心理的要因）
第12回　体育科の教授・学習指導論（7）：学習者の学びと学習評価
第13回　体育教師教育論（1）：専門職としての教師の成長過程と支援体制
第14回　体育教師教育論（2）：教員養成のスタンダードづくり
第15回　総括ならびにレポート課題

教科書

岡出美則ほか編「新版体育科教育学の現在」創文企画、2015 年

参考文献

竹田清彦ほか編「体育科教育学の探究：体育授業づくりの基礎理論」大修館書店、1997 年

成績評価方法

レポート	25%	第15回目に課題を提示する。与えられた課題について演習での論議内容と関連づけながら深く考察しているかどうかを評価する。
平常点評価	75%	与えられたテーマについてレポートをまとめ、適切に報告できているかどうかを評価する。また、出席状況やディスカッションを含めた授業への積極性を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
体育科教育学演習（1） B	吉永　武史

授業の概要

体育科教育学の研究領域は、授業の前提条件に関わる基礎的研究、授業計画のための理論的研究、授業実践を対象に事実の記述分析や仮説検証を行う実践的研究によって構成される。本演習では主に、体育科教育の実践のための理論的研究に焦点を当て、体育科教育に関する文献の講読などを通して、体育科教育学の研究方法論や体育科の授業研究について検討していく。加えて、実際の体育授業の映像分析を通して、体育授業で生起する問題を解決するための授業研究にアプローチしていく。

授業の到達目標

本演習では、体育科教育学の研究方法論や体育科の授業研究に関する基礎的知識を習得し、体育科教育学のカリキュラム論ならびに教授・学習指導論についての理解を深めていくことを目標とする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　体育科教育学の研究方法論（1）：体育科教育学の発展過程
第３回　体育科教育学の研究方法論（2）：経験的研究の成果と課題（研究倫理）
第４回　体育科教育学の研究方法論（3）：質的研究の成果と課題
第５回　体育科教育学の研究方法論（4）：教師による実践的研究
第６回　体育科の授業研究（1）体育の授業研究のアプローチ
第７回　体育科の授業研究（2）経験的方法による研究
第８回　体育科の授業研究（3）解釈学的方法による研究
第９回　体育科の授業研究（4）授業場面の期間記録法による授業分析
第10回　体育科の授業研究（5）学習従事観察法による授業分析
第11回　体育科の授業研究（6）Group Time Sampling 法による授業分析
第12回　体育科の授業研究（7）教師の相互作用行動観察法による授業分析
第13回　体育科の授業研究（8）ナラティブ分析法による授業分析
第14回　体育科の授業研究（9）Game Performance Assessment Instrument によるゲーム分析
第15回　総括ならびに期末レポート課題

教科書

岡出美則ほか編「新版体育科教育学の現在」創文企画、2015 年
竹田清彦ほか編「体育科教育学の探究：体育授業づくりの基礎理論」大修館書店、1997 年

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト	50%	第30回目に課題を提示する。与えられた課題について演習での論議内容と関連づけながら深く考察しているかどうかを評価する。
平常点評価	50%	与えられたテーマについてレポートをまとめ、適切に報告できているかどうかを評価する。また、出席状況やディスカッションを含めた授業への積極性を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ教授学演習（1）A	深見　英一郎

授業の概要

学校の体育授業及び教育的に行われる運動部活動や地域でのスポーツ活動を対象としたカリキュラム研究と学習指導研究について検討する。また、先行研究の検討及び実際のスポーツ指導場面の映像分析を通して、自らの研究テーマを設定し、研究を計画･遂行できるように研究指導を行う。

授業の到達目標

本演習では、中心課題であるカリキュラム研究と学習指導研究に対する理解を深め、各自の問題意識に応じて論文執筆に必要なスキルや研究方法についての専門的知識･技術を習得することを目的とする。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　卒論発表と今後の研究課題の検討①
第３回　卒論発表と今後の研究課題の検討②
第４回　卒論発表と今後の研究課題の検討③
第５回　スポーツの教育的可能性
第６回　スポーツ教授学研究の学問体系
第７回　スポーツ授業の目標論
第８回　スポーツ授業の内容論①技術・戦術学習
第９回　スポーツ授業の内容論②認知的・社会的行動学習
第10回　スポーツ授業の内容編成論
第11回　スポーツ授業の教材づくり論
第12回　教授技術①ーモニタリングと相互作用ー
第13回　教授技術②ーマネジメントとインストラクションー
第14回　スポーツ授業の評価論
第15回　まとめ

教科書

高橋健夫ほか著「新版体育科教育学入門」大修館書店、2010 年

参考文献

必要に応じて適宜紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト	50%	第15回目及び第30回目に期末レポート課題。与えられた課題を演習での論議内容と関連づけながら深く考察しているか。内容理解、論理構成、表現力の視点から評価する。
平常点評価	50%	与えられたテーマについて深く理解し考察しているかどうかを評価する。 ディスカッションや出席状況を含めた授業の中での積極性や勤勉性といった履修態度を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ教授学演習（1）B	深見　英一郎

授業の概要

学校の体育授業及び教育的に行われる運動部活動や地域でのスポーツ活動を対象としたカリキュラム研究と学習指導研究について検討する。また、先行研究の検討及び実際のスポーツ指導場面の映像分析を通して、自らの研究テーマを設定し、研究を計画･遂行できるように研究指導を行う。

授業の到達目標

本演習では、中心課題であるカリキュラム研究と学習指導研究に対する理解を深め、各自の問題意識に応じて論文執筆に必要なスキルや研究方法についての専門的知識･技術を習得することを目的とする。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　文献（目標論）の輪読・討議①
第３回　文献（目標論）の輪読・討議②
第４回　個人研究の発表・討議①
第５回　文献（内容論）の輪読・討議①
第６回　文献（内容論）の輪読・討議②
第７回　文献（内容編成論）の輪読・討議①
第８回　文献（内容編成論）の輪読・討議②
第９回　個人研究の発表・討議②
第10回　文献（教材づくり）の輪読・討議①
第11回　文献（教材づくり）の輪読・討議②
第12回　文献（教授技術）の輪読・討議①
第13回　文献（教授技術）の輪読・討議②
第14回　個人研究の発表・討議③
第15回　総括

教科書

特になし

参考文献

必要に応じて適宜紹介する。

成績評価方法

レポート	50%	第15回目及び第30回目に期末レポート課題。与えられた課題を演習での論議内容と関連づけながら深く考察しているか。内容理解、論理構成、表現力の視点から評価する。
平常点評価	50%	与えられたテーマについて深く理解し考察しているかどうかを評価する。 ディスカッションや出席状況を含めた授業の中での積極性や勤勉性といった履修態度を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
武道論演習（2）A	志々田　文明

授業の概要

近代日本の武道教育に直接的また間接的に大きな影響を与えたのは江戸・近世の武芸思想である。例えば現代の武道で用いられる技法・心法論あるいは武芸観や武士道論について用語の多くは近世伝書で用いられたものであり、現代を考えるためも基礎的訓練として、近世武芸伝書の学習は欠かせない。本年度の演習では、常山紀談（戦国武将逸話集）を用いて往時の文章に馴染むように訓練する。

授業の到達目標

1．常山紀談をすらすら読めるようになったか。
2．常山紀談に出てくるキーワードが理解できるようになったか。
3．常山紀談執筆当時の武道観を理解したか。

授業計画

第1回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（1）
第2回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（2）
第3回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（3）
第4回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（4）
第5回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（5）
第6回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（6）
第7回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（7）
第8回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（8）
第9回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（9）
第10回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（10）
第11回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（11）
第12回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（12）
第13回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（13）
第14回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（14）
第15回　『戦国武将逸話集』収載の「常山紀談」巻を精読・分析して武士の思想とその意味を考える（15）

教科書

戦国武将逸話集（勉誠出版）

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　100%　出席回数と取り組みの態度で評価する

備考・関連URL

https://sites.google.com/site/fshishidalab/
https://sites.google.com/site/dongajiawushuwudaoforamu/

授業科目名：	担当教員名：
武道論演習（2）B	志々田　文明

授業の概要

江戸文化を研究した三田村鳶魚（えんぎょ）は、武士道について、「武士道という道があって武士道が生じたものではない」と述べている。武士道は「船の道船の道とて道もなし、船ゆく道が船の道なり」とい「古歌のごときもの」というのである。鳶魚の言葉は、私たちに問題設定の適切さについての疑問を投げかけている。一方、武道論研究における議論を見ていると、実体がないものをあたかも本質のように思い込み、「・・・は何か」と問うという同様の誤った議論が多い。鳶魚の意見は、哲学的には武士道の実体化による誤りを指摘したものといえ、優れた専門家の深い思索力に驚かされる。

そこで本年度の演習では、千数百年年にわたって西洋の世界観に決定的な影響を与えたといわれるアリストテレスの『形而上学』を精読し、厳密に思考することを訓練する。また鳶魚の『武家の生活』を味読し研究方法を検討する。

授業の到達目標

1．アリストテレス『形而上学』における実体を理解したか。
2．鳶魚の『武家の生活』の研究方法を理解したか。

授業計画

第1回　アリストテレスの『形而上学』における精密な解説の中から武術・武道の思想を考えるために必要な重要な箇所を選び、その内容の妥当性を考察する（1）
第2回　アリストテレスの『形而上学』における精密な解説の中から武術・武道の思想を考えるために必要な重要な箇所を選び、その内容の妥当性を考察する（2）
第3回　アリストテレスの『形而上学』における精密な解説の中から武術・武道の思想を考えるために必要な重要な箇所を選び、その内容の妥当性を考察する（3）
第4回　アリストテレスの『形而上学』における精密な解説の中から武術・武道の思想を考えるために必要な重要な箇所を選び、その内容の妥当性を考察する（4）
第5回　アリストテレスの『形而上学』における精密な解説の中から武術・武道の思想を考えるために必要な重要な箇所を選び、その内容の妥当性を考察する（5）
第6回　アリストテレスの『形而上学』における精密な解説の中から武術・武道の思想を考えるために必要な重要な箇所を選び、その内容の妥当性を考察する（6）
第7回　アリストテレスの『形而上学』における精密な解説の中から武術・武道の思想を考えるために必要な重要な箇所を選び、その内容の妥当性を考察する（7）
第8回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（1）
第9回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（2）
第10回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（3）
第11回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（4）
第12回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（5）
第13回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（6）
第14回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（7）
第15回　三田村鳶魚の『武家の生活』の中から近世の武士の思想を表す重要な箇所を選び、検討する（8）

教科書

アリストテレス『形而上学』岩波文庫
三田村鳶魚『武家の生活』中公文庫

参考文献

なし

成績評価方法

試　　験　　0%　なし
レポート　　0%　なし
平常点評価　100%　授業への出席、態度、小テスト、到達度の確認などを総合して評価する。
そ の 他　　0%　なし

備考・関連URL

https://sites.google.com/site/fshishidalab/
https://sites.google.com/site/dongajiawushuwudaoforamu/

授業科目名： スポーツ倫理学・教育学演習（2）A	担当教員名： 友添　秀則

授業の概要

　演習（1）に引き続いて、スポーツ教育学・倫理学に関する修士論文の作成方略について講じる。各自の問題意識に応じて論文執筆に必要なスキルや研究方法について、発表・討議を通して深め、修士論文を完成させることを目的とする。２年次の履修を原則とする。

授業の到達目標

　スポーツ教育学・倫理学を研究対象とする論文作成の方法論を習得することを目標とする。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　修士論文執筆と文献収集の方法（1）
第３回　修士論文執筆と文献収集の方法（2）
第４回　発表レジメ作成の方法
第５回　スポーツ教育学・倫理学の先行文献の分析方法（1）
第６回　スポーツ教育学・倫理学の先行文献の分析方法（2）
第７回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（1）
第８回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（2）
第９回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（3）
第10回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（4）
第11回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（5）
第12回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（6）
第13回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（7）
第14回　スポーツ教育学・倫理学研究に関する発表（8）
第15回　スポーツ教育学・倫理学に関する研究発表の総括

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割りあてられたテーマに関する発表内容について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ倫理学・教育学演習（2）B	担当教員名： 友添　秀則

授業の概要

　演習（1）に引き続いて、スポーツ教育学・倫理学に関する修士論文の作成方略について講じる。各自の問題意識に応じて論文執筆に必要なスキルや研究方法について、発表・討議を通して深め、修士論文を完成させることを目的とする。２年次の履修を原則とする。

授業の到達目標

　スポーツ教育学・倫理学を研究対象とする論文作成の方法論を習得することを目標とする。

授業計画

第１回　修士論文の構想・発表・討議（1）
第２回　修士論文の構想・発表・討議（2）
第３回　修士論文の構想・発表・討議（3）
第４回　修士論文の構想・発表・討議（4）
第５回　修士論文の構想・発表・討議（5）
第６回　修士論文の構築に必要な研究方略（1）
第７回　修士論文の構築に必要な研究方略（2）
第８回　修士論文の構築に必要な研究方略（3）
第９回　修士論文の構築に必要な研究方略（4）
第10回　修士論文の構築に必要な研究方略（5）
第11回　修士論文の構築に必要な研究方略（6）
第12回　修士論文の構築に必要な研究方略（7）
第13回　演習のまとめ（1）
第14回　演習のまとめ（2）
第15回　総括と今後の課題

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割りあてられたテーマに関する発表内容について評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツメディア論演習（2）A	トンプソン　リー　A.

授業の概要

　履修登録しているか関係なく、ゼミの全ての院生が参加することになっている。研究の課題、主流理論、研究方法などを学ぶことによって、自らの研究の参考にする。順番で各自が自らの研究を報告し、全員でそれについて議論する。

授業の到達目標

　スポーツと社会の関係を捉える様々な視点を理解すること。スポーツメディア研究の概要を把握すること。自らの研究テーマの文献を収集し、精読すること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　発表とディスカッション
第３回　発表とディスカッション
第４回　発表とディスカッション
第５回　発表とディスカッション
第６回　発表とディスカッション
第７回　発表とディスカッション
第８回　発表とディスカッション
第９回　発表とディスカッション
第10回　発表とディスカッション
第11回　発表とディスカッション
第12回　発表とディスカッション
第13回　発表とディスカッション
第14回　発表とディスカッション
第15回　発表とディスカッション

教科書

　適時に指定する。

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　授業への準備と貢献を評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツメディア論演習（2）B	担当教員名： トンプソン　リー　A.

授業の概要

　履修登録しているか関係なく、ゼミの全ての院生が参加することになっている。研究の課題、主流理論、研究方法などを学ぶことによって、自らの研究の参考にする。順番で各自が自らの研究を報告し、全員でそれについて議論する。

授業の到達目標

　スポーツと社会の関係を捉える様々な視点を理解すること。スポーツメディア研究の概要を把握すること。自らの研究テーマの文献を収集し、精読すること。

授業計画

第１回　発表とディスカッション
第２回　発表とディスカッション
第３回　発表とディスカッション
第４回　発表とディスカッション
第５回　発表とディスカッション
第６回　発表とディスカッション
第７回　発表とディスカッション
第８回　発表とディスカッション
第９回　発表とディスカッション
第10回　発表とディスカッション
第11回　発表とディスカッション
第12回　発表とディスカッション
第13回　発表とディスカッション
第14回　発表とディスカッション
第15回　発表とディスカッション

教科書

　適時に指定する。

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　授業への準備と貢献を評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ社会学演習（2）A	担当教員名： 中澤　篤史

授業の概要

スポーツ・身体・人間に関連する社会現象を、社会学を中心とした社会科学的アプローチから探究する。演習（1）の基礎の上で、受講者自身が、スポーツ・身体・人間についての社会学的研究を進め、オリジナルなテーマを設定できることをめざす。文献の講読と議論も、引き続き行う。

授業の到達目標

オリジナルなテーマを設定できること

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　テーマ設定のための討論（1）社会学的アプローチ
第3回　テーマ設定のための討論（2）スポーツと身体
第4回　テーマ設定のための討論（3）スポーツと人間
第5回　テーマ設定のための討論（4）スポーツと政治
第6回　テーマ設定のための討論（5）スポーツと経済
第7回　テーマ設定のための討論（6）スポーツと教育
第8回　研究発表（1）問いを立てる
第9回　研究発表（2）仮説をつくる
第10回　文献の講読と議論（1）近代
第11回　文献の講読と議論（2）言説
第12回　文献の講読と議論（3）知識
第13回　文献の講読と議論（4）精神
第14回　文献の講読と議論（5）スポーツ・身体・人間
第15回　総括論議

教科書

授業内で適宜、知らせる。

参考文献

なし。

成績評価方法

平常点評価　100%　スポーツ社会学的研究のテーマ設定の仕方およびその独創性

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ社会学演習（2）B	担当教員名： 中澤　篤史

授業の概要

スポーツ・身体・人間に関連する社会現象を、社会学を中心とした社会科学的アプローチから探究する。演習（1）の基礎の上で、受講者自身が、スポーツ・身体・人間についての社会学的研究を進め、オリジナルなテーマを設定できることをめざす。文献の講読と議論も、引き続き行う。

授業の到達目標

オリジナルなテーマを設定できること

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　テーマ設定のための討論（1）スポーツと階層
第3回　テーマ設定のための討論（2）スポーツとジェンダー／セクシャリティ
第4回　テーマ設定のための討論（3）スポーツと民族
第5回　テーマ設定のための討論（4）スポーツと福祉
第6回　テーマ設定のための討論（5）スポーツと障害
第7回　テーマ設定のための討論（6）スポーツと社会
第8回　研究発表（1）データを集める
第9回　研究発表（2）結論を出す
第10回　文献の講読と議論（1）権力
第11回　文献の講読と議論（2）規律訓練
第12回　文献の講読と議論（3）主体化
第13回　文献の講読と議論（4）自己
第14回　文献の講読と議論（5）人間と社会
第15回　総括論議

教科書

授業内で適宜、知らせる。

参考文献

なし。

成績評価方法

平常点評価　100%　スポーツ社会学的研究のテーマ設定の仕方およびその独創性

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ史演習（2）A	石井　昌幸

授業の概要

各自個別研究を行い、その成果を発表し、ディスカッションと教員による指導によって深めていくことと、学術的英文の精読演習とを並行して行う。後者では、テキストを読解しながら、学術書の精読に慣れるとともに、教員の解説やディスカッションを通じて、スポーツのグローバル化についての専門的知識を深める。

授業の到達目標

スポーツ文化の形成と変遷についての研究を歴史学の方法を用いて実践する。また、学術的な英文を精読し、知識を深めるとともに、それについてディスカッションする力を身につける。

授業計画

第１回　ガイダンス、テキストの紹介、個人研究テーマ決定に関する指導と議論
第２回　テキストの精読・解説・議論〈1〉スポーツとグローバル化
第３回　テキストの精読・解説・議論〈2〉現代スポーツと大衆消費文化（1）
第４回　テキストの精読・解説・議論〈3〉現代スポーツと大衆消費文化（2）
第５回　テキストの精読・解説・議論〈4〉グローバル化のなかのローカル・スポーツ
第６回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈1〉
第７回　テキストの精読・解説・議論〈5〉スポーツ移民（1）
第８回　テキストの精読・解説・議論〈6〉スポーツ移民（2）
第９回　テキストの精読・解説・議論〈7〉野球はグローバル・スポーツか？（1）
第10回　テキストの精読・解説・議論〈8〉野球はグローバル・スポーツか？（2）
第11回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈2〉
第12回　テキストの精読・解説・議論〈9〉スポーツとグローバル企業（1）
第13回　テキストの精読・解説・議論〈10〉スポーツとグローバル企業（2）
第14回　テキストの精読・解説・議論〈11〉紛争地域におけるスポーツ
第15回　テキストの精読・解説・議論〈12〉まとめとディスカッション

教科書

R. Giulianotti and R. Robertson (eds.), Globalization and Sport, Blackwell: Oxford, 2007.

参考文献

授業時に参考資料となるプリントを配布。

成績評価方法

試　　験		実施しません。
レポート	30%	学期末に課すレポートにより採点します。
平常点評価	70%	テキスト輪読時に英語の読解力・論旨の理解力等を基準として判断します。また、個人研究発表の質（史料収集力、分析の精緻さ、論理的な議論を組み立てる力などの観点から判断）と、ディスカッションの力・積極性もあわせて判断基準とします。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ史演習（2）B	石井　昌幸

授業の概要

各自個別研究を行い、その成果を発表し、ディスカッションと教員による指導によって深めていくことと、学術的英文の精読演習とを並行して行う。後者では、テキストを読解しながら、学術書の精読に慣れるとともに、教員の解説やディスカッションを通じて、20 世紀における国際社会の諸問題とスポーツの関係についての専門的知識を深める。

授業の到達目標

スポーツ文化の形成と変遷についての研究を歴史学の方法を用いて実践する。また、学術的な英文を精読し、知識を深めるとともに、それについてディスカッションする力を身につける。

授業計画

第１回　ガイダンス、テキストの紹介、個人研究テーマ決定に関する指導と議論
第２回　テキストの精読・解説・議論〈１〉オリンピックと国際政治
第３回　テキストの精読・解説・議論〈２〉国際サッカー連盟（FIFA）の歴史と諸問題
第４回　テキストの精読・解説・議論〈３〉ファシズム下のスポーツと世界
第５回　テキストの精読・解説・議論〈４〉共産主義諸国とスポーツ
第６回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈１〉
第７回　テキストの精読・解説・議論〈５〉国際労働者スポーツ運動
第８回　テキストの精読・解説・議論〈６〉現代の宗教とスポーツ
第９回　テキストの精読・解説・議論〈７〉スポーツのなかの女性
第10回　テキストの精読・解説・議論〈８〉スポーツと人種差別
第11回　個人研究の発表とディスカッション・指導〈２〉
第12回　テキストの精読・解説・議論〈９〉障害者スポーツの現在
第13回　テキストの精読・解説・議論〈10〉FIFA ワールドカップとグローバル・ビジネス
第14回　テキストの精読・解説・議論〈11〉衛星放送メディアとスポーツ
第15回　テキストの精読・解説・議論〈12〉まとめとディスカッション

教科書

Jim Riordan and Arnd Kruger, The International Politics of Sport in the 20th Century, E & FN Spon: London, 1999.

参考文献

成績評価方法

試　　験		実施しません。
レ ポ ー ト	30%	学期末に課すレポートにより採点します。
平常点評価	70%	テキスト輪読時に英語の読解力・論旨の理解力等を基準として判断します。また、個人研究発表の質（史料収集力、分析の精緻さ、論理的な議論を組み立てる力などの観点から判断）と、ディスカッションの力・積極性もあわせて判断基準とします。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
舞踊論演習（2）A	杉山　千鶴

授業の概要

本演習では、履修者の研究テーマに応じた文献・資料を講読する。研究対象を、偏ることなく様々な視点から見つめ、深く理解することを目指す。そのため舞踊学のみならず広く多様な学問領域における研究成果に触れる。

授業の到達目標

研究対象を全方位から見つめる。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究テーマの概要と進捗状況に関する発表
第３回　文献・資料の講読①
第４回　文献・資料の講読②
第５回　文献・資料の講読③
第６回　文献・資料の講読④
第７回　文献・資料の講読⑤
第８回　①～⑤の振り返りと問題意識の検討
第９回　文献・資料の講読⑥
第10回　文献・資料の講読⑦
第11回　文献・資料の講読⑧
第12回　文献・資料の講読⑨
第13回　文献・資料の講読⑩
第14回　⑥～⑩の振り返りと問題意識の検討
第15回　研究テーマへの活用と問題認識の確認

教科書

Theresa j. Buckland：DANCE IN THE FIELD

参考文献

随時教場で紹介、指示する。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50％ 本演習を踏まえたレポートの作成
平常点評価　50％ 発表内容及び授業への積極的かつ意欲的な姿勢を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
舞踊論演習（2）B	杉山　千鶴

授業の概要

各自の研究テーマについて発表・ディスカッションを繰り返し、必要に応じて資料や先行研究を検討し、掘り下げていく。

11 月～12 月に開催される舞踊学関連の学会にて、本演習の成果の一部を発表する。

授業の到達目標

自己の研究テーマを掘り下げて深みにはまる。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　修士論文に関する発表・討論（１）
第３回　修士論文に関する発表・討論（２）
第４回　修士論文に関する発表・討論（３）
第５回　修士論文に関する発表・討論（４）
第６回　修士論文に関する発表・討論（５）
第７回　修士論文に関する発表・討論（６）
第８回　修士論文に関する発表・討論（７）
第９回　学会発表予行（１）
第10回　学会発表予行（２）
第11回　修士論文に関する発表・討論（８）
第12回　修士論文に関する発表・討論（９）
第13回　修士論文に関する発表・討論（10）
第14回　本演習のまとめ（１）
第15回　本演習のまとめ（２）

教科書

教場にてプリントを配布する。

参考文献

随時教場で紹介、指示する。

成績評価方法

そ　の　他　100%　発表内容並びに研究テーマに対する積極的かつ熱い姿勢を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
体育科教育学演習（2）A	吉永　武史

授業の概要

本演習では、演習（1）における成果をベースに、体育科教育学に関する研究テーマを設定し、研究計画をデザインする。設定した研究テーマに沿って各自が取り組んだ研究成果を発表し、全体討論によって内容を深めていく。

授業の到達目標

本演習では、研究テーマの設定や研究計画の立案、研究成果の発表などに取り組むことで体育科教育学の研究の手続きについての理解を深め、修士論文の作成へとつなげていくことをねらいとする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　研究のテーマ設定ならびに計画デザイン〈１〉
第３回　研究のテーマ設定ならびに計画デザイン〈２〉
第４回　研究のテーマ設定ならびに計画デザイン〈３〉
第５回　研究のテーマ設定ならびに計画デザイン〈４〉
第６回　研究のテーマ設定ならびに計画デザイン〈５〉
第７回　研究のテーマ設定ならびに計画デザイン〈６〉
第８回　研究のテーマ設定ならびに計画デザイン〈７〉
第９回　資料・データの分析とディスカッション〈１〉
第10回　資料・データの分析とディスカッション〈２〉
第11回　資料・データの分析とディスカッション〈３〉
第12回　資料・データの分析とディスカッション〈４〉
第13回　資料・データの分析とディスカッション〈５〉
第14回　資料・データの分析とディスカッション〈６〉
第15回　資料・データの分析とディスカッション〈７〉

教科書

必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

必要に応じて適宜紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト	50%	与えられた課題について演習での論議内容と関連づけながら深く考察しているかどうかを評価する。
平常点評価	50%	与えられたテーマについてレポートをまとめ、適切に報告できているかどうかを評価する。また、出席状況やディスカッションを含めた授業への積極性を評価する。

備考・関連URL

本演習の履修は２年次を原則とする。

授業科目名： 体育科教育学演習（2）B	担当教員名： 吉永　武史

授業の概要

本演習では、演習（1）における成果をベースに、体育科教育学に関する研究テーマを設定し、研究計画をデザインする。設定した研究テーマに沿って各自が取り組んだ研究成果を発表し、全体討論によって内容を深めていく。

授業の到達目標

本演習では、研究テーマの設定や研究計画の立案、研究成果の発表などに取り組むことで体育科教育学の研究の手続きについての理解を深め、修士論文の作成へとつなげていくことをねらいとする。

授業計画

第１回　研究の中間報告とディスカッション〈１〉
第２回　研究の中間報告とディスカッション〈２〉
第３回　研究の中間報告とディスカッション〈３〉
第４回　研究の中間報告とディスカッション〈４〉
第５回　研究の中間報告とディスカッション〈５〉
第６回　研究の中間報告とディスカッション〈６〉
第７回　研究の中間報告とディスカッション〈７〉
第８回　研究成果の発表とディスカッション〈１〉
第９回　研究成果の発表とディスカッション〈２〉
第10回　研究成果の発表とディスカッション〈３〉
第11回　研究成果の発表とディスカッション〈４〉
第12回　研究成果の発表とディスカッション〈５〉
第13回　研究成果の発表とディスカッション〈６〉
第14回　研究成果の発表とディスカッション〈７〉
第15回　総括

教科書

必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

必要に応じて適宜紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト	50%	与えられた課題について演習での論議内容と関連づけながら深く考察しているかどうかを評価する。
平常点評価	50%	与えられたテーマについてレポートをまとめ、適切に報告できているかどうかを評価する。また、出席状況やディスカッションを含めた授業への積極性を評価する。

備考・関連URL

本演習の履修は２年次を原則とする。

授業科目名： スポーツ教授学演習（2）A	担当教員名： 深見　英一郎

授業の概要

　演習（1）における成果をベースに、スポーツ教授学に関する研究テーマを設定し、研究計画をデザインする。設定した研究テーマに沿って各自が取り組んだ研究成果を発表し、全体討論によって内容を深める。

授業の到達目標

　本演習では、各種学会での発表予行、研究の進捗状況に関する定期的な発表・討論を行うとともに、修士論文を完成させることを目的とする。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　研究テーマの選び方・絞り方①
第３回　研究テーマの選び方・絞り方②
第４回　研究テーマの選び方・絞り方③
第５回　仮説の立て方と実験方法①
第６回　仮説の立て方と実験方法②
第７回　仮説の立て方と実験方法③
第８回　要旨、結論の書き方①
第９回　要旨、結論の書き方②
第10回　学術雑誌・書籍の検索
第11回　文献リストの作り方、引用の仕方と著作権
第12回　論文構成の考え方①
第13回　論文構成の考え方②
第14回　論文構成の考え方③
第15回　まとめ

教科書

　必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

　必要に応じて適宜紹介する。

成績評価方法

平常点評価　100%　研究課題に取り組む姿勢とその成果により評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ教授学演習（2）B	担当教員名： 深見　英一郎

授業の概要

　演習（1）における成果をベースに、スポーツ教授学に関する研究テーマを設定し、研究計画をデザインする。設定した研究テーマに沿って各自が取り組んだ研究成果を発表し、全体討論によって内容を深める。

授業の到達目標

　本演習では、各種学会での発表予行、研究の進捗状況に関する定期的な発表・討論を行うとともに、修士論文を完成させることを目的とする。

授業計画

第１回　研究の方向性の確認
第２回　修士論文・中間発表①
第３回　修士論文・中間発表②
第４回　効果的な図表の作成方法
第５回　プレゼンテーションの仕方
第６回　実証的データの集め方
第７回　学術誌への論文投稿の仕方
第８回　レフリー（査読者）レポートの書き方
第９回　資料・データの分析と討議①
第10回　資料・データの分析と討議②
第11回　資料・データの分析と討議③
第12回　研究成果の発表①
第13回　研究成果の発表②
第14回　研究成果の発表③
第15回　総括

教科書

　必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

　必要に応じて適宜紹介する。

成績評価方法

平常点評価　100%　研究課題に取り組む姿勢とその成果により評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ経営学演習（1）A	担当教員名： 木村　和彦

授業の概要

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を高めていくために、具体的には経営戦略や事業戦略、マーケティングと消費者行動、組織と人的資源マネジメントなどに焦点を当てケーススタディを行い、経営の改善に向けた提案を行う。

授業の到達目標

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を養う。

授業計画

第１回　オリエンテーション：本授業の進め方
第２回　ケーススタディの方法論（1）
第３回　ケーススタディの方法論（2）
第４回　ケーススタディの方法論（3）
第５回　ケーススタディの方法論（4）
第６回　方法論に関する小テスト
第７回　ケースの選定
第８回　SWOT 分析
第９回　SWOT 分析
第10回　経営戦略と事業戦略
第11回　経営戦略と事業戦略
第12回　マーケティングと消費者行動
第13回　マーケティングと消費者行動
第14回　組織と人的資源マネジメント
第15回　小テストと解説

教科書

参考文献

成績評価方法

試　　験　40%　２回の小テスト。
平常点評価　60%　出席と発表。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ経営学演習（1）B	担当教員名： 木村　和彦

授業の概要

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を高めていくために、具体的には経営戦略や事業戦略、マーケティングと消費者行動、組織と人的資源マネジメントなどに焦点を当てケーススタディを行い、経営の改善に向けた提案を行う。

授業の到達目標

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を養う。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　中間発表１
第３回　中間発表２
第４回　中間発表３
第５回　プレゼンテーションの方法１
第６回　プレゼンテーションの方法２
第７回　企画提案の方法１
第８回　企画提案の方法２
第９回　最終発表と討議１
第10回　最終発表と討議２
第11回　最終発表と討議３
第12回　最終発表と討議４
第13回　最終発表と討議５
第14回　プレゼンと企画提案に関する小テストと解説
第15回　総括

教科書

参考文献

成績評価方法

試　　験　20%　１回の小テスト。
平常点評価　80%　２回の発表。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康スポーツ論演習（1）A	中村　好男

授業の概要

本授業では、“スポーツを通じた健康増進”という社会的ニーズに応えるために、体力科学、運動生理学、栄養学などの＜身体の理論＞から、行動科学、社会マーケティングといった＜行動の理論＞、さらには、ビジネスマネジメント、マーケティングなどの＜社会組織の理論＞にわたるまで、様々な領域における基礎学問分野の知見を学習する。

授業の到達目標

・健康スポーツのマーケティングとマネジメントに関する基礎理論を理解すること。
・各自に与えられる課題に取り組んで調査結果をまとめること。

授業計画

第１回　健康スポーツのマーケティングとマネジメント
第２回　健康スポーツマーケティングの具体事例（1）フィットネス業界
第３回　健康スポーツマーケティングの具体事例（2）地域スポーツクラブ
第４回　健康スポーツマーケティングの具体事例（3）特定保健指導
第５回　健康スポーツマーケティングの具体事例（4）ウォーキング
第６回　健康スポーツマーケティングの具体事例（5）栄養指導
第７回　健康スポーツマネジメントの調査研究技法
第８回　健康スポーツに関する調査演習（1）フィットネス業界
第９回　健康スポーツに関する調査演習（2）地域スポーツクラブ
第10回　健康スポーツに関する調査演習（3）特定保健指導
第11回　健康スポーツに関する調査演習（4）ウォーキング
第12回　健康スポーツに関する調査演習（5）栄養指導
第13回　予備調査結果発表準備
第14回　予備調査結果発表
第15回　夏期休業中の個別研究推進に向けた課題提示と解説

教科書

特になし。個別に指示。

参考文献

特になし。個別に指示。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康スポーツ論演習（1）B	中村　好男

授業の概要

本授業では、“スポーツを通じた健康増進”という社会的ニーズに応えるために、体力科学、運動生理学、栄養学などの<身体の理論>から、行動科学、社会マーケティングといった<行動の理論>、さらには、ビジネスマネジメント、マーケティングなどの<社会組織の理論>にわたるまで、様々な領域における基礎学問分野の知見を学習するとともに、具体的課題について調査検証し、その成果を発表できるように取りまとめる。

授業の到達目標

・各自の取り組んだ課題を掘り下げて「論文」を執筆し、学術誌に投稿すること。
・上記の研究課題について学会で口頭発表できるように準備すること。

授業計画

第１回　夏期研究成果中間報告準備
第２回　夏期研究成果中間報告
第３回　夏期研究成果講評と課題解説
第４回　論文作成技法（１．構成）
第５回　論文作成技法（２．表記ならびに引用法）
第６回　論文作成技法（３．問題設定・仮説提示から研究目的まで）
第７回　論文作成技法（４．問題解決のための方法・結果の一貫性）
第８回　論文作成技法（５．データ分析）
第９回　論文作成技法（６．統計分析と検定）
第10回　論文作成技法（７．研究目的と考察の一貫性と結論）
第11回　プレゼンテーション技法（１）課題の設定
第12回　プレゼンテーション技法（２）聴衆の認知
第13回　プレゼンテーション技法（３）伝達技法
第14回　プレゼンテーション技法（４）評価技法
第15回　本研究に向けた取り組みと課題解説

教科書

なし。

参考文献

なし。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネスマネジメント論演習（1）A	担当教員名： 原田　宗彦

授業の概要

スポーツビジネスを取り巻く社会経済環境の把握と分析に取り組むとともに、クラブ事業やリーグ経営における価値創造と集客のためのマーケティングを、先行研究や先進的事例の中から学ぶとともに理論化を試みる。演習（1）は、原則として1年生の授業とする。

授業の到達目標

研究者としての基本的素養を身につけるとともに、修士論文に結びつく研究テーマを選ぶ。

授業計画

第1回　授業ガイダンス
第2回　スポーツビジネス概論1
第3回　スポーツビジネス概論2
第4回　グループワーク1
第5回　グループワーク2
第6回　グループワーク3
第7回　研究論文の読み方1
第8回　研究論文の読み方2
第9回　英語論文アブストラクト発表1
第10回　英語論文アブストラクト発表2
第11回　英語論文アブストラクト発表3
第12回　英語論文アブストラクト発表4
第13回　英語論文アブストラクト発表5
第14回　英語論文アブストラクト発表6
第15回　スポーツビジネス概論3

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　50%　ディスカッションへの貢献度を評価します。
そ　の　他　50%　プレゼンテーションのクオリティを評価します。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネスマネジメント論演習（1）B	担当教員名： 原田　宗彦

授業の概要

スポーツビジネスを取り巻く社会経済環境の把握と分析に取り組むとともに、クラブ事業やリーグ経営における価値創造と集客のためのマーケティングを、先行研究や先進的事例の中から学ぶとともに理論化を試みる。演習（1）は、原則として1年生の授業とする。

授業の到達目標

研究者としての基本的素養を身につけるとともに、修士論文に結びつく研究テーマを選ぶ。

授業計画

第1回　スポーツビジネス概論4
第2回　日本語論文アブストラクト発表1
第3回　日本語論文アブストラクト発表2
第4回　日本語論文アブストラクト発表3
第5回　日本語論文アブストラクト発表4
第6回　日本語論文アブストラクト発表5
第7回　日本語論文アブストラクト発表6
第8回　リサーチプロジェクト発表1
第9回　リサーチプロジェクト発表2
第10回　リサーチプロジェクト発表3
第11回　リサーチプロジェクト発表4
第12回　リサーチプロジェクト発表5
第13回　リサーチプロジェクト発表6
第14回　スポーツビジネス概論5
第15回　演習のまとめとレポート課題

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　50%　ディスカッションへの貢献度を評価します。
そ　の　他　50%　プレゼンテーションのクオリティを評価します。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツクラブビジネス論演習（1）A	担当教員名： 間野　義之

授業の概要

二年制修士の１年目の演習として、スポーツクラブビジネス関連研究の基礎を身につけることを目的とする。
具体的な先行研究の精読、調査研究の方法論の獲得をめざす。
学生参加型の演習とし、交代での発表と、全員での討論を行う。

授業の到達目標

スポーツクラブビジネスに関連した学術論文作成の基礎を身につけること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツクラブの歴史（1）
第３回　スポーツクラブの法律（1）
第４回　スポーツクラブの指導者（1）
第５回　スポーツクラブのマネジメントスタッフ（1）
第６回　スポーツクラブのボランティア（1）
第７回　スポーツクラブの活動拠点（1）
第８回　スポーツクラブのクラブハウス（1）
第９回　スポーツクラブの財源（1）
第10回　スポーツクラブの事業収支（1）
第11回　スポーツクラブのリスクマネジメント（1）
第12回　スポーツクラブのガバナンス（1）
第13回　スポーツクラブの今日的課題（1）
第14回　スポーツクラブの将来像（1）
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　担当パートのレポートで評価する。
平常点評価　50%　演習での発言で評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツクラブビジネス論演習（1）B	担当教員名： 間野　義之

授業の概要

二年制修士の１年目の演習として、スポーツクラブビジネス関連研究の基礎を身につけることを目的とする。
具体的な先行研究の精読、調査研究の方法論の獲得をめざす。
学生参加型の演習とし、交代での発表と、全員での討論を行う。

授業の到達目標

スポーツクラブビジネスに関連した学術論文作成の基礎を身につけること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツクラブの歴史（2）
第３回　スポーツクラブの法律（2）
第４回　スポーツクラブの指導者（2）
第５回　スポーツクラブのマネジメントスタッフ（2）
第６回　スポーツクラブのボランティア（2）
第７回　スポーツクラブの活動拠点（2）
第８回　スポーツクラブのクラブハウス（2）
第９回　スポーツクラブの財源（2）
第10回　スポーツクラブの事業収支（2）
第11回　スポーツクラブのリスクマネジメント（2）
第12回　スポーツクラブのガバナンス（2）
第13回　スポーツクラブの今日的課題（2）
第14回　スポーツクラブの将来像（2）
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　担当パートのレポートで評価する。
平常点評価　50%　演習での発言で評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ組織論演習（1）A	担当教員名： 作野　誠一

授業の概要

本演習は、スポーツ組織をめぐるさまざまな問題のなかから、各自がそれぞれの関心に応じて選択したテーマを取り上げ、関連研究の報告等を中心に議論を重ねるなかで、研究のテーマや方法にも関わる基本枠組の構築に向けた指導をおこなう。

授業の到達目標

本演習では、各自の関心に応じたテーマについて議論を尽くすなかで、現状認識、適切なテーマ設定、研究の意義、研究方法といった研究の基本枠組を自ら構築できるようになることをめざす。

授業計画

第１回　授業ガイダンス　前半ガイダンス
第２回　先行研究・参考文献の収集
第３回　先行研究の検討<１>
第４回　先行研究の検討<２>
第５回　研究テーマの基本的方向性
第６回　先行研究の検討<３>
第７回　先行研究の検討<４>
第８回　先行研究のまとめ方
第９回　先行研究の検討<５>
第10回　先行研究の検討<６>
第11回　研究方法の設計<１>　分析枠組
第12回　先行研究の検討<７>
第13回　先行研究の検討<８>
第14回　研究方法の設計<２>　概念と操作化
第15回　前半のまとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　出席、発表・報告、議論への参加などを総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は１年次の履修が望ましい。

授業科目名： スポーツ組織論演習（1）B	担当教員名： 作野　誠一

授業の概要

本演習は、スポーツ組織をめぐるさまざまな問題のなかから、各自がそれぞれの関心に応じて選択したテーマを取り上げ、関連研究の報告等を中心に議論を重ねるなかで、研究のテーマや方法にも関わる基本枠組の構築に向けた指導をおこなう。

授業の到達目標

本演習では、各自の関心に応じたテーマについて議論を尽くすなかで、現状認識、適切なテーマ設定、研究の意義、研究方法といった研究の基本枠組を自ら構築できるようになることをめざす。

授業計画

第１回　後半ガイダンス
第２回　先行研究の検討
第３回　先行研究の検討
第４回　データ分析〈１〉　量的データ
第５回　先行研究の検討
第６回　先行研究の検討
第７回　データ分析〈２〉　量的データ
第８回　先行研究の検討
第９回　先行研究の検討
第10回　データ分析〈３〉　SPSS の利用
第11回　先行研究の検討
第12回　先行研究の検討
第13回　先行研究の検討
第14回　後半のまとめ
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　出席、発表・報告、議論への参加などを総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は１年次の履修が望ましい。

授業科目名： スポーツビジネス・アドミニストレーション演習（1）A	担当教員名： 武藤　泰明

授業の概要

受講者は教科書を分担して講読・発表します。2018 年度前期はおもにハーバードビジネス（日本語版）からピックアップした論文を読んでいきます。

【予復習時間（60 時間、全学共通）のめやす】

1）文献事前購読、発表資料作成　10hs×5 回=50hs

2）発表資料の修正と提出　2hs×5 回=10hs

授業の到達目標

1）マネジメントを理解し、スポーツに応用できるようになること

2）バックグラウンドの学問領域に関する知見を形成すること

授業計画

第1回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年1月号からの pick up 論文
第2回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年2月号からの pick up 論文
第3回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年3月号からの pick up 論文
第4回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年4月号からの pick up 論文
第5回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年5月号からの pick up 論文
第6回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年6月号からの pick up 論文
第7回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年7月号からの pick up 論文
第8回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年8月号からの pick up 論文
第9回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年9月号からの pick up 論文
第10回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年10月号からの pick up 論文
第11回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年11月号からの pick up 論文
第12回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2017年12月号からの pick up 論文
第13回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2018年1月号からの pick up 論文
第14回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2018年2月号からの pick up 論文
第15回　履修者によるプレゼンテーションと議論:ハーバードビジネス誌2018年3月号からの pick up 論文

教科書

ハーバードビジネス　日本語版

教科書については実験実習費で購入・配布します。冊数が不足する場合はコピーを配布します。

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　発表による。

備考・関連 URL

授業科目名： スポーツビジネス・アドミニストレーション演習（1）B	担当教員名： 武藤　泰明

授業の概要

受講者は自分で選んだ論文ないし資料を指導教員の承認を経て購読・発表します。購読する論文・資料のうち少なくとも3分の1は英語のものを取り上げます。選定の対象となる論文のテーマについては各回のタイトルを参考にして下さい。

【予復習時間（60時間、全学共通）のめやす】

1）文献事前購読、発表資料作成　10hs×5回=50hs

2）発表資料の修正と提出　2hs×5回=10hs

授業の到達目標

1）スポーツマネジメントのホット・イシューを発見・理解する

2）基礎理論、原論についての知見を深める

3）文献検索方法に習熟する

4）自身の研究テーマを発見、あるいはレベルアップしていく

授業計画

第1回　履修者によるプレゼンテーションと議論（1）競技団体のガバナンス

第2回　履修者によるプレゼンテーションと議論（2）競技団体の財務と会計回示

第3回　履修者によるプレゼンテーションと議論（3）米国のプロスポーツ１．ＭＬＢ

第4回　履修者によるプレゼンテーションと議論（4）米国のプロスポーツ２．ＮＢＡ

第5回　履修者によるプレゼンテーションと議論（5）米国のプロスポーツ３．ＮＨＬ

第6回　履修者によるプレゼンテーションと議論（6）米国のプロスポーツ４．ＮＦＬ

第7回　履修者によるプレゼンテーションと議論（7）米国のプロスポーツ５．ＭＬＳ

第8回　履修者によるプレゼンテーションと議論（8）米国のプロスポーツ６．独立リーグ

第9回　履修者によるプレゼンテーションと議論（9）プロスポーツの企業価値の測定

第10回　履修者によるプレゼンテーションと議論（１０）欧州のプロバレーボール

第11回　履修者によるプレゼンテーションと議論（１１）欧州のプロバスケットボール

第12回　履修者によるプレゼンテーションと議論（１２）欧州のプロハンドボール

第13回　履修者によるプレゼンテーションと議論（１３）セイバーメトリクス

第14回　履修者によるプレゼンテーションと議論（１４）世界ランキング指標の解析

第15回　履修者によるプレゼンテーションと議論（１５）ゲーム理論とポスティングシステム

教科書

演習中に適宜示します。

参考文献

演習中に適宜示します。

成績評価方法

平常点評価　100%　発表による。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネスマーケティング演習（1）A	担当教員名： 松岡　宏高

授業の概要

本演習では、スポーツマーケティングをテーマとした研究論文を精読し、検討し、各受講生がその内容について発表する。そのプロセスを通して、当該領域の研究デザインや研究方法、およびこれまでに報告された知見について理解する。また最後には、受講生が各自のスポーツマーケティング領域の研究テーマの設定を行う。

授業の到達目標

スポーツマーケティングをテーマとした研究のデザインや研究方法、およびこれまでに報告された知見について理解を深め、さらに当該領域において重要な研究テーマを設定することができること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツマーケティング研究領域の確認
第３回　先行研究・参考資料の収集１
第４回　先行研究・参考資料の収集２
第５回　研究論文の読み方１
第６回　研究論文の読み方２
第７回　先行研究の検討
第８回　先行研究の検討
第９回　先行研究の検討
第10回　先行研究の検討
第11回　先行研究の検討
第12回　先行研究の検討
第13回　先行研究の検討
第14回　先行研究の検討
第15回　先行研究の検討

教科書

原田宗彦、藤本淳也、松岡宏高 「スポーツマーケティング」大修館書店、2018 年

参考文献

スポーツマネジメント研究、Sport Marketing Quarterly, Journal of Sport Management, Sport Management Review

成績評価方法

平常点評価　100% 出席・参加、プレゼンテーション、ディスカッション、小レポートによる評価。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネスマーケティング演習（1）B	担当教員名： 松岡　宏高

授業の概要

本演習では、スポーツマーケティングをテーマとした研究論文を精読し、検討し、各受講生がその内容について発表する。そのプロセスを通して、当該領域の研究デザインや研究方法、およびこれまでに報告された知見について理解する。また最後には、受講生が各自のスポーツマーケティング領域の研究テーマの設定を行う。

授業の到達目標

スポーツマーケティングをテーマとした研究のデザインや研究方法、およびこれまでに報告された知見について理解を深め、さらに当該領域において重要な研究テーマを設定することができること。

授業計画

第１回　先行研究のまとめ方
第２回　先行研究のまとめ方
第３回　先行研究の検討
第４回　先行研究の検討
第５回　先行研究の検討
第６回　先行研究の検討
第７回　先行研究の検討
第８回　先行研究の検討
第９回　先行研究の検討
第10回　先行研究の検討
第11回　研究テーマの検討
第12回　研究テーマの検討
第13回　研究テーマの発表
第14回　研究テーマの発表
第15回　まとめ

教科書

原田宗彦、藤本淳也、松岡宏高 「スポーツマーケティング」大修館書店、2018 年

参考文献

スポーツマネジメント研究、Sport Marketing Quarterly, Journal of Sport Management, Sport Management Review

成績評価方法

平常点評価　100% 出席・参加、プレゼンテーション、ディスカッション、小レポートによる評価。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネス法演習（1）A	担当教員名： 松本　泰介

授業の概要

スポーツ界の現場において、スポーツ仲裁やスポーツガバナンスの観点からの要請が強くなり、代表選考の場面、アンチ・ドーピングや暴力・セクハラ問題などのインテグリティの場面、スポーツ関係者への懲戒処分の場面、スポーツ仲裁の場面など、スポーツ法を意識しなければならない場面が非常に増えている。このような中から、受講者が選択したテーマに関する文献研究、研究報告を中心に、スポーツビジネス法研究の基礎を指導します。

授業の到達目標

スポーツビジネス法に関連した研究のために必要なテーマ設定、研究計画、研究方法などを身につけること。

授業計画

第１回　スポーツビジネス法概観
第２回　スポーツビジネスにおける興行契約をめぐるルール形成と契約交渉
第３回　スポーツビジネスにおけるスポンサー契約をめぐるルール形成と契約交渉
第４回　スポーツビジネスにおける放映権契約をめぐるルール形成と契約交渉
第５回　スポーツビジネスにおける商品化契約をめぐるルール形成と契約交渉
第６回　選手契約、移籍契約をめぐるルール形成と契約交渉
第７回　スポーツ団体における地位をめぐるルール形成（アマチュア資格、エージェント資格など）
第８回　スポーツ団体の組織運営とスポーツガバナンス
第９回　スポーツ団体の代表選手選考とスポーツガバナンス
第10回　スポーツ団体の懲戒処分、紛争解決とスポーツガバナンス
第11回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（アンチ・ドーピング、八百長）
第12回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（差別、暴力・セクハラ）
第13回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（事故）
第14回　スポーツビジネスと国際ルール
第15回　スポーツビジネスとスポーツ基本法

教科書

受講者が設定するテーマに応じて適宜紹介。

参考文献

日本スポーツ法学会編、「スポーツ法標準テキスト」（第２版）、エイデル研究所

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　最終的な研究報告の内容
平常点評価　50%　毎回の講義における事前準備、発表内容

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネス法演習（1）B	担当教員名： 松本　泰介

授業の概要

スポーツ界の現場において、スポーツ仲裁やスポーツガバナンスの観点からの要請が強くなり、代表選考の場面、アンチ・ドーピングや暴力・セクハラ問題などのインテグリティの場面、スポーツ関係者への懲戒処分の場面、スポーツ仲裁の場面など、スポーツ法を意識しなければならない場面が非常に増えている。このような中から、受講者が選択したテーマに関する文献研究、研究報告を中心に、スポーツビジネス法研究の基礎を指導します。

授業の到達目標

スポーツビジネス法に関連した研究のために必要なテーマ設定、研究計画、研究方法などを身につけること。

授業計画

第１回　スポーツビジネス法概観
第２回　スポーツビジネスにおける興行契約をめぐるルール形成と契約交渉
第３回　スポーツビジネスにおけるスポンサー契約をめぐるルール形成と契約交渉
第４回　スポーツビジネスにおける放映権契約をめぐるルール形成と契約交渉
第５回　スポーツビジネスにおける商品化契約をめぐるルール形成と契約交渉
第６回　選手契約、移籍契約をめぐるルール形成と契約交渉
第７回　スポーツ団体における地位をめぐるルール形成（アマチュア資格、エージェント資格など）
第８回　スポーツ団体の組織運営とスポーツガバナンス
第９回　スポーツ団体の代表選手選考とスポーツガバナンス
第10回　スポーツ団体の懲戒処分、紛争解決とスポーツガバナンス
第11回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（アンチ・ドーピング、八百長）
第12回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（差別、暴力・セクハラ）
第13回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（事故）
第14回　スポーツビジネスと国際ルール
第15回　スポーツビジネスとスポーツ基本法

教科書

受講者が設定するテーマに応じて適宜紹介。

参考文献

日本スポーツ法学会編、「スポーツ法標準テキスト」（第２版）、エイデル研究所

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　最終的な研究報告の内容
平常点評価　50%　毎回の講義における事前準備、発表内容

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ経営学演習（2）A	木村　和彦

授業の概要

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を高めていくために、具体的には質問紙調査等、スポーツ消費者を対象とした定量的な調査・分析を行い、それらの結果に基づいて事業戦略やプロダクト開発を中心として経営の改善に向けた提案を行う。

授業の到達目標

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を身につける。

授業計画

第１回　定量的調査・分析の方法（1）調査技法
第２回　定量的調査・分析の方法（2）調査技法
第３回　定量的調査・分析の方法（3）調査票の作成
第４回　定量的調査・分析の方法（4）調査票の作成
第５回　定量的調査・分析の方法（5）SPSS 基礎
第６回　定量的調査・分析の方法（6）SPSS 演習
第７回　小テストと解説
第８回　研究対象の選定
第９回　調査実習（1）調査目的
第10回　調査実習（2）調査計画１
第11回　調査実習（3）調査実施２
第12回　調査実習（4）調査実施３
第13回　調査実習（5）調査実施４
第14回　調査実習（6）調査実施５
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

試　　験　20%　小テスト１回。
平常点評価　80%　出席と調査実習。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ経営学演習（2）B	木村　和彦

授業の概要

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を高めていくために、具体的には質問紙調査等、スポーツ消費者を対象とした定量的な調査・分析を行い、それらの結果に基づいて事業戦略やプロダクト開発を中心として経営の改善に向けた提案を行う。

授業の到達目標

個別のスポーツ経営領域または経営体（事業所）を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を身につける。

授業計画

第１回　調査実習（７）集計・分析
第２回　調査実習（８）集計・分析
第３回　調査実習（９）まとめ
第４回　論文・レポートの書き方１
第５回　論文・レポートの書き方２
第６回　小テストと解説
第７回　発表資料の作成（１）
第８回　発表資料の作成（２）
第９回　発表資料の作成（３）
第10回　発表資料の作成（４）
第11回　最終発表と討議（１）
第12回　最終発表と討議（２）
第13回　最終発表と討議（３）
第14回　最終発表と討議（４）
第15回　修士論文の作成に向けて

教科書

参考文献

成績評価方法

試　　験　20%　小テスト１回。
平常点評価　80%　出席と調査実習。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康スポーツ論演習（2）A	中村　好男

授業の概要

本授業では、健康スポーツ論演習（1）での学習を踏まえて、「地域住民へのスポーツ振興」ならびに「健康増進の達成」という目標を実現するための実践的技法を確立することを目指す。具体的には、地域自治体、総合型地域スポーツクラブ、老人福祉施設等のさまざまな現場（フィールド）での実践的研究を行い、医療費削減や介護予防に資するためのプログラムの開発とその評価モデルの構築に加えて、地域社会における健康増進ならびに介護予防システムの構築を行う。また、研究成果を学界等に発表する技能を養う。

授業の到達目標

・各自の研究課題に関連した先行研究に精通すること。
・各自の取り組んだ課題について、修士論文計画書を策定すること。
・また、その調査検証の成果を学界に発表（口頭発表ならびに論文発表）すること。

授業計画

第１回　調査研究指導：休業中の研究進捗状況報告
第２回　先行文献講読指導（1）健康増進全般
第３回　先行文献講読指導（2）地域健康増進
第４回　先行文献講読指導（3）職域健康増進
第５回　先行文献講読指導（4）医療費削減
第６回　研究計画書の作成技法（1）論文の枠組み
第７回　研究計画書の作成技法（2）仮説検証と研究デザイン
第８回　健康スポーツに関する調査（1）フィットネス業界
第９回　健康スポーツに関する調査（2）地域スポーツクラブ
第10回　健康スポーツに関する調査（3）職域での健康施策
第11回　健康スポーツに関する調査（4）特定保健指導
第12回　健康スポーツに関する調査（5）身体活動促進施策
第13回　健康スポーツに関する調査（6）栄養指導
第14回　調査中間報告
第15回　プレゼンテーション技法（1）発見したことは何か

教科書

特になし。個別に指示。

参考文献

特になし。個別に指示。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康スポーツ論演習（2）B	中村　好男

授業の概要

本授業では、健康スポーツ論演習（1）での学習を踏まえて、「地域住民へのスポーツ振興」ならびに「健康増進の達成」という目標を実現するための実践的技法を確立することを目指す。具体的には、地域自治体、総合型地域スポーツクラブ、老人福祉施設等のさまざまな現場（フィールド）での実践的研究を行い、医療費削減や介護予防に資するためのプログラムの開発とその評価モデルの構築に加えて、地域社会における健康増進ならびに介護予防システムの構築を行う。また、研究成果を学界等に発表する技能を養う。

授業の到達目標

・各自の研究課題に関連した先行研究に精通すること。
・各自の取り組んだ課題について、修士論文計画書を策定すること。
・また、その調査検証の成果を学界に発表（口頭発表ならびに論文発表）すること。

授業計画

第１回　調査研究指導：休業中の研究進捗状況報告
第２回　先行文献講読指導（1）健康増進全般
第３回　先行文献講読指導（2）地域健康増進
第４回　先行文献講読指導（3）職域健康増進
第５回　先行文献講読指導（4）医療費削減
第６回　研究計画書の作成技法（1）論文の枠組み
第７回　研究計画書の作成技法（2）仮説検証と研究デザイン
第８回　健康スポーツに関する調査（1）フィットネス業界
第９回　健康スポーツに関する調査（2）地域スポーツクラブ
第10回　健康スポーツに関する調査（3）職域での健康施策
第11回　健康スポーツに関する調査（4）特定保健指導
第12回　健康スポーツに関する調査（5）身体活動促進施策
第13回　健康スポーツに関する調査（6）栄養指導
第14回　調査中間報告
第15回　プレゼンテーション技法（1）発見したことは何か

教科書

特になし。個別に指示。

参考文献

特になし。個別に指示。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネスマネジメント論演習（2）A	担当教員名： 原田　宗彦

授業の概要

スポーツクラブやプロリーグの経営的課題に取り組むとともに、スポーツベンチャーの起業に必要となる種々のビジネスモデルの構築と可能性について検証する。演習（2）は、原則として2年生の授業とする。

授業の到達目標

研究テーマに基づく修士論文を完成させる。

授業計画

第1回　授業ガイダンス
第2回　研究論文の書き方1
第3回　研究論文の書き方2
第4回　英語論文アブストラクト発表1
第5回　英語論文アブストラクト発表2
第6回　英語論文アブストラクト発表3
第7回　英語論文アブストラクト発表4
第8回　英語論文アブストラクト発表5
第9回　英語論文アブストラクト発表6
第10回　社会調査技法1（質的データと量的データについて）
第11回　社会調査技法2（データ処理法と統計）
第12回　修論テーマ発表1
第13回　修論テーマ発表2
第14回　修論テーマ発表3
第15回　日本語論文アブストラクト発表1

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　50%　ディスカッションへの貢献度を評価します。
そ　の　他　50%　プレゼンテーションのクオリティを評価します。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネスマネジメント論演習（2）B	担当教員名： 原田　宗彦

授業の概要

スポーツクラブやプロリーグの経営的課題に取り組むとともに、スポーツベンチャーの起業に必要となる種々のビジネスモデルの構築と可能性について検証する。演習（2）は、原則として２年生の授業とする。

授業の到達目標

研究テーマに基づく修士論文を完成させる。

授業計画

第１回　日本語論文アブストラクト発表２
第２回　日本語論文アブストラクト発表３
第３回　日本語論文アブストラクト発表４
第４回　日本語論文アブストラクト発表５
第５回　日本語論文アブストラクト発表６
第６回　修論中間発表１
第７回　修論中間発表２
第８回　修論中間発表３
第９回　研究論文の書き方４
第10回　SPSS 演習１
第11回　SPSS 演習２
第12回　SPSS 演習３
第13回　プレゼンテーション１
第14回　プレゼンテーション２
第15回　プレゼンテーション３

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　　50%　ディスカッションへの貢献度を評価します。
そ　の　他　　50%　プレゼンテーションのクオリティを評価します。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツクラブビジネス論演習（2）A	担当教員名： 間野　義之

授業の概要

二年制修士課程の２年目の演習として、スポーツクラブビジネス関連研究の専門性を高めることを目的とする。

各自の修士論文の研究計画や先行研究を発表し、批判的あるいは建設的な討議を行う。

授業の到達目標

スポーツクラブビジネス関連研究の学術論文を作成できること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツクラブの歴史（3）
第３回　スポーツクラブの法律（3）
第４回　スポーツクラブの指導者（3）
第５回　スポーツクラブのマネジメントスタッフ（3）
第６回　スポーツクラブのボランティア（3）
第７回　スポーツクラブの活動拠点（3）
第８回　スポーツクラブのクラブハウス（3）
第９回　スポーツクラブの財源（3）
第10回　スポーツクラブの事業収支（3）
第11回　スポーツクラブのリスクマネジメント（3）
第12回　スポーツクラブのガバナンス（3）
第13回　スポーツクラブの今日的課題（3）
第14回　スポーツクラブの将来像（3）
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　担当パートのレポートで評価する。
平常点評価　50%　演習での発言で評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツクラブビジネス論演習（2）B	担当教員名： 間野　義之

授業の概要

二年制修士課程の２年目の演習として、スポーツクラブビジネス関連研究の専門性を高めることを目的とする。

各自の修士論文の研究計画や先行研究を発表し、批判的あるいは建設的な討議を行う。

授業の到達目標

スポーツクラブビジネス関連研究の学術論文を作成できること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツクラブの歴史（4）
第３回　スポーツクラブの法律（4）
第４回　スポーツクラブの指導者（4）
第５回　スポーツクラブのマネジメントスタッフ（4）
第６回　スポーツクラブのボランティア（4）
第７回　スポーツクラブの活動拠点（4）
第８回　スポーツクラブのクラブハウス（4）
第９回　スポーツクラブの財源（4）
第10回　スポーツクラブの事業収支（4）
第11回　スポーツクラブのリスクマネジメント（4）
第12回　スポーツクラブのガバナンス（4）
第13回　スポーツクラブの今日的課題（4）
第14回　スポーツクラブの将来像（4）
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　担当パートのレポートで評価する。
平常点評価　50%　演習での発言で評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ組織論演習（2）A	担当教員名： 作野　誠一

授業の概要

本演習は、スポーツ組織に関する研究に対する課題報告と進捗状況の確認を軸としながら、その過程において、研究方法、調査方法、分析方法等について指導する。

授業の到達目標

本演習では、研究論文を作成するための研究方法について習熟するとともに、分析結果から有益な実践的示唆を導くことができるような鋭い分析力と深い洞察力の育成をめざす。

授業計画

第１回　授業ガイダンス　前半ガイダンス
第２回　先行研究・参考文献の収集
第３回　先行研究の検討〈１〉
第４回　先行研究の検討〈２〉
第５回　研究テーマの確認
第６回　先行研究の検討〈３〉
第７回　先行研究の検討〈４〉
第８回　先行研究のまとめ方
第９回　先行研究の検討〈５〉
第10回　先行研究の検討〈６〉
第11回　調査デザイン〈１〉　先行研究から質問紙へ
第12回　先行研究の検討〈７〉
第13回　先行研究の検討〈８〉
第14回　調査デザイン〈２〉　調査の実際
第15回　前半のまとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　出席、発表・報告、議論への参加などを総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は２年次の履修が望ましい。

授業科目名： スポーツ組織論演習（2）B	担当教員名： 作野　誠一

授業の概要

本演習は、スポーツ組織に関する研究に対する課題報告と進捗状況の確認を軸としながら、その過程において、研究方法、調査方法、分析方法等について指導する。

授業の到達目標

本演習では、研究論文を作成するための研究方法について習熟するとともに、分析結果から有益な実践的示唆を導くことができるような鋭い分析力と深い洞察力の育成をめざす。

授業計画

第１回　後半ガイダンス
第２回　先行研究の検討〈９〉
第３回　先行研究の検討〈10〉
第４回　データ分析〈１〉　記述統計
第５回　研究の進捗報告と討議〈１〉
第６回　研究の進捗報告と討議〈２〉
第７回　データ分析〈２〉　多変量解析
第８回　研究の進捗報告と討議〈３〉
第９回　研究の進捗報告と討議〈４〉
第10回　データ分析〈３〉　質的データの処理
第11回　研究の進捗報告と討議〈５〉
第12回　研究の進捗報告と討議〈６〉
第13回　研究の進捗報告と討議〈７〉
第14回　後半のまとめ
第15回　全体のまとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　出席、発表・報告、議論への参加などを総合的に評価する。

備考・関連URL

本演習は２年次の履修が望ましい。

授業科目名： スポーツビジネス・アドミニストレーション演習（2）A	担当教員名： 武藤　泰明

授業の概要

テキストの購読・学生によるプレゼンテーション、ディスカッションを行います。テキストは「質的研究入門」です（教科書の項参照）

授業の到達目標

質的研究について理解し、自身の研究で使えるようになること。

授業計画

第1回　第1部：フレームワーク　教員による解説とオリエンテーション
第2回　第2部 理論からテクストへ（1）履修者による発表と討議
第3回　第2部 理論からテクストへ（2）研究への適用可能性について
第4回　第3部 研究デザイン（1）履修者による発表と討議
第5回　第3部 研究デザイン（2）研究への適用可能性について
第6回　第4部 口頭データ（1）履修者による発表と討議
第7回　第4部 口頭データ（2）研究への適用可能性について
第8回　第5部 観察と媒介データ（1）履修者による発表と討議
第9回　第5部 観察と媒介データ（2）研究への適用可能性について
第10回　第6部 テクストから理論へ（1）履修者による発表と討議
第11回　第6部 テクストから理論へ（2）研究への適用可能性について
第12回　中間総括：質的研究を用いた先行研究のサーヴェイ（1）：履修者による発表と討議
第13回　中間総括：質的研究を用いた先行研究のサーヴェイ（2）：履修者による発表と討議
第14回　第7部 質的研究の基礎づけと執筆：履修者による発表と討議
第15回　第8部 質的研究:統合と展望：履修者による発表と討議

教科書

ウヴェ フリック　質的研究入門―“人間の科学”のための方法論　春秋社、２０１１

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　発表による。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネス・アドミニストレーション演習（2）B	担当教員名： 武藤　泰明

授業の概要

受講者は自分で選んだ論文ないし資料を指導教員の承認を経て購読・発表します。購読する論文・資料のうち少なくとも3分の1は英語のものを取り上げます。選定の対象となる論文のテーマについては各回のタイトルを参考にして下さい。

【予復習時間（60時間、全学共通）のめやす】

1）文献事前購読、発表資料作成　10hs×5回=50hs

2）発表資料の修正と提出　2hs×5回=10hs

授業の到達目標

1）スポーツマネジメントのホット・イシューを発見・理解する

2）基礎理論、原論についての知見を深める

3）文献検索方法に習熟する

4）自身の研究テーマを発見、あるいはレベルアップしていく

授業計画

第1回　履修者によるプレゼンテーションと議論（1）欧州サッカー1．イングランド

第2回　履修者によるプレゼンテーションと議論（2）欧州サッカー2．スペイン

第3回　履修者によるプレゼンテーションと議論（3）欧州サッカー3．フランス

第4回　履修者によるプレゼンテーションと議論（4）欧州サッカー4．ドイツ

第5回　履修者によるプレゼンテーションと議論（5）欧州サッカー5．イタリア

第6回　履修者によるプレゼンテーションと議論（6）欧州サッカー6．その他の国々

第7回　履修者によるプレゼンテーションと議論（7）欧州サッカー7．チャンピオンズリーグとヨーロッパリーグ

第8回　履修者によるプレゼンテーションと議論（8）米国のスタジアム・アリーナ

第9回　履修者によるプレゼンテーションと議論（9）欧州のスタジアム

第10回　履修者によるプレゼンテーションと議論（10）移籍システム1．欧州サッカー

第11回　履修者によるプレゼンテーションと議論（11）移籍システム2．米国MLB

第12回　履修者によるプレゼンテーションと議論（12）放送権料

第13回　履修者によるプレゼンテーションと議論（13）コミュニティ・デザイン

第14回　履修者によるプレゼンテーションと議論（14）マーチャンダイジング

第15回　履修者によるプレゼンテーションと議論（15）リーグ・システムの国際比較

教科書

演習中に適宜示します。

参考文献

演習中に適宜示します。

成績評価方法

平常点評価　100%　発表による。

備考・関連URL

とりあげるテーマについては設定した分野、あるいは途中段階での議論によって変わることがあります。換言すれば、学生は自分が関心を持つ領域の文献を演習に持ち込み議論することができます。

授業科目名： スポーツビジネスマーケティング演習（2）A	担当教員名： 松岡　宏高

授業の概要

本演習では、スポーツマーケティングをテーマとした研究の遂行に必要な適切な研究手法を学ぶ。その内容としては、研究の基礎知識、データ収集方法、データ分析方法、データ処理方法、そして統計ソフトの活用を含む。最後には、受講者自身がそれぞれの研究を計画し、実施することによって、その能力を高めることをめざす。

授業の到達目標

スポーツマーケティングをテーマとした研究の遂行に必要な研究手法を理解すること。さらに、各自のスポーツマーケティング関連の研究を計画し、実施することができること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツマーケティング研究領域の確認
第３回　研究に必要な基礎的知識
第４回　研究に必要な基礎的知識
第５回　研究に必要な基礎的知識
第６回　データ収集法
第７回　データ収集法
第８回　データ分析法
第９回　データ分析法
第10回　データ分析法
第11回　データ分析法
第12回　研究計画の作成
第13回　研究計画の作成
第14回　研究計画の発表
第15回　研究計画の発表

教科書

原田宗彦、藤本淳也、松岡宏高「スポーツマーケティング」大修館書店、2018 年
酒井隆「図解アンケート調査と統計解析がわかる本」日本能率協会マネジメントセンター、2003 年

参考文献

スポーツマネジメント研究、Sport Marketing Quarterly, Journal of Sport Management, Sport Management Review

成績評価方法

平常点評価　100%　出席・参加、プレゼンテーション、ディスカッション、小レポートによる評価。

備考・関連 URL

授業科目名： スポーツビジネスマーケティング演習（2）B	担当教員名： 松岡　宏高

授業の概要

本演習では、スポーツマーケティングをテーマとした研究の遂行に必要な適切な研究手法を学ぶ。その内容としては、研究の基礎知識、データ収集方法、データ分析方法、データ処理方法、そして統計ソフトの活用を含む。最後には、受講者自身がそれぞれの研究を計画し、実施することによって、その能力を高めることをめざす。

授業の到達目標

スポーツマーケティングをテーマとした研究の遂行に必要な研究手法を理解すること。さらに、各自のスポーツマーケティング関連の研究を計画し、実施することができること。

授業計画

第１回　データの収集
第２回　研究の進捗状況報告
第３回　研究の進捗状況報告
第４回　データ処理
第５回　データ処理
第６回　統計ソフトの活用
第７回　統計ソフトの活用
第８回　統計ソフトの活用
第９回　統計ソフトの活用
第10回　統計ソフトの活用
第11回　研究論文のまとめ方
第12回　研究論文のまとめ方
第13回　研究成果の発表
第14回　研究成果の発表
第15回　まとめ

教科書

原田宗彦、藤本淳也、松岡宏高「スポーツマーケティング」大修館書店、2018 年
酒井隆「図解アンケート調査と統計解析がわかる本」日本能率協会マネジメントセンター、2003 年

参考文献

スポーツマネジメント研究、Sport Marketing Quarterly, Journal of Sport Management, Sport Management Review

成績評価方法

平常点評価　100%　出席・参加、プレゼンテーション、ディスカッション、小レポートによる評価。

備考・関連 URL

授業科目名： スポーツビジネス法演習（2）A	担当教員名： 松本　泰介

授業の概要

スポーツ界の現場において、スポーツ仲裁やスポーツガバナンスの観点からの要請が強くなり、代表選考の場面、アンチ・ドーピングや暴力・セクハラ問題などのインテグリティの場面、スポーツ関係者への懲戒処分の場面、スポーツ仲裁の場面など、スポーツ法を意識しなければならない場面が非常に増えている。このような中から、受講者が選択したテーマに関する文献研究、研究報告を前提に、スポーツビジネス法に関する学術論文作成を指導します。

授業の到達目標

スポーツビジネス法に関するバランスある法的思考力を持った学術論文を作成すること。

授業計画

第１回　スポーツビジネス法概観
第２回　スポーツビジネスにおける興行契約をめぐるルール形成と契約交渉
第３回　スポーツビジネスにおけるスポンサー契約をめぐるルール形成と契約交渉
第４回　スポーツビジネスにおける放映権契約をめぐるルール形成と契約交渉
第５回　スポーツビジネスにおける商品化契約をめぐるルール形成と契約交渉
第６回　選手契約、移籍契約をめぐるルール形成と契約交渉
第７回　スポーツ団体における地位をめぐるルール形成（アマチュア資格、エージェント資格など）
第８回　スポーツ団体の組織運営とスポーツガバナンス
第９回　スポーツ団体の代表選手選考とスポーツガバナンス
第10回　スポーツ団体の懲戒処分、紛争解決とスポーツガバナンス
第11回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（アンチ・ドーピング、八百長）
第12回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（差別、暴力・セクハラ）
第13回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（事故）
第14回　スポーツビジネスと国際ルール
第15回　スポーツビジネスとスポーツ基本法

教科書

受講者が設定するテーマに応じて適宜紹介。

参考文献

日本スポーツ法学会編、「スポーツ法標準テキスト」（第２版）、エイデル研究所

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　最終的な学術論文の内容
平常点評価　50%　毎回の講義における事前準備、発表内容

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネス法演習（2）B	担当教員名： 松本　泰介

授業の概要

スポーツ界の現場において、スポーツ仲裁やスポーツガバナンスの観点からの要請が強くなり、代表選考の場面、アンチ・ドーピングや暴力・セクハラ問題などのインテグリティの場面、スポーツ関係者への懲戒処分の場面、スポーツ仲裁の場面など、スポーツ法を意識しなければならない場面が非常に増えている。このような中から、受講者が選択したテーマに関する文献研究、研究報告を前提に、スポーツビジネス法に関する学術論文作成を指導します。

授業の到達目標

スポーツビジネス法に関するバランスある法的思考力を持った学術論文を作成すること。

授業計画

第１回　スポーツビジネス法概観
第２回　スポーツビジネスにおける興行契約をめぐるルール形成と契約交渉
第３回　スポーツビジネスにおけるスポンサー契約をめぐるルール形成と契約交渉
第４回　スポーツビジネスにおける放映権契約をめぐるルール形成と契約交渉
第５回　スポーツビジネスにおける商品化契約をめぐるルール形成と契約交渉
第６回　選手契約、移籍契約をめぐるルール形成と契約交渉
第７回　スポーツ団体における地位をめぐるルール形成（アマチュア資格、エージェント資格など）
第８回　スポーツ団体の組織運営とスポーツガバナンス
第９回　スポーツ団体の代表選手選考とスポーツガバナンス
第10回　スポーツ団体の懲戒処分、紛争解決とスポーツガバナンス
第11回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（アンチ・ドーピング、八百長）
第12回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（差別、暴力・セクハラ）
第13回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（事故）
第14回　スポーツビジネスと国際ルール
第15回　スポーツビジネスとスポーツ基本法

教科書

受講者が設定するテーマに応じて適宜紹介。

参考文献

日本スポーツ法学会編、「スポーツ法標準テキスト」（第２版）、エイデル研究所

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　最終的な学術論文の内容
平常点評価　50%　毎回の講義における事前準備、発表内容

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動免疫学演習（1）A	赤間　高雄

授業の概要

運動による免疫機能の変化は、アスリートのコンディショニングや高齢者の健康保持への応用が考えられる。運動による免疫機能の変化のメカニズムを検討するために、免疫学の最新の知見を整理して理解する。また、アスリートのコンディショニングにおいて重要なアンチ・ドーピングについても最新の情報を整理する。免疫学およびアンチ・ドーピングに関する書籍や論文を分担講読して、相互に討論する。原則として１年生を対象とします。

授業の到達目標

各自の研究テーマ（アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、運動による免疫機能の変化のメカニズム、アンチ・ドーピングなど）について、重要な先行研究や文献の内容を理解して、各自の研究を推進する。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。
　　分担の決定
第２回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、細胞
　　担当者の発表と全体討論
第３回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、液性因子
　　担当者の発表と全体討論
第４回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、血液
　　担当者の発表と全体討論
第５回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、唾液
　　担当者の発表と全体討論
第６回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、縦断的研究
　　担当者の発表と全体討論
第７回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、横断的研究
　　担当者の発表と全体討論
第８回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、免疫指標の検討
　　担当者の発表と全体討論
第９回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、細胞
　　担当者の発表と全体討論
第10回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、液性因子
　　担当者の発表と全体討論
第11回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、唾液
　　担当者の発表と全体討論
第12回　アンチ・ドーピング、規則
　　担当者の発表と全体討論
第13回　アンチ・ドーピング、検査
　　担当者の発表と全体討論
第14回　アンチ・ドーピング、禁止物質
　　担当者の発表と全体討論
第15回　まとめと講評

教科書

なし

参考文献

各自が検索する

成績評価方法

試　　験		試験は実施しない。
レ ポ ー ト		レポートは実施しない。
平常点評価	100%	出席状況、各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容、および討論における発言の積極性と内容について、評価します。

備考・関連URL

１年生対象

授業科目名：	担当教員名：
運動免疫学演習（1） B	赤間　高雄

授業の概要

運動による免疫機能の変化は、アスリートのコンディショニングや高齢者の健康保持への応用が考えられる。運動による免疫機能の変化のメカニズムを検討するために、免疫学の最新の知見を整理して理解する。また、アスリートのコンディショニングにおいて重要なアンチ・ドーピングについても最新の情報を整理する。免疫学およびアンチ・ドーピングに関する書籍や論文を分担講読して、相互に討論する。原則として１年生を対象とします。

授業の到達目標

各自の研究テーマ（アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、運動による免疫機能の変化のメカニズム、アンチ・ドーピングなど）について、重要な先行研究や文献の内容を理解して、各自の研究を推進する。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。
　　分担の決定
第２回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、好中球、リンパ球、単球
　　担当者の発表と全体討論
第３回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、抗体、補体、サイトカイン
　　担当者の発表と全体討論
第４回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、血液検体、尿検体
　　担当者の発表と全体討論
第５回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、唾液検体、その他の検体
　　担当者の発表と全体討論
第６回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、身体活動量と免疫機能担当者の発表と全体討論
第７回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、運動トレーニングによる免疫機能の変化担当者の発表と全体討論
第８回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、QOL と免疫機能担当者の発表と全体討論
第９回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、好中球、リンパ球、単球担当者の発表と全体討論
第10回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、抗体、補体、サイトカイン担当者の発表と全体討論
第11回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、分泌型免疫グロブリンA、デフェンシン担当者の発表と全体討論
第12回　アンチ・ドーピング、禁止物質の治療目的使用担当者の発表と全体討論
第13回　アンチ・ドーピング、薬物治療における運動の影響担当者の発表と全体討論
第14回　アンチ・ドーピング、アンチ・ドーピング教育担当者の発表と全体討論
第15回　まとめと講評

教科書

なし。

参考文献

各自が検索する。

成績評価方法

試　　験		試験は実施しない。
レ ポ ー ト		レポートは実施しない。
平常点評価	100%	出席状況、各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容、および討論における発言の積極性と内容について、評価します。

備考・関連URL

１年生対象

授業科目名： スポーツ神経精神医科学演習（1）A	担当教員名： 西多　昌規

授業の概要

・睡眠・生体リズムとスポーツパフォーマンス（生体リズムによるパフォーマンス操作、ジェットラグ対策）
・身体運動が脳や心の働きに与える影響（運動による ADHD やうつ状態の改善）
・スポーツパフォーマンスに関連した脳機能（睡眠による運動記憶・技術の定着・向上、睡眠奪取・睡眠延長による高次脳機能変化）

などについて、招聘講師の講義、文献抄読および実験計画の検討などを行います。

授業の到達目標

・この分野に関わる知識を専門的なレベルのディスカッションが可能になることを目標に習得します。
・自分自身の研究の方向性を定めます。
・研究に関わる文献を検索し、読解し、研究の現状について把握します。
・自分の研究計画を立案し、研究計画のもつ発見性について理解します。

授業計画

第１回　【オリエンテーション】本講義の目的と概要
第２回　【講義】睡眠の生理学基礎
第３回　【文献抄読】睡眠が運動技術向上に与える影響
第４回　【文献抄読】生体リズムと運動パフォーマンス
第５回　【文献抄読】運動と高次脳機能
第６回　【研究計画検討】研究テーマの設定
第７回　【研究計画検討】実験の計画 対象と方法 (1)
第８回　【研究計画検討】実験の計画 対象と方法 (2)
第９回　【研究計画検討】実験の計画 対象と方法 (3)
第10回　【研究に必要な過去文献レビュー】先行研究の確認 (1)
第11回　【研究に必要な過去文献レビュー】先行研究の確認 (2)
第12回　【研究に必要な過去文献レビュー】実験方法の確認
第13回　【研究に必要な過去文献レビュー】統計解析方法の確認
第14回　【中間発表】実験計画のプレゼンテーション
第15回　【総合討論】春学期の総括と夏季休暇中の研究活動計画

教科書

特に指定しない

参考文献

講義のたびに紹介する

成績評価方法

試　　験　100%　最終日に口頭試問を行い、成績を評価します。

備考・関連 URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ神経精神医科学演習（1） B	西多　昌規

授業の概要

・睡眠・生体リズムとスポーツパフォーマンス（生体リズムによるパフォーマンス操作、ジェットラグ対策）
・身体運動が脳や心の働きに与える影響（運動による ADHD やうつ状態の改善）
・スポーツパフォーマンスに関連した脳機能（睡眠による運動記憶・技術の定着・向上、睡眠奪取・睡眠延長による高次脳機能変化）

などについて、招聘講師の講義、文献抄読および実験計画の検討などを行います。

授業の到達目標

・この分野に関わる知識を専門的なレベルのディスカッションが可能になることを目標に習得します。
・自分自身の研究の方向性を定めます。
・研究に関わる文献を検索し、読解し、研究の現状について把握します。
・自分の研究計画を立案し、研究計画のもつ発見性について理解します。

授業計画

第１回　【オリエンテーション】夏季休暇中の研究活動の総合討論と今後の方向
第２回　【研究進捗と討論】研究進捗と討論　テーマの方向性の検証
第３回　【研究進捗と討論】研究デザインの検討
第４回　【研究進捗と討論】実験方法
第５回　【研究進捗と討論】統計解析
第６回　【講義】睡眠と生体リズム
第７回　【研究に必要な過去文献レヴュー】考察に向けた関連分野の論文抄読
第８回　【研究に必要な過去文献レヴュー】方法・対象の修整
第９回　【研究に必要な過去文献レヴュー】解析方法の検討
第10回　【研究に必要な過去文献レヴュー】その他問題事項についての討論・検討
第11回　【講義】スポーツ精神医学専門講義
第12回　【講義】睡眠医学専門講義
第13回　【講義】スポーツ脳神経科学専門講義
第14回　【講義】招聘講義 スポーツと睡眠研究について
第15回　【総合総括】秋学期の総括と次年度の研究計画について

教科書

特に指定しません。

参考文献

講義のたびに紹介します。

成績評価方法

試　　験　100%　最終日に口頭試問を行い、成績を評価します。

備考・関連 URL

・日程内容は変更される場合があります。CourseN@vi で通知します。

授業科目名： スポーツ健康管理学演習（1）A	担当教員名： 坂本　静男

授業の概要

スポーツあるいは運動が一般人の健康管理に有用であることはよく知られた事実であり、また逆にスポーツ選手のコンディショニングを考えていく上では運動量や運動強度を考慮していくことが重要であることもよく知られたことである。実際的に呼気ガス分析を含めた運動負荷試験やスポーツ（運動）中のホルター心電図検査などを行ってその結果を検討したり、また多数の文献的検討を行い、安全になおかつ効果的にスポーツを実践していく上での注意点を知ることが、この演習の中心的課題である。

授業の到達目標

メタボリックシンドローム、内科的スポーツ障害を理解し、心電図（運動負荷試験、長時間心電図記録）を自身で行えるようになること、そして論文抄読のプレゼンテーションが優秀になることを目標とする。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　一般人の健康管理総論
第3回　一般人の健康管理各論－メタボリックシンドローム（1）
第4回　一般人の健康管理各論－メタボリックシンドローム（2）
第5回　一般人の健康管理各論－メタボリックシンドローム（3）
第6回　一般人の健康管理各論－メタボリックシンドローム（4）
第7回　一般人の健康管理各論－メタボリックシンドローム（5）
第8回　スポーツ選手の健康管理総論
第9回　スポーツ選手の健康管理各論－内科的急性スポーツ障害（1）
第10回　スポーツ選手の健康管理各論－内科的急性スポーツ障害（2）
第11回　スポーツ選手の健康管理各論－内科的急性スポーツ障害（3）
第12回　スポーツ選手の健康管理各論－内科的慢性スポーツ障害（1）
第13回　スポーツ選手の健康管理各論－内科的慢性スポーツ障害（2）
第14回　スポーツ選手の健康管理各論－内科的慢性スポーツ障害（3）
第15回　スポーツ選手の健康管理各論－内科的慢性スポーツ障害（4）

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　50%　研究計画および実施状況をみていく。
そ　の　他　50%　論文抄読のプレゼンテーションを考慮する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ健康管理学演習（1）B	担当教員名： 坂本　静男

授業の概要

スポーツあるいは運動が一般人の健康管理に有用であることはよく知られた事実であり、また逆にスポーツ選手のコンディショニングを考えていく上では運動量や運動強度を考慮していくことが重要であることもよく知られたことである。実際的に呼気ガス分析を含めた運動負荷試験やスポーツ（運動）中のホルター心電図検査などを行ってその結果を検討したり、また多数の文献的検討を行い、安全になおかつ効果的にスポーツを実践していく上での注意点を知ることが、この演習の中心的課題である。

授業の到達目標

メタボリックシンドローム、内科的スポーツ障害を理解し、心電図（運動負荷試験、長時間心電図記録）を自身で行えるようになること、そして論文抄読のプレゼンテーションが優秀になることを目標とする。

授業計画

第１回　安静時心電図記録の実際
第２回　潜水反射試験の実際
第３回　運動負荷試験の実際（1）
第４回　運動負荷試験の実際（2）
第５回　運動負荷試験の実際（3）
第６回　運動負荷試験の実際（4）
第７回　長時間心電図記録の実際（1）
第８回　長時間心電図記録の実際（2）
第９回　長時間心電図記録の実際（3）
第10回　スポーツ医学関連の文献抄読（1）
第11回　スポーツ医学関連の文献抄読（2）
第12回　スポーツ医学関連の文献抄読（3）
第13回　スポーツ医学関連の文献抄読（4）
第14回　スポーツ医学関連の文献抄読（5）
第15回　スポーツ医学関連の文献抄読（6）

教科書

なし

参考文献

抄読会では、適宜英文雑誌の原著論文を資料とする

成績評価方法

平常点評価　　50%　研究計画および実施状況をみていく。
そ　の　他　　50%　論文抄読のプレゼンテーションを考慮する。

備考・関連URL

授業科目名： 運動器スポーツ医学演習（1）A	担当教員名： 鳥居　俊

授業の概要

運動器スポーツ医学の最新の領域に関する文献抄読とこれに基づく討論を行う。

特に、運動器の発育発達に関する知見、若年期のスポーツ障害の発生メカニズムに関する知見を中心とした文献を扱う。

授業の到達目標

運動器の発育発達や若年者のスポーツ障害に関する海外の代表的な論文を読んで理解すること。論文の論点を明らかにし、独創性や問題点について整理できること。

授業計画

第１回　イントロダクション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。
第２回　発育途上の運動器の特性：抄読１、討論１
第３回　発育途上の運動器外傷：抄読２、討論２
第４回　発育途上の運動器障害（骨端症）：抄読３、討論３
第５回　発育途上の運動器障害（疲労骨折）：抄読４、討論４
第６回　発育途上の運動器障害（野球肘）：抄読５、討論５
第７回　発育途上の運動器障害（脊椎）：抄読６、討論６
第８回　若年期のスポーツ外傷（膝靭帯損傷）：抄読７、討論７
第９回　若年期のスポーツ外傷（足関節外傷）：抄読８、討論８
第10回　若年期のスポーツ外傷（脳震盪）：抄読９、討論９
第11回　若年期のスポーツ障害（腱障害）：抄読10、討論10
第12回　若年期のスポーツ障害（軟骨障害）：抄読11、討論11
第13回　発育途上・若年期のスポーツ外傷・障害の予防：抄読12、討論12
第14回　発育期・若年期のメディカルチェック：抄読13、討論13
第15回　春学期まとめ、総合討論

教科書

テーマごとに紹介

参考文献

各回に紹介

成績評価方法

試　　験	0%	試験は予定していません
レ ポ ー ト	80%	発表・討論資料をもとに評価します
平常点評価	20%	討論での質疑応答をもとに評価します。
そ の 他	0%	特になし

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動器スポーツ医学演習（1）B	鳥居　俊

授業の概要

運動器スポーツ医学の最新の領域に関する文献抄読とこれに基づく討論を行う。

特に、運動器の発育発達に関する知見、若年期のスポーツ障害の発生メカニズムに関する知見を中心とした文献を扱う。

授業の到達目標

運動器の発育発達や若年者のスポーツ障害に関する海外の代表的な論文を読んで理解すること。論文の論点を明らかにし、独創性や問題点について整理できること。

授業計画

第１回　若年期の腰部障害の病態：抄読14、討論14
第２回　若年期の腰部障害の評価：抄読15、討論15
第３回　若年期の腰部障害の予防：抄読16、討論16
第４回　若年期の膝障害の病態：抄読17、討論17
第５回　若年期の膝障害の評価：抄読18、討論18
第６回　若年期の膝障害の予防：抄読19、討論19
第７回　若年期の下腿障害の病態：抄読20、討論20
第８回　若年期の下腿障害の評価：抄読21、討論21
第９回　若年期の下腿障害の予防：抄読22、討論22
第10回　若年期の足部障害の病態：抄読23、討論23
第11回　若年期の足部障害の評価：抄読24、討論24
第12回　若年期の足部障害の予防：抄読25、討論25
第13回　若年期の肩障害の病態：抄読26、討論26
第14回　若年期の肩障害の評価、予防：抄読27、討論27
第15回　秋学期まとめ、総合討論

教科書

特になし

参考文献

各回に紹介します

成績評価方法

試　　験	0%	試験は予定していない
レ ポ ー ト	80%	発表資料や討論をもとに評価します
平常点評価	20%	質疑応答や討論の状況をもとに評価します
そ の 他	0%	特になし

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康行動科学演習（1）A	岡　浩一朗

授業の概要

本演習では、特に情報検索、論文読解、統計解析に関するトレーニングを行う。

授業の到達目標

健康づくり（特に、身体活動・運動の推進および座りすぎ対策）のための効果的な支援方策の最新情報や基礎知識に関するリテラシーを高め、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決能力を高めることを主な目標にする。

授業計画

第1回　演習の概要と進め方
第2回　情報検索トレーニング（1）国内の研究データベース活用法
第3回　情報検索トレーニング（2）海外の研究データベース活用法
第4回　情報検索トレーニング（3）様々な検索手法を知る
第5回　論文読解トレーニング（1）論文読解上の注意点
第6回　論文読解トレーニング（2）観察研究のポイント
第7回　論文読解トレーニング（3）実験研究のポイント
第8回　論文読解トレーニング（4）介入研究のポイント
第9回　論文読解トレーニング（5）システマティックレビュー、メタアナリシスのポイント
第10回　統計解析トレーニング（1）データの要約、基本統計量の算出および図表化
第11回　統計解析トレーニング（2）t 検定、カイ2乗検定、分散分析
第12回　統計解析トレーニング（3）重回帰分析、判別分析
第13回　統計解析トレーニング（4）ロジスティック回帰分析、比例ハザード分析
第14回　統計解析トレーニング（5）因子分析、クラスター分析、共分散構造分析
第15回　講評とレポート課題

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

特になし。

成績評価方法

レ ポ ー ト	20%	レポート内容20%
平常点評価	80%	平常点50%（主体的な授業参加度を重視する）、発表内容15%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢15%

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康行動科学演習（1）B	岡　浩一朗

授業の概要

本演習では、特にプレゼンテーションスキルおよびクリティカルリーディングに関するトレーニングを行う。

授業の到達目標

健康づくり（特に、身体活動・運動の推進および座りすぎ対策）のための効果的な支援方策の最新情報や基礎知識に関するリテラシーを高め、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決能力を高めることを主な目標にする。

授業計画

第1回　演習の進め方、プレゼンテーションスキルトレーニング（1）研究発表に望む際の基本的態度
第2回　プレゼンテーションスキルトレーニング（2）効果的な画像の使い方
第3回　プレゼンテーションスキルトレーニング（3）効果的な講演原稿の作り方・読み方
第4回　プレゼンテーションスキルトレーニング（4）分かりやすいポスターの作り方
第5回　プレゼンテーションスキルトレーニング（5）研究発表に対する質問への回答方法
第6回　クリティカルリーディングトレーニング（1）事実を読み取る力を育む
第7回　クリティカルリーディングトレーニング（2）理由を考える力をつける
第8回　クリティカルリーディングトレーニング（3）内容を考える力を育てる
第9回　クリティカルリーディングトレーニング（4）批判的に文章を読む力を育む
第10回　クリティカルリーディングトレーニング（5）情報を応用して読み解く力をつける
第11回　クリティカルリーディングトレーニング（6）意見を述べる力を育てる
第12回　クリティカルリーディングトレーニング（7）観察研究の例
第13回　クリティカルリーディングトレーニング（8）実験研究の例
第14回　クリティカルリーディングトレーニング（9）介入研究の例
第15回　講評とレポート課題（岡）

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

特になし。

成績評価方法

レポート	20%	レポート内容20%
平常点評価	80%	平常点50%（主体的な授業参加度を重視する）、発表内容15%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢15%

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ整形外科学演習（1）A	担当教員名： 金岡　恒治

授業の概要

　これまでに報告されてきた脊椎疾患・外傷に関する学術的論文の紹介とその評価。

　脊椎疾患・外傷に関する研究を始めるに当たって、これまで報告されている研究の手法・結果について熟知し、独自の新しい仮説を見いだす。

授業の到達目標

　整形外科的疾患の病態を理解し、新しく、独自の研究仮説を立案し、その立証方法を検討し、実践する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第３回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第４回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第５回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第６回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第７回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第８回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第９回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第10回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第11回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第12回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第13回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第14回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第15回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　学会発表内容・投稿論文により評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ整形外科学演習（1） B	金岡　恒治

授業の概要

これまでに報告されてきた脊椎疾患・外傷に関する学術的論文の紹介とその評価。

脊椎疾患・外傷に関する研究を始めるに当たって、これまで報告されている研究の手法・結果について熟知し、独自の新しい仮説を見いだす。

授業の到達目標

整形外科的疾患の病態を理解し、新しく、独自の研究仮説を立案し、その立証方法を検討し、実践する。

授業計画

第１回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第２回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第３回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第４回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第５回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第６回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第７回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第８回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第９回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第10回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第11回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第12回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第13回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第14回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索
第15回　関心領域の文献考察、研究仮説の立案、研究手法の模索

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　学会発表内容・投稿論文により評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
予防医学演習（1）A	鈴木　克彦

授業の概要

医科学研究の進歩に伴い、さまざまな疾患が遺伝要因と環境要因の相互作用により発症するという概念が具体化され、また多くの疾患の発症にストレスや免疫異常、炎症などが密接に関与することも明らかにされつつある。予防医学において、免疫学は「疫を免れる学」としてその基礎と応用の理解がきわめて重要である。生活習慣病の予防・治療については、運動・栄養の意義・役割に重点をおき、体力医学・介護予防との関連を理解できるように予防医学を学習する。予習としてCourse　N@viに掲載するコンテンツの受講を求めます。

授業の到達目標

前半は、まず免疫学の知識を体系的に習得しながら、それらがいかにライフスタイルと関連し、病気（おもに免疫関連疾患と感染症）の診断・治療・予防に応用されているかを理解する。後半は、今日の疾病構造は生活習慣病が主体であるため、分子細胞生物学や免疫学等の生命科学が、いかに疾病の診断や予防・治療に応用されているかを学ぶ。

授業計画

第１回　受講ガイダンス、免疫の基本概念、構成細胞
第２回　抗原と抗体、受容体
第３回　接着分子、サイトカイン、補体
第４回　感染免疫
第５回　運動・ストレスと免疫
第６回　運動によるサイトカイン応答に関する研究
第７回　免疫関連疾患
第８回　移植免疫
第９回　腫瘍免疫
第10回　白血病とその治療
第11回　免疫機能測定法
第12回　老化と生体防御
第13回　栄養と生体防御
第14回　運動と生体防御
第15回　白血球機能解析の新たな展開

教科書

なし

参考文献

森口覚、酒井徹、山本茂編『管理栄養士講座　感染と生体防御』建帛（ケンパク）社。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　平常点による評価

備考・関連URL

ある程度医学的知識を習得済みであることが望ましい。
関連URL：http://www.f.waseda.jp/katsu.suzu/syllabus.htm

授業科目名：	担当教員名：
予防医学演習（1） B	鈴木　克彦

授業の概要

医科学研究の進歩に伴い、さまざまな疾患が遺伝要因と環境要因の相互作用により発症するという概念が具体化され、また多くの疾患の発症にストレスや免疫異常、炎症などが密接に関与することも明らかにされつつある。予防医学において、免疫学は「疫を免れる学」としてその基礎と応用の理解がきわめて重要である。生活習慣病の予防・治療については、運動・栄養の意義・役割に重点をおき、体力医学・介護予防との関連を理解できるように予防医学を学習する。予習として Course　N@vi に掲載するコンテンツの受講を求めます。予習には 90 分～120 分かかると想定されます。

授業の到達目標

前半は、まず免疫学の知識を体系的に習得しながら、それらがいかにライフスタイルと関連し、病気（おもに免疫関連疾患と感染症）の診断・治療・予防に応用されているかを理解する。後半は、今日の疾病構造は生活習慣病が主体であるため、分子細胞生物学や免疫学等の生命科学が、いかに疾病の診断や予防・治療に応用されているかを学ぶ。

授業計画

第１回　人体の構造と機能
第２回　健康増進と栄養学
第３回　健康診断・臨床検査
第４回　メタボリックシンドローム
第５回　運動習慣と疾病予防
第６回　疫学・老化研究
第７回　健康寿命と老人保健
第８回　高齢者医療・介護予防
第９回　運動と免疫
第10回　激運動と生体防御
第11回　健康づくり政策
第12回　介護予防と地域福祉活動
第13回　運動とサイトカインの実験的研究
第14回　運動による生体のストレス応答と制御
第15回　まとめと課題

教科書

なし

参考文献

森口覚、酒井徹、山本茂編『管理栄養士講座　感染と生体防御』建帛（ケンパク）社。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　平常点による評価

備考・関連 URL

ある程度医学的知識を習得済みであることが望ましい。
関連 URL：http://www.f.waseda.jp/katsu.suzu/syllabus.htm

授業科目名： アスレティックトレーニング演習（1）A	担当教員名： 広瀬　統一

授業の概要

本講義では、論文抄読を通じて先行研究結果をまとめ、各自の研究テーマの学術的・臨床的位置づけを把握する。

授業の到達目標

〈1〉専門分野の英語論文を読み、内容を理解できる。
〈2〉自分の研究テーマの学術的・臨床的位置づけを説明できる。

授業計画

第1回　オリエンテーション（本講義の目的と概要説明）
第2回　研究運営と先行研究の関係1（研究方法の検討：観察研究）
第3回　研究運営と先行研究の関係2（研究方法の検討：比較研究）
第4回　英文輪読およびresearch questionの立て方1（研究背景の検討）
第5回　英文輪読およびresearch questionの立て方2（研究背景の書き方）
第6回　研究運営に関するディスカッション1（対象者の選定）
第7回　研究運営に関するディスカッション2（交絡変数の検討）
第8回　英文輪読と方法の妥当性・信頼性検討1（実験方法設定の基礎）
第9回　英文輪読と方法の妥当性・信頼性検討2（実験方法の妥当性検討）
第10回　英文輪読と方法の妥当性・信頼性検討3（実験方法の信頼性検討）
第11回　英文輪読と結果のまとめ方1（結果のまとめ方）
第12回　英文輪読と結果のまとめ方2（図表の書き方）
第13回　英文輪読と考察の構成1（考察の章立て）
第14回　英文輪読と考察の構成2（考察の書き方）
第15回　総括

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　100%　毎回のプレゼン内容とディスカッションへの参加姿勢で評価する

備考・関連URL

授業科目名： アスレティックトレーニング演習（1）B	担当教員名： 広瀬　統一

授業の概要

本講義では、論文抄読を通じて先行研究結果をまとめ、各自の研究テーマの学術的・臨床的位置づけを把握する。

授業の到達目標

〈1〉専門分野の英語論文を読み、内容を理解できる。
〈2〉自分の研究テーマの学術的・臨床的位置づけを説明できる。

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　論文抄読・ディスカッション1（研究の意義についての議論）
第3回　論文抄読・ディスカッション2（方法の信頼性と妥当性についての議論）
第4回　論文抄読・ディスカッション3（結果の信頼性と妥当性の議論）
第5回　論文抄読・ディスカッション4（考察の妥当性についての議論）
第6回　論文抄読・ディスカッション5（総括）
第7回　研究テーマに関する総説作成・ディスカッション1（総説の章立て検討）
第8回　研究テーマに関する総説作成・ディスカッション2（先行研究における方法のまとめ）
第9回　研究テーマに関する総説作成・ディスカッション3（先行研究での課題の検討）
第10回　研究テーマに関する総説作成・ディスカッション4（今後の研究方法の検討）
第11回　研究テーマに関する総説作成・ディスカッション5（総括）
第12回　中間発表1（研究方法・計画立案）
第13回　中間発表2（仮説の設定）
第14回　中間発表3（研究対象の選定）
第15回　まとめ

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　100%　毎回のプレゼン内容とディスカッションへの参加姿勢で評価する

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
骨格筋生理学演習（1）A	秋本　崇之

授業の概要

本講義では，骨格筋の生物学，生理学に関する研究成果を受講者自身が調査し，理解し，発表して，他の受講者と討論する事で，骨格筋に関する基礎的知識を整理する．この過程を通じて，将来の個人の研究テーマを明確にする．

授業の到達目標

・骨格筋生物学の基礎的知識（生理学，生化学，分子生物学）を整理して，理解する．
・授業を通じて，個人の研究テーマを明確にする．

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明する　輪読分担決定
第２回　骨格筋の構造と機能　担当者の発表および全員の討論
第３回　骨格筋の分化　担当者の発表および全員の討論
第４回　骨格筋線維タイプ担当者の発表および全員の討論
第５回　骨格筋収縮のメカニズム（興奮収縮連関）担当者の発表および全員の討論
第６回　骨格筋収縮のメカニズム（ミオシンモータータンパク質）担当者の発表および全員の討論
第７回　骨格筋の代謝（エネルギー代謝）担当者の発表および全員の討論
第８回　骨格筋の代謝（骨格筋の構造と代謝）担当者の発表および全員の討論
第９回　骨格筋の種間差　担当者の発表および全員の討論
第10回　骨格筋の発生と再生　担当者の発表および全員の討論
第11回　骨格筋の可塑性　担当者の発表および全員の討論
第12回　骨格筋可塑性を調節する Ca^{2+}シグナル　担当者の発表および全員の討論
第13回　骨格筋可塑性を調節するメカノトランスダクション　担当者の発表および全員の討論
第14回　骨格筋可塑性を調節する転写後制御　担当者の発表および全員の討論
第15回　骨格筋生物学の最近のトピック　担当者の発表および全員の討論

教科書

Schiaffino & Reggiani. Physiol Rev, 91, 1447-1531, 2011

参考文献

Essential 細胞生物学　原書４版

成績評価方法

平常点評価　100%　出席状況，各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容，および討論における発言の積極性と内容について，評価する．

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
骨格筋生理学演習（1）B	秋本　崇之

授業の概要

本講義では，骨格筋の生物学，生理学に関する研究成果を受講者自身が調査し，理解し，発表して，他の受講者と討論する事で，骨格筋に関する基礎的知識を整理する．この過程を通じて，将来の個人の研究テーマを明確にする．

授業の到達目標

・骨格筋生物学の基礎的知識（生理学，生化学，分子生物学）を整理して，理解する．
・授業を通じて，個人の研究テーマを明確にする．

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明する　輪読分担決定
第２回　骨格筋の構造と機能　担当者の発表および全員の討論
第３回　骨格筋の分化　担当者の発表および全員の討論
第４回　骨格筋線維タイプ担当者の発表および全員の討論
第５回　骨格筋収縮のメカニズム（興奮収縮連関）担当者の発表および全員の討論
第６回　骨格筋収縮のメカニズム（ミオシンモータータンパク質）担当者の発表および全員の討論
第７回　骨格筋の代謝（エネルギー代謝）担当者の発表および全員の討論
第８回　骨格筋の代謝（骨格筋の構造と代謝）担当者の発表および全員の討論
第９回　骨格筋の種間差　担当者の発表および全員の討論
第10回　骨格筋の発生と再生　担当者の発表および全員の討論
第11回　骨格筋の可塑性　担当者の発表および全員の討論
第12回　骨格筋可塑性を調節する Ca^{2+}シグナル　担当者の発表および全員の討論
第13回　骨格筋可塑性を調節するメカノトランスダクション　担当者の発表および全員の討論
第14回　骨格筋可塑性を調節する転写後制御　担当者の発表および全員の討論
第15回　骨格筋生物学の最近のトピック　担当者の発表および全員の討論　定期試験は実施しない。

教科書

Schiaffino & Reggiani. Physiol Rev, 91, 1447-1531, 2011

参考文献

Essential 細胞生物学　原書４版

成績評価方法

平常点評価　100%　出席状況，各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容，および討論における発言の積極性と内容について，評価する．

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動代謝学演習（1）A	宮下　政司

授業の概要

運動代謝学演習（1）では、質の高い修士論文を作成するために必要な知識と応用的発想力を習得することを目的とする。特に専門領域の研究を進める上で、研究の視座が狭まらないように健康スポーツ科学系の様々な角度から複眼的な視点に基づき、受講生が設定する研究テーマに対し、指導･助言を行う。

運動代謝学演習（1）A においては、問題の所在や研究の背景を構造的に捉えるため、国内外における研究動向の把握から先行研究の精読を通じて、研究課題を具体化し、それらを遂行するための論理的思考を身につける。

授業の到達目標

・修士論文の作成に必要な国内外における研究動向を把握し、論文の構成に対する理解を深め、要約した先行研究を他の受講生へ分かり易く発表することができるようになる。
・具体的な研究課題を設定し、遂行するために必要な問題の構造化、論理の構成および方法論的課題が理解できるようになる。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　卒業論文の紹介
第３回　学術情報の収集と探索
第４回　先行研究のレビュー①　エネルギー代謝
第５回　先行研究のレビュー②　糖質代謝
第６回　先行研究のレビュー③　脂質代謝
第７回　先行研究のレビュー④　タンパク質代謝
第８回　解決すべき研究課題の構造化
第９回　研究テーマと課題の設定
第10回　研究デザイン①　横断研究
第11回　研究デザイン②　介入研究
第12回　研究方法論①　実験プロトコル
第13回　研究方法論②　分析
第14回　研究デザイン・方法論の発表①　運動代謝とパフォーマンス
第15回　研究デザイン・方法論の発表②　運動代謝と健康

教科書

なし

参考文献

「代謝ガイドブック」霜田幸雄（著）株式会社技術評価論社, 東京, 2014 年
「Exercise Metabolism」 Hargreaves M and Lawrence S (Editors), Human Kinetics, 2005

成績評価方法

平常点評価　100%　発表・討議などにおける積極性や発表内容を総合的に評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動代謝学演習（1） B	宮下　政司

授業の概要

運動代謝学演習（1）では、質の高い修士論文を作成するために必要な知識と応用的発想力を習得することを目的とする。特に専門領域の研究を進める上で、研究の視座が狭まらないように健康スポーツ科学系の様々な角度から複眼的な視点に基づき、受講生が設定する研究テーマに対し、指導･助言を行う。

運動代謝学演習（1）B においては、これまで精読した国内外の先行研究に基づき、自らの研究の着眼点を明確にし、効率的に研究を進めるために必要な研究計画書を作成する。研究の進捗状況によっては、予備実験などの実施も視野に入れる。

授業の到達目標

・修士論文の作成に必要な国内外における研究動向を把握し、問題の構造化と論理を構成し、具体的な研究課題が設定できるようになる。
・研究課題を遂行するために必要な実験デザイン・方法論を理解し、予備データの収集と解析を進められるようになる。
・設定した研究テーマに基づき、効率的に研究を遂行するための研究計画書を作成し発表ができるようになる。

授業計画

第１回　研究テーマ発表①　運動とエネルギー代謝
第２回　研究テーマ発表②　運動と栄養代謝
第３回　先行研究のレビュー①　アスリートとエネルギー消費
第４回　先行研究のレビュー②　アスリートとエネルギー摂取
第５回　先行研究のレビュー③　生活習慣病予防のための運動
第６回　先行研究のレビュー④　生活習慣病予防のための身体活動
第７回　研究デザイン・方法論の計画発表①　アスリートに着目して
第８回　研究デザイン・方法論の計画発表②　健康増進に着目して
第９回　予備実験の実施に関わる進捗発表①　実験プロトコルの妥当性
第10回　予備実験の実施に関わる進捗発表②　図表の作成の仕方
第11回　予備実験の実施に関わる進捗発表③　統計解析の手法
第12回　予備実験の結果発表①　身体パフォーマンス/健康増進の視座から
第13回　予備実験の結果発表②　結果の解釈
第14回　研究計画の発表①　実験デザインおよびプロトコルに着目して
第15回　研究計画の発表②　評価項目と統計解析に着目して

教科書

なし

参考文献

「代謝ガイドブック」霜田幸雄（著）株式会社技術評価論社, 東京, 2014 年
「Exercise Metabolism」 Hargreaves M and Lawrence S (Editors), Human Kinetics, 2005

成績評価方法

平常点評価　100%　発表・討議などにおける積極性や発表内容を総合的に評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動器スポーツ機能解剖学演習（1）A	熊井　司

授業の概要

これまでに報告されているスポーツ機能解剖学に関する最新の学術論文を抄読し、その手法、考察内容についての評価とともに、新たな研究テーマを導き出すためのディスカッションを行う。主として運動器に発生する外傷・障害の発生メカニズムを考察するのに必要となる各運動器の構造、特性、機能、損傷と修復に関する論文を扱う。

授業の到達目標

運動器スポーツ外傷・障害の病態を機能解剖学的に理解し、新たな研究仮説を立案するために必要な基礎知識の修得を目標とする。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　スポーツ機能解剖学的学術論文：腱に関する論文1．腱の基本構造と特性
第3回　スポーツ機能解剖学的学術論文：腱に関する論文2．腱の走行と機能
第4回　スポーツ機能解剖学的学術論文：靭帯に関する論文1．靭帯の基本構造と特性
第5回　スポーツ機能解剖学的学術論文：靭帯に関する論文2．靭帯の解剖学的部位による機能の違い
第6回　スポーツ機能解剖学的学術論文：腱靭帯付着部に関する論文1．付着部の基本構造
第7回　スポーツ機能解剖学的学術論文：腱靭帯付着部に関する論文2．付着部の機能
第8回　スポーツ機能解剖学的学術論文：腱靭帯付着部に関する論文3．付着部の損傷と修復
第9回　スポーツ機能解剖学的学術論文：脂肪組織に関する論文　脂肪組織の機能
第10回　スポーツ機能解剖学的学術論文：筋に関する論文1．筋の基本構造と特性
第11回　スポーツ機能解剖学的学術論文：筋に関する論文2．筋の解剖学的部位による機能の違い
第12回　スポーツ機能解剖学的学術論文：骨・軟骨に関する論文1．骨・軟骨の基本構造と特性
第13回　スポーツ機能解剖学的学術論文：骨・軟骨に関する論文2．骨・軟骨の機能
第14回　スポーツ機能解剖学的学術論文：骨・軟骨に関する論文3．骨・軟骨の損傷と修復
第15回　総復習（到達度の確認を含む）

教科書

Orthopaedic Basic Science (AAOS), Netter’s Sports Medicine (Elsevier)

参考文献

最新のスポーツ医学系雑誌、General Anatomy and Musculoskeletal System (THIEME)

成績評価方法

平常点評価　100%　発表資料、討論内容を評価

備考・関連URL

授業科目名： 運動器スポーツ機能解剖学演習（1） B	担当教員名： 熊井　司

授業の概要

これまでに報告されているスポーツ機能解剖学に関する最新の学術論文を抄読し、その手法、考察内容についての評価とともに、新たな研究テーマを導き出すためのディスカッションを行う。主として運動器に発生する外傷・障害の発生メカニズムについて、各スポーツ種目別に機能解剖学的観点からアプローチした論文を扱う。

授業の到達目標

運動器スポーツ外傷・障害の病態を機能解剖学的に理解し、新たな研究仮説を立案するために必要な基礎知識の修得とともに、それらの情報をもとに論文作成の準備を行う。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　スポーツ機能解剖学的学術論文：サッカー1　障害特性および解剖学的危険因子
第3回　スポーツ機能解剖学的学術論文：サッカー2　治療介入とその効果
第4回　スポーツ機能解剖学的学術論文：ランニング1（長距離）障害特性および解剖学的危険因子
第5回　スポーツ機能解剖学的学術論文：ランニング2（短距離）障害特性および解剖学的危険因子
第6回　スポーツ機能解剖学的学術論文：ランニング3　治療介入とその効果
第7回　スポーツ機能解剖学的学術論文：バレーボール1　障害特性および解剖学的危険因子
第8回　スポーツ機能解剖学的学術論文：バレーボール2　治療介入とその効果
第9回　スポーツ機能解剖学的学術論文：テニス　障害特性および解剖学的危険因子、治療介入
第10回　スポーツ機能解剖学的学術論文：水泳　障害特性および解剖学的危険因子、治療介入
第11回　スポーツ機能解剖学的学術論文：体操・バレエ　障害特性および解剖学的危険因子、治療介入
第12回　スポーツ機能解剖学的学術論文：ラグビー　障害特性および解剖学的危険因子、治療介入
第13回　スポーツ機能解剖学的学術論文：野球　障害特性および解剖学的危険因子、治療介入
第14回　スポーツ機能解剖学的学術論文：自転車競技　障害特性および解剖学的危険因子、治療介入
第15回　総復習（到達度の確認を含む）

教科書

Orthopaedic Basic Science (AAOS), Netter’s Sports Medicine (Elsevier)

参考文献

最新のスポーツ医学系雑誌、続 運動機能障害症候群のマネジメント(医歯薬出版)

成績評価方法

平常点評価　100%　発表資料、討論内容を評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康教育学演習（1）A	石井　香織

授業の概要

本演習では、健康教育学分野における論文読解、統計解析に関するトレーニングを行う。

授業の到達目標

健康教育学分野の健康づくりのための支援方策に関する知識を深め、修士論文をまとめるためのスキルを身につけることを主な目標にする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　論文検索のポイント
第３回　論文読解１：論文読解のポイント・注意点
第４回　論文読解２：論文スタイルの特徴
第５回　論文読解３：パラグラフ構造
第６回　論文読解４：観察・実験研究
第７回　論文読解５：介入・レビュー研究
第８回　統計解析１：記述データ、分割表の検定、相関分析
第９回　統計解析２：分布中心の差の検定、ロジスティック回帰分析
第10回　統計解析３：平均値の差の検定(被験者間計画・被験者内計画)（反復測定含む)
第11回　統計解析４：回帰分析、重回帰分析
第12回　統計解析５：質的研究
第13回　統計解析６：統計解析の実際
第14回　統計解析７：健康教育学分野への適用
第15回　総復習（到達度の確認を含む）とレポート課題　定期試験は実施しない。

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

現代の医学的研究方法:質的・量的方法、ミクストメソッド、EBP（木原雅子、木原正博)、健康・スポーツ科学のための研究方法―研究計画の立て方とデータ処理方法（出村慎一）

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポート内容20%
平常点評価　80%　発表内容40%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢40%

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康教育学演習（1） B	石井　香織

授業の概要

本演習では、健康教育学分野における論文読解能力、プレゼンテーションスキルに関するトレーニングを行う。

授業の到達目標

健康教育学分野の健康づくりのための支援方策に関する知識を深め、修士論文をまとめるためのスキルを身につけることを主な目標にする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　論文読解１：記述的読解
第３回　論文読解２：論理的読解
第４回　論文読解３：批判的読解
第５回　論文読解４：読解した内容の応用
第６回　論文読解５：図表の読解
第７回　論文読解６：総合的読解
第８回　プレゼンテーション１：論理と主張
第９回　プレゼンテーション２：問題の提起
第10回　プレゼンテーション３：スライドの構造
第11回　プレゼンテーション４：図表の活用
第12回　プレゼンテーション５：研究発表時の基本的姿勢・マナー
第13回　プレゼンテーション６：質疑応答
第14回　プレゼンテーション７：ポスター作成技法
第15回　総復習（到達度の確認を含む）とレポート課題　定期試験は実施しない。

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆（中村 好一）

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポート内容20%
平常点評価　80%　発表内容40%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢40%

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動免疫学演習（2）A	赤間　高雄

授業の概要

各自の研究テーマ（アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、運動による免疫機能の変化のメカニズム、アンチ・ドーピングなど）に関して、研究目的、研究方法、結果と考察、関連した先行研究について発表し、相互に討論する。これによって、より質の高い研究をめざす。原則として２年生を対象とします。

授業の到達目標

各自の研究テーマ（アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、運動による免疫機能の変化のメカニズム、アンチ・ドーピングなど）について、関連した先行研究、各自の研究計画、および研究結果について発表し、討論できるようになる。また、他の発表者の発表内容について、適切な討論ができるようになる。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。
　　分担の決定
第２回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、先行研究
　　担当者の発表と全体討論
第３回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、先行研究
　　担当者の発表と全体討論
第４回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、先行研究
　　担当者の発表と全体討論
第５回　アンチ・ドーピング、先行研究
　　担当者の発表と全体討論
第６回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、現状の課題
　　担当者の発表と全体討論
第７回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、現状の課題
　　担当者の発表と全体討論
第８回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、現状の課題
　　担当者の発表と全体討論
第９回　アンチ・ドーピング、現状の課題
　　担当者の発表と全体討論
第10回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、研究目的
　　担当者の発表と全体討論
第11回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、研究目的
　　担当者の発表と全体討論
第12回　運動による免疫機能の変化のメカニズム、研究目的
　　担当者の発表と全体討論
第13回　アンチ・ドーピング、研究目的
　　担当者の発表と全体討論
第14回　免疫学的測定方法
　　担当者の発表と全体討論
第15回　総合討論

教科書

なし

参考文献

各自が検索する

成績評価方法

試　　験		試験は実施しない。
レ ポ ー ト		レポートは実施しない。
平常点評価	100%	出席状況、各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容、および討論における発言の積極性と内容について、評価します。

備考・関連URL

２年生対象

授業科目名：	担当教員名：
運動免疫学演習（2）B	赤間　高雄

授業の概要

各自の研究テーマ（アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、運動による免疫機能の変化のメカニズム、アンチ・ドーピングなど）に関して、研究目的、研究方法、結果と考察、関連した先行研究について発表し、相互に討論する。これによって、より質の高い研究をめざす。原則として２年生を対象とします。

授業の到達目標

各自の研究テーマ（アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用、高齢者の免疫機能を高めるための運動処方、運動による免疫機能の変化のメカニズム、アンチ・ドーピングなど）について、関連した先行研究、各自の研究計画、および研究結果について発表し、討論できるようになる。また、他の発表者の発表内容について、適切な討論ができるようになる。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。
　　分担の決定
第２回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用（研究方法）担当者の発表と全体討論
第３回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方（研究方法）担当者の発表と全体討論
第４回　運動による免疫機能の変化のメカニズム（研究方法）担当者の発表と全体討論
第５回　アンチ・ドーピング（研究方法）担当者の発表と全体討論
第６回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用（研究結果）担当者の発表と全体討論
第７回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方（研究結果）担当者の発表と全体討論
第８回　運動による免疫機能の変化のメカニズム（研究結果）担当者の発表と全体討論
第９回　アンチ・ドーピング（研究結果）担当者の発表と全体討論
第10回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用（考察）担当者の発表と全体討論
第11回　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方（考察）担当者の発表と全体討論
第12回　運動による免疫機能の変化のメカニズム（考察）担当者の発表と全体討論
第13回　アンチ・ドーピング（考察）担当者の発表と全体討論
第14回　アスリートのコンディショニングにおける免疫学的測定指標の応用（まとめ）
　　高齢者の免疫機能を高めるための運動処方（まとめ）
第15回　運動による免疫機能の変化のメカニズム（まとめ）
　　アンチ・ドーピング（まとめ）

教科書

なし。

参考文献

各自が検索する。

成績評価方法

試　　験		試験は実施しない。
レ ポ ー ト		レポートは実施しない。
平常点評価	100%	出席状況、各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容、および討論における発言の積極性と内容について、評価します。

備考・関連URL

２年生対象

授業科目名： スポーツ神経精神医科学演習（2）A	担当教員名： 西多　昌規

授業の概要

・睡眠・生体リズムとスポーツパフォーマンス（生体リズムによるパフォーマンス操作、ジェットラグ対策）
・身体運動が脳や心の働きに与える影響（運動による ADHD やうつ状態の改善）
・スポーツパフォーマンスに関連した脳機能（睡眠による運動記憶・技術の定着・向上、睡眠奪取・睡眠延長による高次脳機能変化）

などについて、招聘講師の講義、文献抄読および実験計画の検討などを行います。

授業の到達目標

・この分野に関わる知識を専門的なレベルのディスカッションが可能になることを目標に習得します。
・自分自身の研究の方向性を定めます。
・研究に関わる文献を検索し、読解し、研究の現状について把握します。
・自分の研究計画を立案し、研究計画のもつ発見性について理解します。

授業計画

第１回　【オリエンテーション】本講義の目的と概要
第２回　【講義】睡眠の生理学基礎
第３回　【文献抄読】睡眠が運動技術向上に与える影響
第４回　【文献抄読】生体リズムと運動パフォーマンス
第５回　【文献抄読】運動と高次脳機能
第６回　【研究計画検討】研究テーマの設定
第７回　【研究計画検討】実験の計画 対象と方法 (1)
第８回　【研究計画検討】実験の計画 対象と方法 (2)
第９回　【研究計画検討】実験の計画 対象と方法 (3)
第10回　【研究に必要な過去文献レビュー】先行研究の確認 (1)
第11回　【研究に必要な過去文献レビュー】先行研究の確認 (2)
第12回　【研究に必要な過去文献レビュー】実験方法の確認
第13回　【研究に必要な過去文献レビュー】統計解析方法の確認
第14回　【中間発表】実験計画のプレゼンテーション
第15回　【総合討論】春学期の総括と夏季休暇中の研究活動計画

教科書

特に指定しない

参考文献

講義のたびに紹介する

成績評価方法

試　　験　100%　最終日に口頭試問を行い、成績を評価します。

備考・関連 URL

授業科目名： スポーツ神経精神医科学演習（2）B	担当教員名： 西多　昌規

授業の概要

・睡眠・生体リズムとスポーツパフォーマンス（生体リズムによるパフォーマンス操作、ジェットラグ対策）
・身体運動が脳や心の働きに与える影響（運動による ADHD やうつ状態の改善）
・スポーツパフォーマンスに関連した脳機能（睡眠による運動記憶・技術の定着・向上、睡眠奪取・睡眠延長による高次脳機能変化）

などについて、招聘講師の講義、文献抄読および実験計画の検討などを行います。

授業の到達目標

・この分野に関わる知識を専門的なレベルのディスカッションが可能になることを目標に習得します。
・自分自身の研究の方向性を定めます。
・研究に関わる文献を検索し、読解し、研究の現状について把握します。
・自分の研究計画を立案し、研究計画のもつ発見性について理解します。

授業計画

第１回　【オリエンテーション】夏季休暇中の研究活動の総合討論と今後の方向
第２回　【研究進捗と討論】研究進捗と討論　テーマの方向性の検証
第３回　【研究進捗と討論】研究デザインの検討
第４回　【研究進捗と討論】実験方法
第５回　【研究進捗と討論】統計解析
第６回　【講義】睡眠と生体リズム
第７回　【研究に必要な過去文献レヴュー】考察に向けた関連分野の論文抄読
第８回　【研究に必要な過去文献レヴュー】方法・対象の修整
第９回　【研究に必要な過去文献レヴュー】解析方法の検討
第10回　【研究に必要な過去文献レヴュー】その他問題事項についての討論・検討
第11回　【講義】スポーツ精神医学専門講義
第12回　【講義】睡眠医学専門講義
第13回　【講義】スポーツ脳神経科学専門講義
第14回　【講義】招聘講義 スポーツと睡眠研究について
第15回　【総合総括】秋学期の総括と論文審査に向けて

教科書

特に指定しません。

参考文献

講義のたびに紹介します。

成績評価方法

試　　験　100%　最終日に口頭試問を行い、成績を評価します。

備考・関連 URL

・日程内容は変更される場合があります。CourseN@vi で通知します。

授業科目名： スポーツ健康管理学演習（2）A	担当教員名： 坂本　静男

授業の概要

スポーツを安全に、なおかつ効果的に行っていく上で、いかにスポーツのためのメディカルチェックが重要であるかを、文献的に、実際的に検討していく。その中でも特に重要な検査である運動負荷試験について、実際に運動負荷試験も経験し、自身のデータも含めて心電図学的、脂質代謝学的、呼吸生理学的観点から、学んでいくことになる。その他の検査に関しても、可能な限り実体験してその重要性に関して検討していくことになる。

授業の到達目標

演習（1）と同様であるが、修士論文を作成することが最終目標である。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　スポーツのためのメディカルチェック総論
第3回　スポーツのためのメディカルチェック各論－問診から安静時心電図まで
第4回　スポーツのためのメディカルチェック各論－運動負荷試験の実際（1）
第5回　スポーツのためのメディカルチェック各論－運動負荷試験の実際（2）
第6回　スポーツのためのメディカルチェック各論－運動負荷試験の実際（3）
第7回　スポーツのためのメディカルチェック各論－運動負荷試験の実際（4）
第8回　スポーツのためのメディカルチェック各論－心エコー図検査（1）
第9回　スポーツのためのメディカルチェック各論－心エコー図検査（2）
第10回　スポーツのためのメディカルチェック各論－心エコー図検査（3）
第11回　スポーツのためのメディカルチェック各論－POMS 検査（1）
第12回　スポーツのためのメディカルチェック各論－POMS 検査（2）
第13回　スポーツのためのメディカルチェック各論－POMS 検査（3）
第14回　スポーツのためのメディカルチェック各論－長時間心電図検査（1）
第15回　スポーツのためのメディカルチェック各論－長期間心電図検査（2）

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

レ ポ ー ト　90%　修士論文を評価する。
平常点評価　10%　抄読会でのプレゼンテーションの状況を考慮する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ健康管理学演習（2）B	担当教員名： 坂本　静男

授業の概要

スポーツを安全に、なおかつ効果的に行っていく上で、いかにスポーツのためのメディカルチェックが重要であるかを、文献的に、実際的に検討していく。その中でも特に重要な検査である運動負荷試験について、実際に運動負荷試験も経験し、自身のデータも含めて心電図学的、脂質代謝学的、呼吸生理学的観点から、学んでいくことになる。その他の検査に関しても、可能な限り実体験してその重要性に関して検討していくことになる。

授業の到達目標

演習（1）と同様であるが、修士論文を作成することが最終目標である。

授業計画

第1回　修士論文研究結果の検討（1）
第2回　修士論文研究結果の検討（2）
第3回　修士論文研究結果の検討（3）
第4回　修士論文研究結果の検討（4）
第5回　修士論文研究結果の検討（5）
第6回　スポーツ医学関連の文献抄読（1）
第7回　スポーツ医学関連の文献抄読（2）
第8回　スポーツ医学関連の文献抄読（3）
第9回　スポーツ医学関連の文献抄読（4）
第10回　修士論文研究結果の検討（6）
第11回　修士論文研究結果の検討（7）
第12回　修士論文研究結果の検討（8）
第13回　スポーツ医学関連の文献抄読（5）
第14回　スポーツ医学関連の文献抄読（6）
第15回　スポーツ医学関連の文献抄読（7）

教科書

なし

参考文献

抄読会では、適宜英文雑誌の原著論文を資料とする

成績評価方法

レ ポ ー ト　90%　修士論文を評価する。
平常点評価　10%　抄読会でのプレゼンテーションの状況を考慮する。

備考・関連URL

授業科目名： 運動器スポーツ医学演習（2）A	担当教員名： 鳥居　俊

授業の概要

　運動器は損傷や加齢によって変性し、機能の低下を招く。運動器損傷の治療やリハビリテーション、加齢による運動器変性疾患の運動療法に関する最新の論文を抄読、討論を行う。

授業の到達目標

　運動器の加齢や加齢に基づく運動器疾患に関する海外の代表的な論文を読んで理解すること。論文の論点を明らかにし、独創性や問題点について整理できること。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。
第２回　骨粗鬆症：抄読１、討論１
第３回　アスリートの骨量減少：抄読２、討論２
第４回　身体活動と骨代謝：抄読３、討論３
第５回　変形性関節症：抄読４、討論４
第６回　アスリートの軟骨損傷：抄読５、討論５
第７回　運動負荷と軟骨：抄読６、討論６
第８回　変形性腰椎症：抄読７、討論７
第９回　アスリートの腰痛：抄読８、討論８
第10回　アスリートの椎間板変性：抄読９、討論９
第11回　ｻﾙｺﾍﾟﾆｱ：抄読10、討論10
第12回　ロコモティブシンドローム：抄読11、討論11
第13回　長寿・高齢社会と身体活動：抄読12、討論12
第14回　生涯スポーツ：抄読13、討論13
第15回　春学期まとめ、総合討論

教科書

特になし

参考文献

適宜紹介

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　平常点による評価

備考・関連URL

授業科目名： 運動器スポーツ医学演習（2）B	担当教員名： 鳥居　俊

授業の概要

　運動器は損傷や加齢によって変性し、機能の低下を招く。運動器損傷の治療やリハビリテーション、加齢による運動器変性疾患の運動療法に関する最新の論文を抄読、討論を行う。

授業の到達目標

　運動器の加齢や加齢に基づく運動器疾患に関する海外の代表的な論文を読んで理解すること。論文の論点を明らかにし、独創性や問題点について整理できること。

授業計画

第１回　骨粗鬆症の運動療法１：抄読14、討論14
第２回　骨粗鬆症の運動療法２：抄読15、討論15
第３回　骨粗鬆症の運動療法３：抄読16、討論16
第４回　変形性関節症の運動療法１：抄読17、討論17
第５回　変形性関節症の運動療法２：抄読18、討論18
第６回　変形性関節症の運動療法３：抄読19、討論19
第７回　変形性腰椎症の運動療法１：抄読20、討論20
第８回　変形性腰椎症の運動療法２：抄読21、討論21
第９回　変形性腰椎症の運動療法３：抄読22、討論22
第10回　ｻﾙｺﾍﾟﾆｱの運動療法１：抄読23、討論23
第11回　ｻﾙｺﾍﾟﾆｱの運動療法２：抄読24、討論24
第12回　認知症と身体活動：抄読25、討論25
第13回　精神疾患と運動療法：抄読26、討論26
第14回　発がん予防と身体活動：抄読27、討論27
第15回　秋学期まとめ、総合討論

教科書

特になし

参考文献

適宜紹介する

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　平常点による評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康行動科学演習（2）A	岡　浩一朗

授業の概要

本演習では、観察研究および実験研究に関して、ダイレクトリーディング（特定の領域を決めて、一定数の論文を読み、その要旨を説明する）を中心に演習を進める。

授業の到達目標

健康づくり（特に、身体活動・運動の推進および座りすぎ対策）のための効果的な支援方策の最新情報に関するリテラシーを高め、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決能力を高めることを主な目標にする。

授業計画

第1回　演習の概要と進め方（岡）
第2回　ダイレクトリーディングトレーニング（1）観察研究読解の基本的な考え方「STROBE 声明」
第3回　ダイレクトリーディングトレーニング（2）観察研究における「緒言」の読解
第4回　ダイレクトリーディングトレーニング（3）観察研究における「方法」の読解
第5回　ダイレクトリーディングトレーニング（4）観察研究における「結果」の読解
第6回　ダイレクトリーディングトレーニング（5）観察研究における「考察」の読解
第7回　ダイレクトリーディングトレーニング（6）観察研究における「図表」の読解
第8回　ダイレクトリーディングトレーニング（7）観察研究における「論文全体」読解のまとめ
第9回　ダイレクトリーディングトレーニング（8）実験研究における「緒言」の読解
第10回　ダイレクトリーディングトレーニング（9）実験研究における「方法」の読解
第11回　ダイレクトリーディングトレーニング（10）実験研究における「結果」の読解
第12回　ダイレクトリーディングトレーニング（11）実験研究における「考察」の読解
第13回　ダイレクトリーディングトレーニング（12）実験研究における「図表」の読解
第14回　ダイレクトリーディングトレーニング（13）実験研究における「論文全体」読解のまとめ
第15回　講評とレポート課題

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

特になし。

成績評価方法

レポート	20%	レポート内容20%
平常点評価	80%	平常点50%（主体的な授業参加度を重視する）、発表内容15%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢15%

備考・関連URL

授業科目名： 健康行動科学演習（2）B	担当教員名： 岡　浩一朗

授業の概要

本演習では、介入研究およびシステマティックレビュー・メタアナリシスに関して、ダイレクトリーディング（特定の領域を決めて、一定数の論文を読み、その要旨を説明する）トレーニングを中心に演習を進める。

授業の到達目標

健康づくり（特に、身体活動・運動の推進および座りすぎ対策）のための効果的な支援方策の最新情報に関するリテラシーを高め、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決能力を高めることを主な目標にする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方（岡）
第２回　ダイレクトリーディングトレーニング（14）介入研究読解の基本的な考え方「CONSORT 声明」
第３回　ダイレクトリーディングトレーニング（15）介入研究における「緒言」の読解
第４回　ダイレクトリーディングトレーニング（16）介入研究における「方法」の読解
第５回　ダイレクトリーディングトレーニング（17）介入研究における「結果」の読解
第６回　ダイレクトリーディングトレーニング（18）介入研究における「考察」の読解
第７回　ダイレクトリーディングトレーニング（19）介入研究における「図表」の読解
第８回　ダイレクトリーディングトレーニング（20）介入研究における「論文全体」読解のまとめ
第９回　ダイレクトリーディングトレーニング（21）システマティックレビュー・メタアナリシスの基本的な考え方「PRISMA 声明」
第10回　ダイレクトリーディングトレーニング（22）システマティックレビュー・メタアナリシスにおける「緒言」の読解
第11回　ダイレクトリーディングトレーニング（23）システマティックレビュー・メタアナリシスにおける「方法」の読解
第12回　ダイレクトリーディングトレーニング（24）システマティックレビュー・メタアナリシスにおける「結果」の読解
第13回　ダイレクトリーディングトレーニング（25）システマティックレビュー・メタアナリシスにおける「考察」の読解
第14回　ダイレクトリーディングトレーニング（26）システマティックレビュー・メタアナリシスにおける「図表」の読解
第15回　講評とレポート課題

教科書

特になし。

参考文献

特になし。

成績評価方法

レ ポ ー ト	20%	レポート内容20%
平常点評価	80%	平常点50%（主体的な授業参加度を重視する）、発表内容15%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢15%

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ整形外科学演習（2）A	担当教員名： 金岡　恒治

授業の概要

　脊椎疾患・外傷に関する研究を行うのに必要な、脊椎の動作解析、筋電解析、画像評価、統計解析などの研究手法を紹介する。

　演習（1）で得た独自の仮説を検証するための手法を明確にし、研究を実施する。

授業の到達目標

　整形外科的疾患の病態を理解し、新しく、独自の研究仮説を立案し、その立証方法を検討し、実践する。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　研究手法の確立、実施
第3回　研究手法の確立、実施
第4回　研究手法の確立、実施
第5回　研究手法の確立、実施
第6回　研究手法の確立、実施
第7回　研究手法の確立、実施
第8回　研究手法の確立、実施
第9回　研究手法の確立、実施
第10回　研究手法の確立、実施
第11回　研究手法の確立、実施
第12回　研究手法の確立、実施
第13回　研究手法の確立、実施
第14回　研究手法の確立、実施
第15回　研究手法の確立、実施

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　学会発表内容・投稿論文により評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ整形外科学演習（2）B	担当教員名： 金岡　恒治

授業の概要

　脊椎疾患・外傷に関する研究を行うのに必要な、脊椎の動作解析、筋電解析、画像評価、統計解析などの研究手法を紹介する。

　演習（1）で得た独自の仮説を検証するための手法を明確にし、研究を実施する。

授業の到達目標

　整形外科的疾患の病態を理解し、新しく、独自の研究仮説を立案し、その立証方法を検討し、実践する。

授業計画

第1回　研究手法の確立、実施
第2回　研究手法の確立、実施
第3回　研究手法の確立、実施
第4回　研究手法の確立、実施
第5回　研究手法の確立、実施
第6回　研究手法の確立、実施
第7回　研究手法の確立、実施
第8回　研究手法の確立、実施
第9回　研究手法の確立、実施
第10回　研究手法の確立、実施
第11回　研究手法の確立、実施
第12回　研究手法の確立、実施
第13回　研究手法の確立、実施
第14回　研究手法の確立、実施
第15回　研究手法の確立、実施

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　学会発表内容・投稿論文により評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
予防医学演習（2）A	鈴木　克彦

授業の概要

予防医学的問題の実態把握や原因究明には、分子・細胞レベル（生化学、免疫学等)、個体レベル（生理学、診断学等）や集団レベル（疫学等）などのさまざまなアプローチが必要となる。そこで予防演習（2）では、問題解決型の研究能力の養成に取り組む。予習としてCourse　N@viに掲載するコンテンツの受講を求めます。

授業の到達目標

主に英文論文を用いて分析・評価法に関する資料や論文を発表し討論することによって健康事象の分析・評価のあり方を学ぶ。また、各自の研究テーマに関する文献や進捗状況を報告することによって、修士論文の作成を支援する。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　英文論文の発表と討論
第３回　英文論文の発表と討論
第４回　英文論文の発表と討論
第５回　英文論文の発表と討論
第６回　英文論文の発表と討論
第７回　英文論文の発表と討論
第８回　英文論文の発表と討論
第９回　英文論文の発表と討論
第10回　英文論文の発表と討論
第11回　英文論文の発表と討論
第12回　英文論文の発表と討論
第13回　英文論文の発表と討論
第14回　英文論文の発表と討論
第15回　前半まとめ

教科書

なし

参考文献

逐次紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　文書作成能力による評価
平常点評価　50%　出席状況による評価

備考・関連URL

予防医学演習（1）を履修済みであることが望ましい。
関連URL：http://www.f.waseda.jp/katsu.suzu/syllabus.htm

授業科目名：	担当教員名：
予防医学演習（2）B	鈴木　克彦

授業の概要

予防医学的問題の実態把握や原因究明には、分子・細胞レベル（生化学、免疫学等)、個体レベル（生理学、診断学等）や集団レベル（疫学等）などのさまざまなアプローチが必要となる。そこで予防医学演習（2）では、問題解決型の研究能力の養成に取り組む。予習としてCourse　N@vi に掲載するコンテンツの受講を求めます。

授業の到達目標

主に英文論文を用いて分析・評価法に関する資料や論文を発表し、討論することによって健康事象の分析・評価のあり方を学ぶ。また、各自の研究テーマに関する文献や進捗状況を報告することによって、修士論文の作成を支援する。

授業計画

第１回　英文論文の発表と討論
第２回　英文論文の発表と討論
第３回　英文論文の発表と討論
第４回　英文論文の発表と討論
第５回　英文論文の発表と討論
第６回　英文論文の発表と討論
第７回　英文論文の発表と討論
第８回　英文論文の発表と討論
第９回　英文論文の発表と討論
第10回　英文論文の発表と討論
第11回　英文論文の発表と討論
第12回　英文論文の発表と討論
第13回　英文論文の発表と討論
第14回　英文論文の発表と討論
第15回　後半まとめ

教科書

参考文献

逐次紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　出席、課題等による評価

備考・関連URL

関連URL：http://www.f.waseda.jp/katsu.suzu/syllabus.htm

授業科目名： アスレティックトレーニング演習（2）A	担当教員名： 広瀬　統一

授業の概要

本講義では、アスレティックトレーニングに関する英語論文抄読を通じて、各自の研究活動や臨床活動を発展させる。

授業の到達目標

〈1〉当該分野の英語論文・著書を読み、内容を理解できる。
〈2〉自分の研究テーマの学術的・臨床的位置づけを説明できる。

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　論文・著書抄読1－1（研究背景の発表）
第3回　論文・著書抄読1－2（研究背景の妥当性に関する議論）
第4回　論文・著書抄読1－3（研究方法の発表）
第5回　論文・著書抄読1－4（研究方法の妥当性に関する議論）
第6回　論文・著書抄読1－5（統計方法の発表）
第7回　論文・著書抄読1－6（統計方法の信頼性に関する議論）
第8回　論文・著書抄読1－7（考察の発表）
第9回　論文・著書抄読1－8（考察の妥当性に関する議論）
第10回　中間発表1－1（論文・著書抄読内容の理解）
第11回　中間発表1－2（論文・著書抄読内容の分析）
第12回　中間発表1－3（論文・著書抄読内容の発展）
第13回　論文・著書抄読内容の発展1－1（自身の論文への応用）
第14回　論文・著書抄読内容の発展1－2（総括）
第15回　まとめ

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　100%　毎回のプレゼン内容とディスカッションへの参加姿勢で評価する

備考・関連URL

授業科目名： アスレティックトレーニング演習（2）B	担当教員名： 広瀬　統一

授業の概要

本講義では、アスレティックトレーニングに関する英語論文抄読を通じて、各自の研究活動や臨床活動を発展させる。

授業の到達目標

〈1〉当該分野の英語論文・著書を読み、内容を理解できる。
〈2〉自分の研究テーマの学術的・臨床的位置づけを説明できる。

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　論文・著書抄読２－１（研究背景の発表）
第3回　論文・著書抄読２－２（研究背景の妥当性に関する議論）
第4回　論文・著書抄読２－３（研究方法の発表）
第5回　論文・著書抄読２－４（研究方法の妥当性に関する議論）
第6回　論文・著書抄読２－５（統計方法の発表）
第7回　論文・著書抄読２－６（統計方法の信頼性に関する議論）
第8回　論文・著書抄読２－７（考察の発表）
第9回　論文・著書抄読２－８（考察の妥当性に関する議論）
第10回　中間発表２－１（論文・著書抄読内容の理解）
第11回　中間発表２－２（論文・著書抄読内容の分析）
第12回　中間発表２－３（論文・著書抄読内容の発展）
第13回　論文・著書抄読内容の発展２－１（自身の論文への応用）
第14回　論文・著書抄読内容の発展２－２（総括）
第15回　まとめ

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　100%　毎回のプレゼン内容とディスカッションへの参加姿勢で評価する

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
骨格筋生理学演習（2）A	秋本　崇之

授業の概要

本講義では，骨格筋の生物学，生理学に関する研究成果を受講者自身が調査し，理解し，発表して，他の受講者と討論する事で，骨格筋に関する基礎的知識を整理する．この過程を通じて，将来の個人の研究テーマを明確にする．

授業の到達目標

・骨格筋生物学の基礎的知識（生理学，生化学，分子生物学）を整理して，理解する．
・授業を通じて，個人の研究テーマを明確にする．

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明する　輪読分担決定
第２回　骨格筋の構造と機能　担当者の発表および全員の討論
第３回　骨格筋の分化　担当者の発表および全員の討論
第４回　骨格筋線維タイプ担当者の発表および全員の討論
第５回　骨格筋収縮のメカニズム（興奮収縮連関）担当者の発表および全員の討論
第６回　骨格筋収縮のメカニズム（ミオシンモータータンパク質）担当者の発表および全員の討論
第７回　骨格筋の代謝（エネルギー代謝）担当者の発表および全員の討論
第８回　骨格筋の代謝（骨格筋の構造と代謝）担当者の発表および全員の討論
第９回　骨格筋の種間差　担当者の発表および全員の討論
第10回　骨格筋の発生と再生　担当者の発表および全員の討論
第11回　骨格筋の可塑性　担当者の発表および全員の討論
第12回　骨格筋可塑性を調節する Ca^{2+}シグナル　担当者の発表および全員の討論
第13回　骨格筋可塑性を調節するメカノトランスダクション　担当者の発表および全員の討論
第14回　骨格筋可塑性を調節する転写後制御　担当者の発表および全員の討論
第15回　骨格筋生物学の最近のトピック　担当者の発表および全員の討論　定期試験は実施しない。

教科書

Schiaffino & Reggiani. Physiol Rev, 91, 1447-1531, 2011

参考文献

Essential 細胞生物学　原書４版

成績評価方法

平常点評価　100%　出席状況，各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容，および討論における発言の積極性と内容について，評価する．

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
骨格筋生理学演習（2）B	秋本　崇之

授業の概要

本講義では，骨格筋の生物学，生理学に関する研究成果を受講者自身が調査し，理解し，発表して，他の受講者と討論する事で，骨格筋に関する基礎的知識を整理する．この過程を通じて，将来の個人の研究テーマを明確にする．

授業の到達目標

・骨格筋生物学の基礎的知識（生理学，生化学，分子生物学）を整理して，理解する．
・授業を通じて，個人の研究テーマを明確にする．

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明する　輪読分担決定
第２回　骨格筋の構造と機能　担当者の発表および全員の討論
第３回　骨格筋の分化　担当者の発表および全員の討論
第４回　骨格筋線維タイプ担当者の発表および全員の討論
第５回　骨格筋収縮のメカニズム（興奮収縮連関）担当者の発表および全員の討論
第６回　骨格筋収縮のメカニズム（ミオシンモータータンパク質）担当者の発表および全員の討論
第７回　骨格筋の代謝（エネルギー代謝）担当者の発表および全員の討論
第８回　骨格筋の代謝（骨格筋の構造と代謝）担当者の発表および全員の討論
第９回　骨格筋の種間差　担当者の発表および全員の討論
第10回　骨格筋の発生と再生　担当者の発表および全員の討論
第11回　骨格筋の可塑性　担当者の発表および全員の討論
第12回　骨格筋可塑性を調節する Ca^{2+}シグナル　担当者の発表および全員の討論
第13回　骨格筋可塑性を調節するメカノトランスダクション　担当者の発表および全員の討論
第14回　骨格筋可塑性を調節する転写後制御　担当者の発表および全員の討論
第15回　骨格筋生物学の最近のトピック　担当者の発表および全員の討論　定期試験は実施しない。

教科書

Schiaffino & Reggiani. Physiol Rev, 91, 1447-1531, 2011

参考文献

Essential 細胞生物学　原書４版

成績評価方法

平常点評価　100%　出席状況，各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容，および討論における発言の積極性と内容について，評価する．

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動代謝学演習（2）A	宮下　政司

授業の概要

運動代謝学演習 (2) では、運動代謝学演習 (1) で得られた知識や技術に沿って、各自の研究テーマと関連した論文（主に英文）を精読し、討議を通して研究方法や結果の解釈に関する知識をより深めことで修士論文の作成を支援する。

運動代謝学演習 (2) A では、研究計画に基づき、計画的に修士論文を作成することに主眼を置く。また予備実験を省みて、本実験の実施を視野に入れ、計画的に研究を進める。

授業の到達目標

・研究計画に基づき、計画的に研究を遂行することができるようになる。
・研究目的を達成するために必要なデータを科学的な手法を用いて計画的に収集することができるようになる。

授業計画

第１回　研究計画の発表①　エネルギー代謝
第２回　先行研究のレビュー①　エネルギー代謝
第３回　研究計画の発表②　脂質代謝
第４回　先行研究のレビュー②　脂質代謝
第５回　研究デザイン・方法論の再検討①
第６回　先行研究のレビュー③　糖質代謝
第７回　研究デザイン・方法論の再検討②
第８回　修士論文の構想発表①　研究デザイン
第９回　先行研究のレビュー④　タンパク質代謝
第10回　修士論文の構想発表②　測定評価項目
第11回　本実験の実施に関わる進捗発表①　先行研究との比較
第12回　本実験の実施に関わる進捗発表②　副次項目との関連
第13回　本実験の実施に関わる進捗発表③　論文のまとめ方についての方向性の確認
第14回　データ分析・統計解析の検討①　単純解析
第15回　データ分析・統計解析の検討②　層別解析

教科書

なし。

参考文献

「代謝ガイドブック」霜田幸雄（著）株式会社技術評価論社, 東京, 2014 年
「Exercise Metabolism」 Hargreaves M and Lawrence S (Editors), Human Kinetics, 2005

成績評価方法

平常点評価　100%　発表・討議などにおける積極性や発表内容を総合的に評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動代謝学演習（２） B	宮下　政司

授業の概要

運動代謝学演習 (2) では、運動代謝学演習 (1) で得られた知識や技術に沿って、各自の研究テーマと関連した論文（主に英文）を精読し、討議を通して研究方法や結果の解釈に関する知識をより深めことで修士論文の作成を支援する。

運動代謝学演習 (2) B では、先行研究（主に英文）を引き続き精読し討議することで、質の高い修士論文を作成するための技法や発表を通し伝え方を学ぶ。

授業の到達目標

・修士論文の作成に必要な研究力（執筆能力や発表能力）を身につけることができるようになる。

授業計画

第１回　本実験の実施に関わる進捗発表①　得られた数値を図表化
第２回　先行研究のレビュー①　健康との関連
第３回　本実験の実施に関わる進捗発表②　緒言の記載について
第４回　先行研究のレビュー②　身体パフォーマンスとの関連
第５回　本実験の実施に関わる進捗発表③　考察の記載について
第６回　先行研究のレビュー③　疲労・コンディショニングとの関連
第７回　データ分析・統計解析の再検討①　分散分析
第８回　先行研究のレビュー④　栄養代謝との関連
第９回　データ分析・統計解析の再検討②　混合モデル
第10回　本実験の結果発表①　主評価項目（分析モデル別）
第11回　本実験の結果発表②　副次評価項目（分析モデル別）
第12回　修士論文の構想発表の再検討①　緒言・方法
第13回　修士論文の構想発表の再検討②　結果・考察
第14回　研究成果の発表と討議①　プレゼン技法
第15回　研究成果の発表と討議②　社会への還元

教科書

なし。

参考文献

「代謝ガイドブック」霜田幸雄（著）株式会社技術評価論社, 東京, 2014 年
「Exercise Metabolism」 Hargreaves M and Lawrence S (Editors), Human Kinetics, 2005

成績評価方法

平常点評価　100%　発表・討議などにおける積極性や発表内容を総合的に評価する。

備考・関連URL

授業科目名： 運動器スポーツ機能解剖学演習（2）A	担当教員名： 熊井　司

授業の概要

　これまでのスポーツ機能解剖学に関する最新の学術論文を抄読し、その手法、考察内容について評価するとともに、演習（1）で修得した知識をもとに新たな仮説を立案し、検証する。

　主として関心のある解剖学的領域、スポーツ種目領域についての機能解剖学的研究を行う。

授業の到達目標

　運動器スポーツ外傷・障害の病態を機能解剖学的に理解した上で新たな研究仮説を立案し、その検証を行い、成果を学会に発表する。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　スポーツ機能解剖学的研究の立案：関心領域（運動器）の模索　基礎研究（解剖学的、生物学的または生体力学的など）
第3回　スポーツ機能解剖学的研究の立案：関心領域（スポーツ種目）の模索　疫学的研究
第4回　スポーツ機能解剖学的研究の立案：関心領域（スポーツ種目）の模索　介入研究
第5回　スポーツ機能解剖学的研究：仮説の構築　研究背景
第6回　スポーツ機能解剖学的研究：仮説の構築　各手法の選択
第7回　スポーツ機能解剖学的研究：仮説の構築　検証へのプロセスの具体案
第8回　中間報告会
第9回　スポーツ機能解剖学的研究：実施に向けた準備　最終的な資料収集と整理
第10回　スポーツ機能解剖学的研究：実施に向けた準備　対象の確保について
第11回　スポーツ機能解剖学的研究：実施に向けた準備　必要となる器材の確認
第12回　スポーツ機能解剖学的研究：実施に向けた準備　期間、日程、人材などの確認
第13回　スポーツ機能解剖学的研究：予備実験またはトライアル　可能性の確認
第14回　スポーツ機能解剖学的研究：予備実験またはトライアル２　効率化の模索
第15回　総復習（中間報告会を兼ねる）

教科書

　Orthopaedic Basic Science (AAOS),　Netter’s Sports Medicine (Elsevier)

参考文献

　最新のスポーツ医学系雑誌、 続 運動機能障害症候群のマネジメント(医歯薬出版)

成績評価方法

平常点評価　100%　発表資料、討論内容、学会発表・論文を評価

備考・関連URL

授業科目名： 運動器スポーツ機能解剖学演習（2） B	担当教員名： 熊井　司

授業の概要

　これまでのスポーツ機能解剖学に関する最新の学術論文を抄読し、その手法、考察内容について評価するとともに、演習（1）で修得した知識をもとに演習（IIA）で立案した新たな仮説を実施・検証し考察を行う。

　主として関心のある解剖学的領域、スポーツ種目領域についての機能解剖学的研究を行う。

授業の到達目標

　運動器スポーツ外傷・障害の病態を機能解剖学的に理解した上で新たな研究仮説を立案し、その検証を行う。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　スポーツ機能解剖学的研究：実施　問題点の抽出　対象（母集団）について
第３回　スポーツ機能解剖学的研究：実施　問題点の抽出　手法について
第４回　スポーツ機能解剖学的研究：実施　問題点の抽出　考察について
第５回　スポーツ機能解剖学的研究：実施　問題点の抽出　対応策、改善策についての準備
第６回　スポーツ機能解剖学的研究：改善策の実施　問題点の抽出
第７回　スポーツ機能解剖学的研究：改善策の実施　検証
第８回　中間報告会（これまでの結果を整理）
第９回　スポーツ機能解剖学的研究：結果の解析１　正確性（精度）、再現性について
第10回　スポーツ機能解剖学的研究：結果の解析２　仮説との妥当性について
第11回　スポーツ機能解剖学的研究：結果の解析３　仮説の修正、再構築の必要性
第12回　スポーツ機能解剖学的研究：考察　部分的な考察から全体的な論理へ
第13回　スポーツ機能解剖学的研究：考察　仮説の最終的な妥当性の検討
第14回　スポーツ機能解剖学的研究：学会報告準備（ACSM, JOSKAS, 日本臨床スポーツ医学会など）
第15回　総復習（最終的な到達度の確認を含む）

教科書

　Orthopaedic Basic Science (AAOS), Netter’s Sports Medicine (Elsevier)

参考文献

　最新のスポーツ医学系雑誌、 続 運動機能障害症候群のマネジメント(医歯薬出版)

成績評価方法

平常点評価　100% 発表資料、討論内容、学会発表・論文を評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康教育学演習（2）A	石井　香織

授業の概要

本演習では、健康教育学分野における観察研究および実験研究に関する論文を批判的に読み解き、その内容を説明することを主とし進める。

授業の到達目標

健康教育学分野の健康づくりのための支援方策に関する知識を深め、修士論文をまとめるためのスキルを身につけることを主な目標にする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　観察研究１：観察研究読解の基本
第３回　観察研究２：背景の読解
第４回　観察研究３：方法の読解
第５回　観察研究４：結果の読解
第６回　観察研究５：考察の読解
第７回　観察研究６：総合的読解
第８回　実験研究１：実験研究読解の基本
第９回　実験研究２：背景の読解
第10回　実験研究３：方法の読解
第11回　実験研究４：結果の読解
第12回　実験研究５：考察の読解
第13回　実験研究６：総合的読解
第14回　図表の読解
第15回　総復習（到達度の確認を含む）とレポート課題　定期試験は実施しない。

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆（中村 好一）

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポート内容20%
平常点評価　80%　発表内容40%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢40%

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康教育学演習（2）B	石井　香織

授業の概要

本演習では、健康教育学分野における介入研究およびレビュー研究に関する論文を批判的に読み解き、その内容を説明することを主とし進める。

授業の到達目標

健康教育学分野の健康づくりのための支援方策に関する知識を深め、修士論文をまとめるためのスキルを身につけることを主な目標にする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　介入研究１：介入研究読解の基本
第３回　介入研究２：背景の読解
第４回　介入研究３：方法の読解
第５回　介入研究４：結果の読解
第６回　介入研究５：考察の読解
第７回　介入研究６：総合的読解
第８回　レビュー研究１：レビュー研究読解の基本
第９回　レビュー研究２：背景の読解
第10回　レビュー研究３：方法の読解
第11回　レビュー研究４：結果の読解
第12回　レビュー研究５：考察の読解
第13回　レビュー研究６：総合的読解
第14回　図表の読解
第15回　総復習（到達度の確認を含む）とレポート課題　定期試験は実施しない。

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆（中村 好一）

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポート内容20%
平常点評価　80%　発表内容40%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢40%

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ神経科学演習（1）A	担当教員名： 彼末　一之

授業の概要

運動を司る神経機構について生理学的な観点から講義する内容に関して、特に興味を持った項目について文献を調査しその内容について毎週発表する。そしてそれをレポートとしてまとめる。

授業の到達目標

運動制御の神経機構について修士論文の研究と関連して理解する。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　文献検索１：「運動制御の神経回路」について
第３回　文献輪読１－１　担当者１群（運動神経）
第４回　文献輪読１－２　担当者２群（一次運動野）
第５回　文献輪読１－３　担当者３群（高次運動野）
第６回　レポート作成１：「運動制御の神経回路」について各自輪読した論文についてのレポート
第７回　文献検索２：「脳活動の解析手法」について
第８回　文献輪読２－１　担当者１群（ＭＲＩ）
第９回　文献輪読２－２　担当者２群（ＴＭＳ）
第10回　文献輪読２－３　担当者３群（ＥＭＧ）
第11回　レポート作成２：「脳活動の解析手法」について各自輪読した論文についてのレポート
第12回　プレゼンテーション準備１：パワーポイントを使ったプレゼン「運動制御の神経回路」
第13回　プレゼンテーション準備２：パワーポイントを使ったプレゼン「脳活動の解析手法」
第14回　プレゼンテーション１　担当者Ａ群「運動制御の神経回路」
第15回　プレゼンテーション２　担当者Ｂ群「脳活動の解析手法」

教科書

特になし。

参考文献

“Principals of Neural Science” (McGrow Hill)

成績評価方法

平常点評価　100%　グループワーク内での貢献度と各個人に割り当てられた発表内容で評価

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ神経科学演習（1）B	担当教員名： 彼末　一之

授業の概要

運動を司る神経機構について生理学的な観点から講義する内容に関して、特に興味を持った項目について文献を調査しその内容について毎週発表する。そしてそれをレポートとしてまとめる。

授業の到達目標

運動制御の神経機構について修士論文の研究と関連して理解する。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　文献検索３：「情動と運動」について
第３回　文献輪読３－１　担当者１群（扁桃核）
第４回　文献輪読３－２　担当者２群（ドーパミン）
第５回　文献輪読３－３　担当者３群（イップス）
第６回　レポート作成３：「情動と運動」について各自輪読した論文についてのレポート
第７回　文献検索４：「協調運動」について
第８回　文献輪読４－１　担当者１群（四肢協調）
第９回　文献輪読４－２　担当者２群（ＣＰＧ）
第10回　文献輪読４－３　担当者３群（スポーツ）
第11回　レポート作成４：「協調運動」について各自輪読した論文についてのレポート
第12回　プレゼンテーション準備１：パワーポイントを使ったプレゼン「情動と運動」について
第13回　プレゼンテーション準備２：パワーポイントを使ったプレゼン「協調運動」について
第14回　プレゼンテーション３　「情動と運動」について
第15回　プレゼンテーション４　「協調運動」について

教科書

特になし。

参考文献

“Principals of Neural Science” (McGrow Hill)

成績評価方法

平常点評価　100%　グループワーク内での貢献度と各個人に割り当てられた発表内容で評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
生体ダイナミクス演習（1）A	川上　泰雄

授業の概要

運動生理学・バイオメカニクスの分野における、人間を対象とした研究についての学習・討論を通じて演習指導を行う。実験手法の理論的背景や先行研究の知見に関して討論する。対象となる研究はスポーツ・身体運動の科学の分野において頻繁に行われる動作分析や力計測、筋形状や筋活動の定量化などが中心となる。プレゼン、討議は基本的に英語になるのでその点あらかじめ了承のうえ履修すること。

授業の到達目標

生体ダイナミクス・バイオメカニクスについての基礎知識を習得し、応用する。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本演習の目的と概要について説明します）
第２回　運動生理学・バイオメカニクス研究手法
第３回　先行研究の調査・報告（１）身体形状
第４回　先行研究の調査・報告（２）身体組成
第５回　先行研究の調査・報告（３）関節の構造
第６回　先行研究の調査・報告（４）関節の機能
第７回　先行研究の調査・報告（５）骨格筋の形状１
第８回　先行研究の調査・報告（６）骨格筋の形状2
第９回　先行研究の調査・報告（７）骨格筋の機能1
第10回　先行研究の調査・報告（８）骨格筋の機能2
第11回　実験データの討議（１）身体形状
第12回　実験データの討議（２）身体機能
第13回　実験データの討議（３）筋形状
第14回　実験データの討議（４）筋機能
第15回　実験データの討議（５）筋腱複合体

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50% 授業中心適宜レポートを課します
平常点評価　50% 発表・討議などにおける積極性を評価します

備考・関連URL

関連URL：http://www.f.waseda.jp/ykawa/indexj.htm

授業科目名：	担当教員名：
生体ダイナミクス演習（1）B	川上　泰雄

授業の概要

運動生理学・バイオメカニクスの分野における、人間を対象とした研究についての学習・討論を通じて演習指導を行う。実験手法の理論的背景や先行研究の知見に関して討論する。対象となる研究はスポーツ・身体運動の科学の分野において頻繁に行われる動作分析や力計測、筋形状や筋活動の定量化などが中心となる。プレゼン、討議は基本的に英語にて行うのでその点あらかじめ了承のうえ履修すること。

授業の到達目標

生体ダイナミクス・バイオメカニクスについての基礎知識を習得し、応用する。

授業計画

第１回　先行研究の調査・報告（9）筋腱複合体の構造と機能1
第２回　先行研究の調査・報告（10）筋腱複合体の構造と機能2
第３回　先行研究の調査・報告（11）筋腱複合体の構造と機能3
第４回　先行研究の調査・報告（12）筋腱複合体の構造と機能4
第５回　先行研究の調査・報告（13）筋腱複合体の構造と機能5
第６回　先行研究の調査・報告（14）身体運動と筋腱特性1
第７回　先行研究の調査・報告（15）身体運動と筋腱特性2
第８回　先行研究の調査・報告（16）身体運動と筋腱特性3
第９回　実験データの討議（6）
第10回　実験データの討議（7）
第11回　実験データの討議（8）
第12回　実験データの討議（9）
第13回　実験データの討議（10）
第14回　総合討議（1）
第15回　総合討議（2）

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　授業中心適宜レポートを課します
平常点評価　50%　発表・討議などにおける積極性を評価します

備考・関連URL

関連URL：http://www.f.waseda.jp/ykawa/indexj.htm

授業科目名：	担当教員名：
運動生化学演習（1）A	樋口　満

授業の概要

一過性運動、及び運動トレーニングによる体内の糖・脂質を中心とするエネルギー代謝的適応に関する基礎運動生化学的研究について議論する。

とくに、運動トレーニングによる骨格筋におけるミトコンドリアのエネルギー代謝的適応、及び糖・脂質代謝機能の適応的変化などについて、アニマルスタディとヒューマンスタティの両方に関する応用運動生化学的研究について議論する。

授業の到達目標

英文総説や原著論文の内容をよく理解し、評価あるいは批判できる能力とともに、自分自身の研究に役立てる能力を身につける。

授業計画

第１回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　初級
第２回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　初級
第３回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　初級
第４回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準中級
第５回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準中級
第６回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準中級
第７回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　中級
第８回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　中級
第９回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　中級
第10回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準上級
第11回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準上級
第12回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準上級
第13回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　上級
第14回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　上級
第15回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　上級

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レジメと発表内容で評価する
平常点評価　80%　出席状況

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動生化学演習（1） B	樋口　満

授業の概要

一過性運動、及び運動トレーニングによる体内の糖・脂質を中心とするエネルギー代謝的適応に関する基礎運動生化学的研究について議論する。

とくに、運動トレーニングによる骨格筋におけるミトコンドリアのエネルギー代謝的適応、及び糖・脂質代謝機能の適応的変化などについて、アニマルスタディとヒューマンスタティの両方に関する応用運動生化学的研究について議論する。

授業の到達目標

英文総説や原著論文の内容をよく理解し、評価あるいは批判できる能力とともに、自分自身の研究に役立てる能力を身につける。

授業計画

第１回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 初級
第２回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 初級
第３回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 初級
第４回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 準中級
第５回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 準中級
第６回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 準中級
第７回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 中級
第８回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 中級
第９回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論 中級
第10回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準上級
第11回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準上級
第12回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　準上級
第13回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　上級
第14回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論　上級
第15回　運動生化学に関する総説論文や原著論文の紹介と議論

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レジメと発表内容で評価する
平常点評価　80%　出席状況

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ生理学演習（1）A	担当教員名： 村岡　功

授業の概要

生理学を親学問として発展してきたスポーツ生理学は、生理学が静的（安静）状態での生命現象を対象としているのに対して、動的（運動・スポーツ）状態でのそれを対象としている。そして、その目標は、各種スポーツや身体活動に対する生体の応答と適応を明らかにすることにある。ここでは、関連する英文テキストの輪読や英文文献の紹介、および、運動・スポーツ状態での様々な生理的指標の測定を通じて、運動・スポーツに対する生体応答と適応を理解することとする。

授業の到達目標

スポーツ生理学に関連する英文テキストの輪読および測定などを通じて、運動・スポーツに対する生体応答と生体適応を理解するとともに、競技力向上や健康づくりで用いられる様々な測定法を習得するようにする。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　原書講読〈１〉
第３回　原書講読〈２〉
第４回　原書講読〈３〉
第５回　原書講読〈４〉
第６回　原書講読〈５〉
第７回　原書講読〈６〉
第８回　原書講読〈７〉
第９回　原書講読〈８〉
第10回　原書講読〈９〉
第11回　原書講読〈10〉
第12回　原書講読〈11〉
第13回　原書講読〈12〉
第14回　原書講読〈13〉
第15回　原書講読〈14〉

教科書

スポーツ生理学に関する英文テキストを指示する。

参考文献

授業の中で、適宜紹介する。

成績評価方法

平常点評価　　50%　平常点による評価
そ　の　他　　50%　原著の発表による評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ生理学演習（1）B	村岡　功

授業の概要

生理学を親学問として発展してきたスポーツ生理学は、生理学が静的（安静）状態での生命現象を対象としているのに対して、動的（運動・スポーツ）状態でのそれを対象としている。そして、その目標は、各種スポーツや身体活動に対する生体の応答と適応を明らかにすることにある。ここでは、関連する英文テキストの輪読や英文文献の紹介、および、運動・スポーツ状態での様々な生理的指標の測定を通じて、運動・スポーツに対する生体応答と適応を理解することとする。

授業の到達目標

スポーツ生理学に関連する英文テキストの輪読などを通じて、運動・スポーツに対する生体応答と生体適応を理解するとともに、競技力向上や健康づくりで用いられる様々な測定法を習得するようにする。

授業計画

第１回　生理学的指標の測定法〈１〉
第２回　生理学的指標の測定法〈２〉
第３回　生理学的指標の測定法〈３〉
第４回　生理学的指標の測定法〈４〉
第５回　生理学的指標の測定法〈５〉
第６回　生理学的指標の測定法〈６〉
第７回　生理学的指標の測定法〈７〉
第８回　生理学的指標の測定法〈８〉
第９回　生理学的指標の測定法〈９〉
第10回　生理学的指標の測定法〈10〉
第11回　生理学的指標の測定法〈11〉
第12回　生理学的指標の測定法〈12〉
第13回　生理学的指標の測定法〈13〉
第14回　生理学的指標の測定法〈14〉
第15回　まとめ

教科書

スポーツ生理学に関する英文テキストを指示する。

参考文献

授業の中で、適宜紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト	50%	レポートによる評価
平常点評価	50%	平常点による評価
そ の 他		特になし

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ心理学演習（1）A	担当教員名： 正木　宏明

授業の概要

スポーツ心理学で扱われてきた研究テーマに認知神経科学的手法を適用することで何がわかるのかについて学習する。スポーツ心理学・認知神経科学に関する基礎知識を習得しながら、修士論文の研究テーマを決定する。

認知神経科学研究の発展は目覚ましく、その手法はスポーツ心理学研究領域に新しい研究アプローチを与えるものである。本演習では、認知神経科学研究およびスポーツ心理学研究に関する最新の研究知見を文献紹介によって理解する。

授業の到達目標

スポーツ場面で生み出される巧みな動作の背景メカニズムについて、認知神経科学的手法によって解明するための基礎知識を習得する。

授業計画

第１回　ガイダンス／本講義の目的と概要について説明する。
第２回　文献輪読１（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第３回　文献輪読２（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第４回　文献輪読３（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第５回　文献輪読４（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第６回　文献輪読５（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第７回　文献輪読６（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第８回　文献輪読７（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第９回　文献輪読８（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第10回　文献輪読９（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第11回　文献輪読10（予習：教員から指示された範囲について精読する。予習時間は180分程度を想定している。復習：輪読した部分の内容を要約し、知識を深める。復習時間は60分程度を想定している。）
第12回　研究発表１（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第13回　研究発表２（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第14回　研究発表３（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第15回　研究発表４（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

教科書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　平常点による評価

備考・関連URL

出席および研究方法論の習得に対する真摯な態度が重視される。

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ心理学演習（1）B	正木　宏明

授業の概要

スポーツ心理学で扱われてきた研究テーマに認知神経科学的手法を適用することで何がわかるのかについて学習する。スポーツ心理学・認知神経科学に関する基礎知識を習得しながら、修士論文の研究テーマを決定する。

認知神経科学研究の発展は目覚ましく、その手法はスポーツ心理学研究領域に新しい研究アプローチを与えるものである。本演習では、認知神経科学研究およびスポーツ心理学研究に関する最新の研究知見を文献紹介によって理解する。

授業の到達目標

スポーツ場面で生み出される巧みな動作の背景メカニズムについて、認知神経科学的手法によって解明するための基礎知識を習得する。

授業計画

第１回　研究の方向性確認／個別に研究計画を確認する。
第２回　研究発表５（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第３回　研究発表６（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第４回　研究発表７（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第５回　研究発表８（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第６回　研究発表９（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第７回　研究発表10（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第８回　研究発表11（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第９回　研究発表12（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第10回　研究発表13（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第11回　研究発表14（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第12回　研究発表15（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第13回　研究発表16（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第14回　研究発表17（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）
第15回　総括（予習：これまでの発表内容に関するレジュメを確認する。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートを精読し、纏めて、今後の実験計画に反映させる努力をする。復習時間は120分程度を想定している。）

教科書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　平常点による評価

備考・関連URL

出席および研究方法論の習得に対する真摯な態度が重視される。

授業科目名： スポーツ情報処理演習（1）A	担当教員名： 誉田　雅彰

授業の概要

　スポーツメディア情報を対象としてコンピュータにより画像・信号処理技術の基礎を学習するとともに、コンピュータを用いたメディア処理演習を通して、プログラミング技術、スポーツ動作に関する情報処理技術を習得する。

授業の到達目標

　スポーツ映像処理およびコンピュータを用いた映像処理の仕組みを理解し、プログラミング技術の習得およびその活用を通してスポーツ映像処理技術を身につける。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　四則演算から配列データ処理
第３回　繰り返し処理と条件判定処理
第４回　データの入出力
第５回　グラフ作成
第６回　プログラミング課題（1）
第７回　プログラミング課題（2）
第８回　映像データの入出力
第９回　映像データの表示映像
第10回　映像の２値化処理
第11回　色特徴を用いた映像データ処理
第12回　スポーツ映像における選手位置検出処理
第13回　スポーツ映像における選手位置検出プログラムの作成（1）
第14回　スポーツ映像における選手位置検出プログラムの作成（2）
第15回　スポーツ映像における選手位置検出プログラムの作成（3）

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　40% 採点
平常点評価　60% 出席回数

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ情報処理演習（1） B	誉田　雅彰

授業の概要

スポーツメディア情報を対象としてコンピュータにより画像・信号処理技術の基礎を学習するとともに、コンピュータを用いたメディア処理演習を通して、プログラミング技術、スポーツ動作に関する情報処理技術を習得する。

授業の到達目標

スポーツ映像処理およびコンピュータを用いた映像処理の仕組みを理解し、プログラミング技術の習得およびその活用を通してスポーツ映像処理技術を身につける。

授業計画

第１回　パタン認識処理の基礎
第２回　統計的パタン認識の仕組み
第３回　動作映像の撮影
第４回　動作データの解析
第５回　動作の特徴抽出
第６回　動作の識別処理（1）
第７回　動作の識別処理（2）
第８回　フィールドにおけるスポーツ動作映像の撮影
第９回　スポーツ動作データの解析
第10回　スポーツ動作の特徴抽出
第11回　スポーツ動作の識別処理（1）
第12回　スポーツ動作の識別処理（2）
第13回　スポーツ動作の識別処理の考察（1）
第14回　スポーツ動作の識別処理の考察（2）
第15回　まとめと課題

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　40% 採点
平常点評価　60% 出席回数

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
統合運動神経生理学演習（１）Ａ	宝田　雄大

授業の概要

研究指導内容に関連した研究論文などを輪読する。受講者が内容を紹介し、その後、全員で討論を行う。輪読に際しては、各担当者は、事前に割り当てられた分担箇所を調べ、レジュメ（A4用紙１～２枚程度の要約）を作成・配布し、その内容について発表する。

授業の到達目標

（運動の）生理学あるいは神経科学に関連した先行研究や知見の解釈研究を通じて、それらの研究の現状を知り、その内容を理解できるようになること。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（１）　Neuroscience
第３回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（２）　Cognitive neuroscience
第４回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（３）　Motor control
第５回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（４）　Motor system state
第６回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（５）　Maximal voluntary force(MVC) and “psychological” inhibiting factors
第７回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（６）Potential capacity of MVC
第８回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（７）Brain mechanisms underlying automatic and unconscious control of motor action
第９回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（８）Preparing and Motivating Behavior Outside of Awareness
第10回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（９）　The Unconscious Will
第11回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（10）MVC and barely conscious goal pursuit with rewads stimuli
第12回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（11）　How the Brain Translates Money into Force: A Neuroimaging Study of Subliminal Motivation
第13回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（12）　Potential research projects in the very near future
第14回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（13）　Potential research projects in the near future
第15回　レポート課題と解説

教科書

必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

標準生理学（医学書院）、カールソン神経科学テキスト　脳と行動（丸善）、脳と行動（共立出版）、タッチ（医学書院）、意識の探求　ー神経科学からのアプローチ（岩波書店）
Principles of neural science　(McGraw-Hill Medical)
Skeletal muscle structure, function & plasticity　(Lippincott Williams & Wilkins)

成績評価方法

レ ポ ー ト　30%　発表時のレジュメをレポートと位置付け、各個人に割りあたえられたテーマの理解度などをその内容から評価する。
平常点評価　70%　各個人に割りあたえられたテーマに関する発表内容について評価する。

備考・関連URL

この演習では、特に、各自の自主性や独創性が重視されるので、積極的な姿勢を示す気持ちがない学生、目的意識をもっていない学生などには履修は勧められない。なお、履修者の人数、理解度、進捗状況等により授業計画の変更を行う場合もある。出欠は、平常点評価における演習への積極性に反映される。

関連URL：http://researchers.waseda.jp/profile/ja.2a4c95e8182a613cb97bfd1b7340fabc.html
http://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja

授業科目名：	担当教員名：
統合運動神経生理学演習（１）Ｂ	宝田　雄大

授業の概要

研究指導内容に関連した研究論文などを輪読する。受講者が内容を紹介し、その後、全員で討論を行う。輪読に際しては、各担当者は、事前に割り当てられた分担箇所を調べ、レジュメ（A4用紙１～２枚程度の要約）を作成・配布し、その内容について発表する。

授業の到達目標

（運動の）生理学あるいは神経科学に関連した先行研究や知見の解釈研究を通じて、それらの研究の現状を知り、その内容を理解できるようになること。

授業計画

第１回　各自の興味ある論文紹介と議論（１）
第２回　各自の興味ある論文紹介と議論（２）
第３回　各自の興味ある論文紹介と議論（３）
第４回　各自の興味ある論文紹介と議論（４）
第５回　各自の興味ある論文紹介と議論（５）
第６回　各自の興味ある論文紹介と議論（６）
第７回　各自の興味ある論文紹介と議論（７）
第８回　各自の興味ある論文紹介と議論（８）
第９回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（14）Sence of effort and force perception
第10回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（15）Inhibition of the primary motor cortex can alter one's “sense ofeffort”
第11回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（16）Maximal voluntary force and motor system state
第12回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（17）Acute effects of resistance exercise with vascular occlusion
第13回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（18）Muscle damage after rugby match
第14回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（19）Chronic effects of resistance exercise with vascular occlusion
第15回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（20）pPtential research projects in the very near future

教科書

必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

標準生理学（医学書院）、カールソン神経科学テキスト　脳と行動（丸善）、脳と行動（共立出版）、タッチ（医学書院）、意識の探求　ー神経科学からのアプローチ（岩波書店）
Principles of neural science　(McGraw-Hill Medical)
Skeletal muscle structure, function & plasticity　(Lippincott Williams & Wilkins)

成績評価方法

レ ポ ー ト　30%　発表時のレジュメをレポートと位置付け、各個人に割りあたえられたテーマの理解度などをその内容から評価する。
平常点評価　70%　各個人に割りあたえられたテーマに関する発表内容について評価する。

備考・関連URL

この演習では、特に、各自の自主性や独創性が重視されるので、積極的な姿勢を示す気持ちがない学生、目的意識をもっていない学生などには履修は勧められない。出欠は、平常点評価における演習への積極性に反映される。なお、履修者の人数、理解度、進捗状況等により授業計画の変更を行う場合もある。

関連URL：http://researchers.waseda.jp/profile/ja.2a4c95e8182a613cb97bfd1b7340fabc.html
http://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja

授業科目名： バイオメカニクス演習（1）A	担当教員名： 矢内　利政

授業の概要

バイオメカニクスに関連する分野における研究デザインや方法論について理解し、さらに応用発展させるための基礎的事項を、国内外で報告された論文を精読し討論することを通じて学習する。また、院生が進めている研究課題について討議し、研究目的に合致した方法論を用いた研究デザインを構築できるよう意見を交換する。

授業の到達目標

バイオメカニクスは、機械工学の基礎概念や方法論を応用・発展させることにより、生物の身体活動に見られる様々な運動メカニズムや身体各階層レベルの構造・力学的性質を明らかにする応用科学領域である。本演習では、バイオメカニクス研究のデザインや方法論について理解し、さらに応用発展させるための基礎的事項を説明できるようになる。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　研究方法論1（研究の概念と意義）
第3回　研究方法論2（研究を構成する要素）
第4回　抄読会1（研究方法論に着目したCritical review）
第5回　抄読会2（研究方法論に着目したCritical review）
第6回　研究（データ）発表会1
第7回　研究（データ）発表会2
第8回　研究デザイン1（対象者の定義とサンプリング、サンプルサイズ）
第9回　研究デザイン2（観察研究と実験研究）
第10回　抄読会3（研究デザインに着目したCritical review）
第11回　抄読会4（研究デザインに着目したCritical review）
第12回　研究（データ）発表会3
第13回　研究（データ）発表会4
第14回　研究（データ）発表会5
第15回　総括研究

教科書

教科書はとくに定めないでテーマに沿った論文や配布資料を参考に行う。

参考文献

成績評価方法

レポート　40%　抄読会・データ発表会での発表と概要レポート作成
その他　60%　会への参加　2%×15、討議への参加　30%

備考・関連URL

授業科目名： バイオメカニクス演習（1）B	担当教員名： 矢内　利政

授業の概要

バイオメカニクスに関連する分野における研究デザインや方法論について理解し、さらに応用発展させるための基礎的事項を、国内外で報告された論文を精読し討論することを通じて学習する。また、院生が進めている研究課題について討議し、研究目的に合致した方法論を用いた研究デザインを構築できるよう意見を交換する。

授業の到達目標

バイオメカニクスは、機械工学の基礎概念や方法論を応用・発展させることにより、生物の身体活動に見られる様々な運動メカニズムや身体各階層レベルの構造・力学的性質を明らかにする応用科学領域である。本演習では、バイオメカニクス研究のデザインや方法論について理解し、さらに応用発展させるための基礎的事項を説明できるようになる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　身体運動を物理変数として表すための計測（Kinematics）
第３回　身体運動を物理変数として表すための計測（Kinetics）
第４回　抄読会１（身体運動分析法に着目したCritical review）
第５回　抄読会２（身体運動分析法に着目したCritical review）
第６回　研究（データ）発表会１
第７回　研究（データ）発表会２
第８回　力学原理に基づいたデータ分析１
第９回　力学原理に基づいたデータ分析２
第10回　抄読会３（力学原理の応用に着目したCritical review）
第11回　抄読会４（力学原理の応用に着目したCritical review）
第12回　研究（データ）発表会３
第13回　研究（データ）発表会４
第14回　研究（データ）発表会５
第15回　総括研究

教科書

教科書はとくに定めないでテーマに沿った論文や配布資料を参考に行う。

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　40％ 抄読会・データ発表会での発表と概要レポート作成
そ の 他　60％ 会への参加　２％×15、討議への参加　30％

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ栄養学演習（1）A	担当教員名： 田口　素子

授業の概要

学術論文を書くための手順について指導するとともに、スポーツ栄養に関連した最新の総説や研究論文を読む。また、受講生が関心のあるテーマについての基礎的知識を整理し、研究の方向性について議論する。

授業の到達目標

スポーツ栄養学や健康・スポーツ科学と関連する文献の講読を通して最新の研究動向を理解し、専門的知識を習得する。また、受講生が関心のあるテーマについての基礎的知識を整理し、研究の方向性について議論する。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論①
第３回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論②
第４回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論③
第５回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論④
第６回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑤
第７回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑥
第８回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑦
第９回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑧
第10回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑨
第11回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑩
第12回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑪
第13回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑫
第14回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑬
第15回　まとめ

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　50%　出席状況
そ　の　他　50%　論文の発表内容の評価

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ栄養学演習（1）B	担当教員名： 田口　素子

授業の概要

スポーツ栄養学に関連した最新の総説や研究論文を講読し、研究の方向性や食事介入を含む具体的な研究方法について議論する。

授業の到達目標

研究論文の講読と議論を通じて、スポーツ栄養学の最新の研究動向への理解を深め、研究計画を立案する。

授業計画

第１回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論①
第２回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論②
第３回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論③
第４回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論④
第５回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑤
第６回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑥
第７回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑦
第８回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑧
第９回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑨
第10回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑩
第11回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑪
第12回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑫
第13回　スポーツ栄養学に関する論文の紹介と議論⑬
第14回　研究計画の立案
第15回　研究計画の立案

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　50%　出席状況
そ　の　他　50%　論文の発表内容の評価

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ神経科学演習（2）A	担当教員名： 彼末　一之

授業の概要

　演習（1）でまとめた内容を基に、運動制御系についてのモデルを構築し、それから予想される仮説を基に実験を行い、レポートにまとめる。

授業の到達目標

　実験を各自が計画して、マネジメントし、遂行できるようにする。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　実験計画１:運動制御系への刺激、反応記録についての実験をデザイン
第３回　実験計画２:実験装置検討
第４回　実験計画３：実験装置操作習得
第５回　実験計画４：統計手法勉強
第６回　計画発表１：各自デザインした実験計画の発表
第７回　計画発表２：質疑
第８回　研究実施１：文献調査
第９回　研究実施２：関連論文読む
第10回　研究実施３：関連論文発表
第11回　研究実施４：被験者リクルート
第12回　研究実施５：倫理書類勉強
第13回　研究実施６：倫理書類作成
第14回　研究実施７：必要な消耗品チェック
第15回　研究実施８：各自デザインした実験のテスト実施

教科書

　特になし。

参考文献

　“Principals of Neural Science” (McGrow Hill)

成績評価方法

平常点評価　100% 各自の研究に取り組む姿勢とその成果で評価

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ神経科学演習（2）B	担当教員名： 彼末　一之

授業の概要

　演習（1）でまとめた内容を基に、運動制御系についてのモデルを構築し、それから予想される仮説を基に実験を行い、レポートにまとめる。（2）Aの実験の継続とレポート作成。

授業の到達目標

　実験を各自が計画して、マネジメントし、遂行できるようにする。

授業計画

第１回　研究実施９：各自デザインした実験の本実験開始
第２回　研究実施10：データ分析
第３回　研究実施11：統計解析
第４回　研究実施12：グラフの作成
第５回　研究実施13：追加実験の必要性検討
第６回　研究実施14：仮説検討
第７回　研究実施15：発展性の検討
第８回　レポート作成１：各自デザインした実験結果についてまとめる
第９回　レポート作成２：レポートデザイン
第10回　レポート作成３：レポート構成
第11回　レポート作成４：レポート執筆
第12回　レポート作成５：レポート推敲
第13回　プレゼンテーション１：各自デザインした実験結果についてのプレゼン
第14回　プレゼンテーション２：プレゼンへの質疑応答
第15回　プレゼンテーション３：結論、相互の批評

教科書

　特になし。

参考文献

　“Principals of Neural Science” (McGrow Hill)

成績評価方法

平常点評価　100%　各自の研究に取り組む姿勢とその成果で評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
生体ダイナミクス演習（2）A	川上　泰雄

授業の概要

人間を対象とした生体計測手法を学ぶ生体ダイナミクス演習（1）の応用として、骨格筋の形態的・機能的特徴について演習指導を行います。参加者自身が行った実験データや先行研究の調査・報告などを通じて、骨格筋の解剖学的形状とその機能的意義、神経系による骨格筋のコントロール、そしてそれらの可塑性（トレーニング効果）などについて討論を行います。プレゼン、討議は基本的に英語にて行いますのでその点あらかじめ了承のうえ履修してください。

授業の到達目標

生体ダイナミクス・バイオメカニクスについての基礎知識を習得し、応用する。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本演習の目的と概要について説明します）
第２回　先行研究の調査・報告（１）身体形状１
第３回　先行研究の調査・報告（２）身体形状2
第４回　先行研究の調査・報告（３）身体組成1
第５回　先行研究の調査・報告（４）身体組成2
第６回　先行研究の調査・報告（５）身体機能1
第７回　先行研究の調査・報告（６）身体機能2
第８回　先行研究の調査・報告（７）筋腱複合体の形状
第９回　先行研究の調査・報告（８）筋腱複合体の機能
第10回　実験データの討議（１）
第11回　実験データの討議（２）
第12回　実験データの討議（３）
第13回　実験データの討議（４）
第14回　実験データの討議（５）
第15回　実験データの討議（６）

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50% 授業中心適宜レポートを課します
平常点評価　50% 発表・討議などにおける積極性を評価します

備考・関連URL

関連URL：http://www.f.waseda.jp/ykawa/indexj.htm

授業科目名：	担当教員名：
生体ダイナミクス演習（2）B	川上　泰雄

授業の概要

人間を対象とした生体計測手法を学ぶ生体ダイナミクス演習（1）の応用として、骨格筋の形態的・機能的特徴について演習指導を行います。参加者自身が行った実験データや先行研究の調査・報告などを通じて、骨格筋の解剖学的形状とその機能的意義、神経系による骨格筋のコントロール、そしてそれらの可塑性（トレーニング効果）などについて討論を行います。プレゼン、討議は基本的に英語にて行いますのでその点あらかじめ了承のうえ履修してください。

授業の到達目標

生体ダイナミクス・バイオメカニクスについての基礎知識を習得し、応用する。

授業計画

第１回　先行研究の調査・報告（9）身体運動と筋腱特性1
第２回　先行研究の調査・報告（10）身体運動と筋腱特性2
第３回　先行研究の調査・報告（11）身体運動と筋腱特性3
第４回　先行研究の調査・報告（12）身体運動と筋腱特性4
第５回　先行研究の調査・報告（13）身体運動と筋腱特性5
第６回　先行研究の調査・報告（14）身体運動と筋腱特性6
第７回　先行研究の調査・報告（15）身体運動と筋腱特性7
第８回　先行研究の調査・報告（16）身体運動と筋腱特性8
第９回　実験データの討議（6）
第10回　実験データの討議（7）
第11回　実験データの討議（8）
第12回　実験データの討議（9）
第13回　実験データの討議（10）
第14回　総合討議（1）
第15回　総合討議（2）

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　授業中心適宜レポートを課します
平常点評価　50%　発表・討議などにおける積極性を評価します

備考・関連URL

関連URL：http://www.f.waseda.jp/ykawa/indexj.htm

授業科目名：	担当教員名：
運動生化学演習（2）A	樋口　満

授業の概要

一過性運動、及び運動トレーニングによる体内の糖・脂質を中心とするエネルギー代謝的適応に関する基礎運動生化学的研究について議論する。

とくに、運動トレーニングによる骨格筋におけるミトコンドリアのエネルギー代謝的適応、及び糖・脂質代謝機能の適応的変化などについて、アニマルスタディとヒューマンスタティの両方に関する応用運動生化学的研究について議論する。

授業の到達目標

自分自身の研究をまとめ、発表する能力とともに、発表された研究について議論する能力を身につける。

授業計画

第１回　運動生化学に関する研究発表と議論　初級
第２回　運動生化学に関する研究発表と議論　初級
第３回　運動生化学に関する研究発表と議論　初級
第４回　運動生化学に関する研究発表と議論　準中級
第５回　運動生化学に関する研究発表と議論　準中級
第６回　運動生化学に関する研究発表と議論　準中級
第７回　運動生化学に関する研究発表と議論　中級
第８回　運動生化学に関する研究発表と議論　中級
第９回　運動生化学に関する研究発表と議論　中級
第10回　運動生化学に関する研究発表と議論　準上級
第11回　運動生化学に関する研究発表と議論　準上級
第12回　運動生化学に関する研究発表と議論　準上級
第13回　運動生化学に関する研究発表と議論　上級
第14回　運動生化学に関する研究発表と議論　上級
第15回　運動生化学に関する研究発表と議論　上級

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　研究発表のレジメと発表内容で評価する
平常点評価　80%　出席状況

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動生化学演習（2）B	樋口　満

授業の概要

一過性運動、及び運動トレーニングによる体内の糖・脂質を中心とするエネルギー代謝的適応に関する基礎運動生化学的研究について議論する。

とくに、運動トレーニングによる骨格筋におけるミトコンドリアのエネルギー代謝的適応、及び糖・脂質代謝機能の適応的変化などについて、アニマルスタディとヒューマンスタティの両方に関する応用運動生化学的研究について議論する。

授業の到達目標

自分自身の研究をまとめ、発表する能力とともに、発表された研究について議論する能力を身につける。

授業計画

第１回　運動生化学に関する研究発表と議論　初級
第２回　運動生化学に関する研究発表と議論　初級
第３回　運動生化学に関する研究発表と議論　初級
第４回　運動生化学に関する研究発表と議論　準中級
第５回　運動生化学に関する研究発表と議論　準中級
第６回　運動生化学に関する研究発表と議論　準中級
第７回　運動生化学に関する研究発表と議論　中級
第８回　運動生化学に関する研究発表と議論　中級
第９回　運動生化学に関する研究発表と議論　中級
第10回　運動生化学に関する研究発表と議論　準上級
第11回　運動生化学に関する研究発表と議論　準上級
第12回　運動生化学に関する研究発表と議論　準上級
第13回　運動生化学に関する研究発表と議論　上級
第14回　運動生化学に関する研究発表と議論　上級
第15回　運動生化学に関する研究発表と議論　上級

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　研究発表のレジメと発表内容で評価する
平常点評価　80%　出席状況

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ生理学演習（2）A	村岡　功

授業の概要

スポーツ生理学演習（1）で習得したことを基礎として、ここではより具体的に、スポーツ種目による生体応答や適応の相違を探り、それぞれ健康づくりや競技力向上の視点に立って検討することとする。そのために、各自がスポーツ種目別あるいは研究テーマ別に国内外の文献紹介等を行い、種目による生体応答と適応の相違を明らかにするとともに、同時に当該分野における最新の研究動向や先端的知見を理解する。

授業の到達目標

本演習では、スポーツ種目ごとの生体応答と生体適応を理解するとともに、スポーツ生理学に関する最新の英文雑誌に掲載された論文を読み解くことで、この分野における最新の研究動向や先端的知見を理解するようにする。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　各種スポーツ種目の生理学〈１〉
第３回　各種スポーツ種目の生理学〈２〉
第４回　各種スポーツ種目の生理学〈３〉
第５回　各種スポーツ種目の生理学〈４〉
第６回　各種スポーツ種目の生理学〈５〉
第７回　各種スポーツ種目の生理学〈６〉
第８回　各種スポーツ種目の生理学〈７〉
第９回　各種スポーツ種目の生理学〈８〉
第10回　各種スポーツ種目の生理学〈９〉
第11回　各種スポーツ種目の生理学〈10〉
第12回　各種スポーツ種目の生理学〈11〉
第13回　各種スポーツ種目の生理学〈12〉
第14回　各種スポーツ種目の生理学〈13〉
第15回　各種スポーツ種目の生理学〈14〉

教科書

スポーツ生理学に関わる専門雑誌を適宜使用する。

参考文献

授業の中で、適宜紹介する。

成績評価方法

平常点評価　50%　平常点による評価
そ　の　他　50%　論文の発表による

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ生理学演習（2）B	村岡　功

授業の概要

スポーツ生理学演習（1）で習得したことを基礎として、ここではより具体的に、スポーツ種目による生体応答や適応の相違を探り、それぞれ健康づくりや競技力向上の視点に立って検討することとする。そのために、各自がスポーツ種目別あるいは研究テーマ別に国内外の文献紹介等を行い、種目による生体応答と適応の相違を明らかにするとともに、同時に当該分野における最新の研究動向や先端的知見を理解する。

授業の到達目標

本演習では、スポーツ種目ごとの生体応答と生体適応を理解するとともに、スポーツ生理学に関する最新の英文雑誌に掲載された論文を読み解くことで、この分野における最新の研究動向や先端的知見を理解するようにする。

授業計画

第１回　文献抄読〈１〉
第２回　文献抄読〈２〉
第３回　文献抄読〈３〉
第４回　文献抄読〈４〉
第５回　文献抄読〈５〉
第６回　文献抄読〈６〉
第７回　文献抄読〈７〉
第８回　文献抄読〈８〉
第９回　文献抄読〈９〉
第10回　文献抄読〈10〉
第11回　文献抄読〈11〉
第12回　文献抄読〈12〉
第13回　文献抄読〈13〉
第14回　文献抄読〈14〉
第15回　まとめ

教科書

スポーツ生理学に関わる専門雑誌を適宜使用する。

参考文献

授業の中で、適宜紹介する。

成績評価方法

平常点評価　50%　平常点による評価
そ　の　他　50%　論文の発表による

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ心理学演習（2）A	正木　宏明

授業の概要

演習（1）で決定した修士論文のテーマについて実験計画を立て、その妥当性について議論する。詳細な検討を重ねたうえでデータを取得し、修士論文を作成する。

修士論文の作成に必要な研究指導を行う。文献紹介を通して最新の研究知見を把握するだけでなく、実験計画、実験実施、解析、結果の解釈など、研究方法全般について理解する。

授業の到達目標

認知神経科学的手法によって解明すべきスポーツ行動の現象を見出し、修士論文のテーマとする。剰余変数を排除した実験計画を立案・実施することで修士論文を作成する。

授業計画

第1回　ガイダンス／本演習の目的と概要について説明する。

第2回　修士論文研究中間報告1（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第3回　修士論文研究中間報告2（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第4回　修士論文研究中間報告3（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第5回　研究計画1（予習：実験計画についての発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第6回　研究計画2（予習：実験計画についての発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第7回　研究計画3（予習：実験計画についての発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第8回　研究計画4（予習：実験計画についての発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第9回　研究計画5（予習：実験計画についての発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第10回　研究計画6（予習：実験計画についての発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第11回　研究発表1（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第12回　研究発表2（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第13回　研究発表3（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第14回　研究発表4（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第15回　まとめ（予習：これまでに議論した内容について確認しておく。予習時間は120分程度を想定している。復習：最終的に議論したことを纏めたノートを精読し、文献調査を追加することで、今後の実験計画に活かす。復習時間は120分程度を想定している。）

教科書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　平常点による評価

備考・関連URL

出席および研究方法論の習得に対する真摯な態度が重視される。

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ心理学演習（2）B	正木　宏明

授業の概要

演習（1）で決定した修士論文のテーマについて実験計画を立て、その妥当性について議論する。詳細な検討を重ねたうえでデータを取得し、修士論文を作成する。

修士論文の作成に必要な研究指導を行う。文献紹介を通して最新の研究知見を把握するだけでなく、実験計画、実験実施、解析、結果の解釈など、研究方法全般について理解する。

授業の到達目標

認知神経科学的手法によって解明すべきスポーツ行動の現象を見出し、修士論文のテーマとする。剰余変数を排除した実験計画を立案・実施することで修士論文を作成する。

授業計画

第１回　研究発表５（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第２回　研究発表６（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第３回　研究発表７（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第４回　研究発表８（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第５回　研究発表９（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第６回　研究発表10（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第７回　研究発表11（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第８回　研究発表12（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第９回　修士論文研究報告１（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第10回　修士論文研究報告２（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第11回　修士論文研究報告３（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第12回　修士論文研究報告４（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第13回　修士論文研究報告５（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第14回　修士論文研究報告６（予習：発表準備を行う。予習時間は120分程度を想定している。復習：各自で記録したノートに基づき、さらに文献を調べて知識を深める。復習時間は120分程度を想定している。）

第15回　総括（予習：これまでの議論を纏めたノートを再確認する。予習時間は120分程度を想定している。復習：最終的な議論をノートに纏め、ここまで得られたデータを解釈し、議論のポイントを理解する。復習時間は120分程度を想定している。）

教科書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　平常点による評価

備考・関連URL

出席および研究方法論の習得に対する真摯な態度が重視される。

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ情報処理演習（2）A	誉田　雅彰

授業の概要

　演習（1）で習得した技術をさらに発展させ、スポーツメディア情報およびスポーツ身体動作に関する高度な情報処理技術を学習するとともに、スポーツメディア情報解析やスポーツ身体動作のコンピュータシミュレーションを中心として個々の研究課題に取り組む。

授業の到達目標

　スポーツ映像処理および身体動作処理に関するより高度の仕組みを理解し、プログラミング技術の習得およびその活用を通してスポーツ情報処理技術を身につける。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　映像データベースの仕組み（1）
第３回　映像データベースの仕組み（2）
第４回　映像データベースの作成（1）
第５回　映像データベースの作成（2）
第６回　スポーツ映像検索処理（1）
第７回　スポーツ映像検索処理（2）
第８回　スポーツ映像検索処理プログラムの作成（1）
第９回　スポーツ映像検索処理プログラムの作成（2）
第10回　スポーツ映像検索処理プログラムの作成（3）
第11回　スポーツ映像検索実験（1）
第12回　スポーツ映像検索実験（2）
第13回　スポーツ映像検索性能の評価（1）
第14回　スポーツ映像検索性能の評価（2）
第15回　スポーツ映像検索のまとめと課題

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　40% 採点
平常点評価　60% 出席日数

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ情報処理演習（2）B	誉田　雅彰

授業の概要

　演習（1）で習得した技術をさらに発展させ、スポーツメディア情報およびスポーツ身体動作に関する高度な情報処理技術を学習するとともに、スポーツメディア情報解析やスポーツ身体動作のコンピュータシミュレーションを中心として個々の研究課題に取り組む。

授業の到達目標

　スポーツ映像処理および身体動作処理に関するより高度の仕組みを理解し、プログラミング技術の習得およびその活用を通してスポーツ情報処理技術を身につける。

授業計画

第１回　スポーツ映像の自動生成の仕組み（1）
第２回　スポーツ映像の自動生成の仕組み（2）
第３回　固定カメラ映像を用いたスポーツ映像の自動生成（1）
第４回　固定カメラ映像を用いたスポーツ映像の自動生成（2）
第５回　移動カメラの制御方法
第６回　移動カメラを用いた映像撮影
第７回　移動カメラ映像処理（1）
第８回　移動カメラ映像処理（2）
第９回　移動カメラを用いたスポーツ映像の自動生成（1）
第10回　移動カメラ映像を用いたスポーツ映像の自動生成（2）
第11回　多点ビデオ映像による視点制御の仕組み（1）
第12回　多点ビデオ映像による視点制御の仕組み（2）
第13回　多点ビデオ映像による視点移動映像の生成（1）
第14回　多点ビデオ映像による視点移動映像の生成（2）
第15回　まとめと課題

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　40% 採点
平常点評価　60% 出席日数

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
統合運動神経生理学演習（2）A	宝田　雄大

授業の概要

受講者は、各自の研究計画書の発表と、予備実験のデータなどを提示し説明する。また必要に応じて、その研究内容に関連した先行研究などを輪読する。発表や輪読時には、レジュメ（A4用紙１～２枚程度の要約）を作成・配布し、わかりやすい説明に留意する。

授業の到達目標

研究指導内容に関連した研究テーマを見つけ、それを実証すべく、実験をデザインし、得られたグラフの考察ができること。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　受講者の研究計画の発表（１）
第３回　受講者の研究計画の発表（２）
第４回　受講者の研究計画の発表（３）
第５回　受講者の研究計画の発表（４）
第６回　受講者の研究計画の発表（５）
第７回　受講者の研究計画の発表（６）
第８回　受講者の研究計画の発表（７）
第９回　受講者の研究計画の発表（８）
第10回　研究指導内容に関連した実験・実習（１） Force perception
第11回　研究指導内容に関連した実験・実習（２） Unconscious goal pursuit and human force exertion
第12回　研究指導内容に関連した実験・実習（３）Maximal voluntary force (MVC) and motor system state
第13回　研究指導内容に関連した実験・実習（４） Motor evoked potential by transcranial magnetic stimulation during unconscious goal-priming with reward
第14回　研究指導内容に関連した実験・実習（５）Pupil diameter and skin potential level during unconscious goal-priming with reward
第15回　レポート課題と解説

教科書

必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

標準生理学（医学書院）、カールソン神経科学テキスト　脳と行動（丸善）、脳と行動（共立出版）、タッチ（医学書院）、意識の探求　ー神経科学からのアプローチ（岩波書店）
Principles of neural science (McGraw-Hill Medical)
Skeletal muscle structure, function & plasticity (Lippincott Williams & Wilkins)

成績評価方法

レポート　30%　実験実習課題の内容の理解度を評価する。
平常点評価　70%　すべての発表内容と、その内容の指摘箇所やコメントに対する取り組み姿勢や改善内容などについて評価する。

備考・関連URL

この演習では、特に、各自の自主性や独創性が重視されるので、積極的な姿勢を示す気持ちがない学生、目的意識をもっていない学生などには履修は勧められない。出欠は、平常点評価における演習への積極性に反映される。なお、履修者の人数、理解度、進捗状況等により授業計画の変更を行う場合もある。

関連URL：http://researchers.waseda.jp/profile/ja.2a4c95e8182a613cb97bfd1b7340fabc.html
http://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja

授業科目名：	担当教員名：
統合運動神経生理学演習（２）Ｂ	宝田　雄大

授業の概要

受講者は、各自の研究計画書の発表と、予備実験のデータなどを提示し説明する。また必要に応じて、その研究内容に関連した先行研究などを輪読する。発表や輪読時には、レジュメ（A4 用紙１～２枚程度の要約）を作成・配布し、わかりやすい説明に留意する。

授業の到達目標

研究指導内容に関連した研究テーマを見つけ、それを実証すべく、実験をデザインし、得られたグラフの考察ができること。

授業計画

第１回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（１） Acute effects of resistance exercise with vascular occlusion
第２回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（２） Chronic effects of resistance exercise with vascular occlusion
第３回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（３） Force perception (Inhibition of the primary motor cortex can alter one’s “sense ofeffort”)
第４回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（４）Maximal voluntary force (MVC) and “psychological” inhibiting factors
第５回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（５）Human force exertion and hypnotic suggestion
第６回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（６） Brain mechanisms underlying automatic and unconscious control of motor action
第７回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（７） Preparing and Motivating Behavior Outside of Awareness
第８回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（８） The Unconscious Will
第９回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論（９） How the Brain Translates Money into Force: A Neuroimaging Study
of Subliminal Motivation
第10回　研究指導内容に関連した論文紹介と議論 (10) MVC and barely conscious goal-priming with rewards
第11回　受講者の研究成果発表および議論（１）
第12回　受講者の研究成果発表および議論（２）
第13回　受講者の研究成果発表および議論（３）
第14回　受講者の研究成果発表および議論（４）
第15回　受講者の研究成果発表および議論（５）

教科書

必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

標準生理学（医学書院)、カールソン神経科学テキスト　脳と行動（丸善)、脳と行動（共立出版)、タッチ（医学書院)、意識の探求　ー神経科学からのアプローチ（岩波書店)
Principles of neural science　(McGraw-Hill Medical)
Skeletal muscle structure, function & plasticity　(Lippincott Williams & Wilkins)

成績評価方法

レポート　30%　実験実習課題の内容の理解度を評価する。
平常点評価　70%　輪読を含めたすべての発表内容と、その内容の指摘箇所やコメントに対する取り組み姿勢や改善内容などについて評価する。

備考・関連URL

この演習では、特に、各自の自主性や独創性が重視されるので、積極的な姿勢を示す気持ちがない学生、目的意識をもっていない学生などには履修は勧められない。出欠は、平常点評価における演習への積極性に反映される。なお、履修者の人数、理解度、進捗状況等により授業計画の変更を行う場合もある。

関連URL：http://researchers.waseda.jp/profile/ja.2a4c95e8182a613cb97bfd1b7340fabc.html
http://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja

授業科目名： バイオメカニクス演習（2）A	担当教員名： 矢内　利政

授業の概要

バイオメカニクスに関連する分野における研究デザインや方法論について理解し、さらに応用発展させるための基礎的事項を、国内外で報告された論文を精読し討論することを通じて学習する。また、院生が進めている研究課題について討議し、研究目的に合致した方法論を用いた研究デザインを構築できるよう意見を交換する。

授業の到達目標

バイオメカニクス演習（1）で理解した研究のデザインや方法論をさらに応用発展させ、これまでに明らかにされていない研究テーマに取り組むための測定方法や算出方法について議論できるようになる。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　Kinematic 分析のための動作解析法1
第3回　Kinematic 分析のための動作解析法2
第4回　抄読会1（Kinematic 分析に着目した Critical review）
第5回　抄読会2（Kinematic 分析に着目した Critical review）
第6回　研究（データ）発表会1
第7回　研究（データ）発表会2
第8回　Kinetic 分析のためのデータ解析法1
第9回　Kinetic 分析のためのデータ解析法2
第10回　抄読会3（Kinetic 分析に着目した Critical review）
第11回　抄読会4（Kinetic 分析に着目した Critical review）
第12回　抄読会5（Kinetic 分析に着目した Critical review）
第13回　研究（データ）発表会3
第14回　研究（データ）発表会4
第15回　総括

教科書

教科書はとくに定めないでテーマに沿った論文や配布資料を参考に行う。

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　40%　抄読会・データ発表会での発表と概要レポート作成
そ　の　他　60%　会への参加　2%×15、討議への参加　30%

備考・関連URL

授業科目名： バイオメカニクス演習（2）B	担当教員名： 矢内　利政

授業の概要

バイオメカニクスに関連する分野における研究デザインや方法論について理解し、さらに応用発展させるための基礎的事項を、国内外で報告された論文を精読し討論することを通じて学習する。また、院生が進めている研究課題について討議し、研究目的に合致した方法論を用いた研究デザインを構築できるよう意見を交換する。

授業の到達目標

バイオメカニクス演習（1）で理解した研究のデザインや方法論をさらに応用発展させ、これまでに明らかにされていない研究テーマに取り組むための測定方法や算出方法について議論できるようになる。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　研究デザインに応じた統計分析方法の選択1
第3回　研究デザインに応じた統計分析方法の選択2
第4回　統計分析結果の解釈1
第5回　抄読会1（統計分析方法に着目したCritical review）
第6回　抄読会2（統計分析方法に着目したCritical review）
第7回　研究（データ）発表会1
第8回　研究（データ）発表会2
第9回　論文の執筆方法（科学論文の構成）
第10回　論文の執筆方法（英語論文の構成）
第11回　抄読会3（Scientific writingをテーマとした論文を精読し議論する）
第12回　抄読会4（Scientific writingをテーマとした論文を精読し議論する）
第13回　研究（データ）発表会3
第14回　研究（データ）発表会4
第15回　総括

教科書

教科書はとくに定めないでテーマに沿った論文や配布資料を参考に行う。

参考文献

成績評価方法

レポート　40%　抄読会・データ発表会での発表と概要レポート作成
その他　60%　会への参加　2%×15、討議への参加　30%

備考・関連URL

授業科目名： スポーツ栄養学演習（2）A	担当教員名： 田口　素子

授業の概要

演習（1）A・B で得られた知識や技術にそって、各自の研究指導内容と関連した論文を講読し、ディスカッションを通して研究方法や結果の解釈に関する知識を深める。

授業の到達目標

演習（1）A・B で得られた知識や技術を応用発展させ、スポーツ栄養学の最新の研究知見について理解できるようになる。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究指導内容と関連した論文講読と議論①
第３回　研究指導内容と関連した論文講読と議論②
第４回　研究指導内容と関連した論文講読と議論③
第５回　研究指導内容と関連した論文講読と議論④
第６回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑤
第７回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑥
第８回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑦
第９回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑧
第10回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑨
第11回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑩
第12回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑪
第13回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑫
第14回　修士論文研究中間発表①
第15回　修士論文研究中間発表②

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　50% 出席状況
そ　の　他　50% 発表内容の評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ栄養学演習（2）B	田口　素子

授業の概要

スポーツ栄養に関連した科学論文の書き方について学び、個別に実施した研究について論文を作成する。さらに、研究成果を口頭および論文として公表するための具体的な手続きと留意事項について学ぶ。

授業の到達目標

各自で進めているスポーツ栄養学的手法を用いた研究課題について議論し、応用できるようになる。

授業計画

第１回　研究指導内容と関連した論文講読と議論①
第２回　研究指導内容と関連した論文講読と議論②
第３回　研究指導内容と関連した論文講読と議論③
第４回　研究指導内容と関連した論文講読と議論④
第５回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑤
第６回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑥
第７回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑦
第８回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑧
第９回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑨
第10回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑩
第11回　研究指導内容と関連した論文講読と議論⑪
第12回　受講者の研究成果発表と討議①
第13回　受講者の研究成果発表と討議②
第14回　受講者の研究成果発表と討議③
第15回　まとめ

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　50%　出席状況
そ　の　他　50%　発表内容による評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
走運動・コーチング科学演習（1）A	礒　繁雄、藤田　善也

授業の概要

スポーツ種目の中の個人種目（陸上競技）を対象に、実験手法や発表等の演習指導を行う。また、グループで研究課題を計画し、実施計画の作成、結果の算出及び考察の研究の方法と論述的視点を発表により討論する。

授業の到達目標

A. コーチング研究に関する理解を深め課題を持つ力をつける

授業計画

第１回　演習概要の説明と進め方
第２回　卒業研究の発表と今後の研究課題の方向性発表する・諸言の中の研究史
第３回　卒業研究の発表と今後の研究課題の方向性発表する・様々な方法論報告
第４回　卒業研究の発表と今後の研究課題の方向性発表する・統計解析と手法
第５回　コーチング研究に関する専門書の輪読・個人種目の技術に関する論文対象
第６回　コーチング研究に関する専門書の輪読・個人種目のトレーニングに関する論文対象
第７回　コーチング研究に関する専門書の輪読・チーム種目の技術に関する論文対象
第８回　コーチング研究に関する専門書の輪読・チーム種目のトレーニングに関する論文対象
第９回　動作解析のための撮影方法の基礎知識確認と解析方法の説明
第10回　「走り」の動作撮影・２次元固定とパーニング
第11回　「走り」の動作撮影・３次元固定
第12回　動作解析の入力とデータ処理の説明及び実践の中の解析方法
第13回　動作解析の入力とデータ処理の説明及び実践に関する課題提供
第14回　動作解析の入力とデータ処理と統計方法説明
第15回　データ処理後の個々の要約発表

教科書

随時指示する。

参考文献

「トップパフォーマンスへの挑戦」　ベースボールマガジン社

成績評価方法

平常点評価　40%　出席等
そ　の　他　60%　到達度の確認とレポートで60%平常点評価：　80%　出席状況

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
走運動・コーチング科学演習（1）B	礒　繁雄、藤田　善也

授業の概要

スポーツ種目の中の個人種目（陸上競技）を対象に、実験手法や発表等の演習指導を行う。また、グループで研究課題を計画し、実施計画の作成、結果の算出及び考察の研究の方法と論述的視点を発表により討論する。

授業の到達目標

B. 走りの理論的理解と共に実践研究を学習することで、その成果を発表・ディスカッション出来る能力を高める

授業計画

第１回　JISS にての現地機能説明
第２回　JISS との共同研究内容の討論会
第３回　グループ別の課題設定とそのプロトコール確認
第４回　グループ別の実験・調査に関する先行研究報告
第５回　グループ別の実験・調査の中の実験手法説明
第６回　グループ別の実験・調査に関する統計処理法説明
第７回　グループ別の実験・調査の個々の報告
第８回　グループ別発表と討論会・個々の方法論の比較
第９回　グループ別発表と討論会・考察の視点を中心に
第10回　競技種目間を共有するコーチングの視点講義
第11回　コーチングにおけるメンタルトレーニングの説明
第12回　競技別コーチングの現地調査・屋内種目を対象として
第13回　競技別コーチングの現地調査・屋外種目を対象として
第14回　調査結果の全体討議
第15回　レポート課題のまとめ方説明

教科書

随時指示する。

参考文献

「トップパフォーマンスへの挑戦」　ベースボールマガジン社

成績評価方法

平常点評価　40％ 出席等
そ　の　他　60％ 到達度の確認とレポートで60％

備考・関連 URL

授業科目名： トップスポーツコーチング科学演習（1）A	担当教員名： 奥野　景介、藤田　善也

授業の概要

現代社会に機能する「コーチング」をスポーツ・教育の分野より科学的に、また技能的に捉え、競技に対するコーチングの現象について専門的に理解を深める。

授業の到達目標

コーチングの専門的な理解とともに、特に、一流選手をはじめとする競技者のパフォーマンス獲得のプロセスや根拠の解明に関する諸知識を深めることをテーマとする。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究計画立案の方法
第３回　文献抄読１（コーチング総論）
第４回　文献抄読２（体力的な課題に対するコーチング）
第５回　文献抄読３（技術的な課題に対するコーチング）
第６回　文献抄読４（心理的な課題に対するコーチング）
第７回　文献抄読５（回復過程の課題に対するコーチング）
第８回　文献抄読６（生理学的な課題に対するコーチング）
第９回　文献抄読７（バイオメカニクス的な課題に対するコーチング）
第10回　文献抄読８（トレーニング計画の課題に対するコーチング）
第11回　文献抄読９（競技会前の課題に対するコーチング）
第12回　文献抄読10（競技会中の課題に対するコーチング）
第13回　文献抄読11（競技会後の課題に対するコーチング）
第14回　文献抄読12（高所トレーニングに関するコーチング）
第15回　研究計画立案

教科書

コーチング戦略（八千代出版）

参考文献

競技力向上のトレーニング戦略（大修館書店）

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題の出来によって評価する。
平常点評価　50%　出席状況および授業時に実施する発表内容の出来によって評価する。

備考・関連URL

授業科目名： トップスポーツコーチング科学演習（1）B	担当教員名： 奥野　景介、藤田　善也

授業の概要

現代社会に機能する「コーチング」をスポーツ・教育の分野より科学的に、また技能的に捉え、競技に対するコーチングの現象について専門的に理解を深める。

授業の到達目標

コーチングの専門的な理解とともに、特に、一流選手をはじめとする競技者のパフォーマンス獲得のプロセスや根拠の解明に関する諸知識を深めることをテーマとする。

授業計画

第１回　研究計画立案
第２回　データミーティング１（体力）
第３回　データミーティング２（技術）
第４回　データミーティング３（メンタル）
第５回　データミーティング４（トレーニング）
第６回　データミーティング５（筋力）
第７回　データミーティング６（筋持久力）
第８回　データミーティング７（心肺機能）
第９回　データミーティング８（耐乳酸性能力）
第10回　データミーティング９（スプリント）
第11回　データミーティング10（全身持久力）
第12回　データミーティング11（柔軟性）
第13回　データミーティング12（体幹）
第14回　データミーティング13（傷害）
第15回　まとめ

教科書

コーチング戦略（八千代出版）

参考文献

競技力向上のトレーニング戦略（大修館書店）

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題の出来によって評価する。
平常点評価　50%　出席状況および授業時に実施する発表内容の出来によって評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツコーチング学演習（1）A	担当教員名： 土屋　純、藤田　善也

授業の概要

さまざまなスポーツ種目のスポーツ技術の明確化とスポーツ技能の向上策を、スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動の観点から解明する研究を進めると同時に、関連する研究論文を分担講読する。ディスカッションを通じて科学的なスポーツコーチングの態度を養い、同時に研究方法と結果の解釈に関する知識を深める。

授業の到達目標

スポーツのコーチングを科学的な視点でとらえ、実践し、研究論文として発表することができる。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　スポーツ技術の解明とスポーツ技能の向上策に関する研究計画１の策定（1）：スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動学
第３回　スポーツ技術の解明とスポーツ技能の向上策に関する研究計画１の策定（2）：コーチング学
第４回　関連文献の講読（1）：スポーツバイオメカニクス
第５回　関連文献の講読（2）：スポーツ運動学
第６回　関連文献の講読（3）：コーチング学
第７回　関連文献の講読（4）：スポーツ科学
第８回　スポーツ技術の解明とスポーツ技能の向上策に関する研究１実践（1）：スポーツバイオメカニクスのKinematics 的研究
第９回　スポーツ技術の解明とスポーツ技能の向上策に関する研究１実践（2）：スポーツバイオメカニクスのKinetics 的研究
第10回　スポーツ技術の解明とスポーツ技能の向上策に関する研究１実践（3）：スポーツ運動学の技術把握研究
第11回　スポーツ技術の解明とスポーツ技能の向上策に関する研究１実践（4）：コーチング科学の技術指導研究
第12回　スポーツ技術の解明とスポーツ技能の向上策に関する研究１実践（5）スポーツコーチング学研究
第13回　研究結果発表と課題の明確化（1）：スポーツバイオメカニクス
第14回　研究結果発表と課題の明確化（2）：スポーツ運動学
第15回　研究結果発表と課題の明確化（3）：スポーツコーチング学

教科書

コーチング学への招待　日本コーチング学会（編）

参考文献

必要に応じて授業中に紹介する

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割り当てられた発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツコーチング学演習（1） B	担当教員名： 土屋　純、藤田　善也

授業の概要

さまざまなスポーツ種目のスポーツ技術の明確化とスポーツ技能の向上策を、スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動の観点から解明する研究を進めると同時に、関連する研究論文を分担講読する。ディスカッションを通じて科学的なスポーツコーチングの態度を養い、同時に研究方法と結果の解釈に関する知識を深める。

授業の到達目標

スポーツのコーチングを科学的な視点でとらえ、実践し、研究論文として発表することができる。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツ技術の解明に関する研究２の策定（1）：スポーツバイオメカニクス的研究
第３回　スポーツ技術の解明に関する研究２の策定（2）：スポーツ運動学的研究
第４回　スポーツ技能の向上策に関する研究２の策定
第５回　体力の向上策に関する研究２の策定
第６回　関連文献の講読（1）：スポーツバイオメカニクス的研究
第７回　関連文献の講読（2）：スポーツ運動学的研究
第８回　関連文献の講読（3）：スポーツコーチング学的研究
第９回　スポーツ技術の解明に関する研究２実践
第10回　スポーツ技能の向上策に関する研究２実践
第11回　体力の向上策に関する研究２実践
第12回　研究結果発表：プレゼンテーション
第13回　研究結果発表：ディスカッション
第14回　課題の明確化
第15回　総合討議と今後の研究課題　定期試験は実施しない。

教科書

コーチング学への招待　日本コーチング学会（編）

参考文献

必要に応じて授業中に紹介する

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割り当てられた課題への取り組み姿勢、発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： コーチング心理学演習（1）A	担当教員名： 堀野　博幸

授業の概要

「トップパフォーマンス構築」と「育成年代の選手育成」では、コーチング対象は異なるものの、共通する要素が多い。本演習では、多様な種目のコーチングとの交流を通して、コーチングプロセスで起こる事象を解明し、コーチングの体系化と実践的応用を目指す。

演習（1）では、コーチング領域の研究指導と連携を持ち、先行研究を渉猟するなかで、コーチングの様々な要素の整理やコーチングプロセスの課題抽出を行う。そして、先行研究から得られた知見から、自身の研究計画に関する課題を検討する。

授業の到達目標

コーチングに関わる諸課題の理解と改善アプローチへの理論的接近。コーチング科学領域の研究手法の理解と研究の実践能力の開発。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　プレゼン&ディスカッション
第３回　プレゼン&ディスカッション
第４回　プレゼン&ディスカッション
第５回　プレゼン&ディスカッション
第６回　プレゼン&ディスカッション
第７回　プレゼン&ディスカッション
第８回　プレゼン&ディスカッション
第９回　プレゼン&ディスカッション
第10回　プレゼン&ディスカッション
第11回　プレゼン&ディスカッション
第12回　プレゼン&ディスカッション
第13回　プレゼン&ディスカッション
第14回　プレゼン&ディスカッション
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題レポートを評価する
平常点評価　50%　プレゼンテーションと授業への取り組みを評価する

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
コーチング心理学演習（1） B	堀野　博幸

授業の概要

「トップパフォーマンス構築」と「育成年代の選手育成」では、コーチング対象は異なるものの、共通する要素が多い。本演習では、多様な種目のコーチングとの交流を通して、コーチングプロセスで起こる事象を解明し、コーチングの体系化と実践的応用を目指す。

演習（1）では、コーチング領域の研究指導と連携を持ち、先行研究を渉猟するなかで、コーチングの様々な要素の整理やコーチングプロセスの課題抽出を行う。そして、先行研究から得られた知見から、自身の研究計画に関する課題を検討する。

授業の到達目標

コーチングに関わる諸課題の理解と改善アプローチへの理論的接近。コーチング科学領域の研究手法の理解と研究の実践能力の開発。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　プレゼン&ディスカッション
第３回　プレゼン&ディスカッション
第４回　プレゼン&ディスカッション
第５回　プレゼン&ディスカッション
第６回　プレゼン&ディスカッション
第７回　プレゼン&ディスカッション
第８回　プレゼン&ディスカッション
第９回　プレゼン&ディスカッション
第10回　プレゼン&ディスカッション
第11回　プレゼン&ディスカッション
第12回　プレゼン&ディスカッション
第13回　プレゼン&ディスカッション
第14回　プレゼン&ディスカッション
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題レポートを評価する
平常点評価　50%　プレゼンテーションと授業への取り組みを評価する

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
ボールゲーム戦術戦略論演習（１）Ａ	倉石　平、藤田　善也

授業の概要

日本におけるスポーツ競技（特にチームスポーツ）のコーチングの現状を把握する。(コーチングシステム（組織)、アナリストと育成)

コーチングにおける日本、諸外国の現状を把握する。その現状を鑑みた上で、日本における最適なコーチングのシステムを考える。また、その中で特にアナリストの役割（情報の収集、分析、反映）を考え、今後にスポーツの現場で役立たせるための実践、実習を行う。

授業の到達目標

コーチングに不可欠なスポーツアナリストの役割を熟知する。簡単なゲーム分析(PC ソフトウェアを駆使した)を行ない、プレゼンにより反映をできるようにする。論文の作成、分析等を要約する。

授業計画

第１回　ガイダンス　講義の目的、概要
第２回　ボールゲームにおけるコーチングについて　ボールゲーム、コーチング、実例
第３回　コーチングフィロソフィについて（コーチングの方向性、考え方）　コーチングフィロソフィー
第４回　チームとしての目的、目標、方向性を決定するために　コーチング、目標、目的、達成のための方法
第５回　チームプレーヤーの役割、スタッフと組織について　チームビルディング
第６回　アメリカにみる、チーム構成（NCAA）　NCAA、バスケットボール、チーム
第７回　アメリカにみる、チーム構成（NBA）　NBA、バスケットボール、チーム構成
第８回　アメリカにおけるアナリストの存在と役割について　NBA、NCAA、アナリスト、ビデオコーディネーター
第９回　日本におけるアナリストの現状と今後について　スカウティング、コーディネーター、情報
第10回　ゲーム分析、データの反映、ゲーム立案について　ゲーム分析、反映、立案
第11回　統計処理方法を学ぶ１　統計
第12回　統計処理方法を学ぶ２　統計、SPSS
第13回　統計処理方法を学ぶ３　統計、SPSS、実践
第14回　関連文献の講読1　文献、文献収集、
第15回　関連文献の講読2　文献、文献収集、論文

教科書

随時指示する。

参考文献

バスケットボールのコーチを始めるために(日本文化出版 2005、倉石平著)
知的コーチングのすすめ（大修館書店 2002、勝田隆著）など

成績評価方法

レ ポ ー ト　70%　レポートによる評価
平常点評価　30%　平常点による評価
積極的な姿勢、発言、実習への参加、分析ソフトの習得、統計処理の習得などで評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
ボールゲーム戦術戦略論演習（１）Ｂ	倉石　平、藤田　善也

授業の概要

日本におけるスポーツ競技（特にチームスポーツ）のコーチングの現状を把握する。(コーチングシステム（組織)、アナリストと育成)

コーチングにおける日本、諸外国の現状を把握する。その現状を鑑みた上で、日本における最適なコーチングのシステムを考える。また、その中で特にアナリストの役割（情報の収集、分析、反映）を考え、今後にスポーツの現場で役立たせるための実践、実習を行う。

授業の到達目標

コーチングに不可欠なスポーツアナリストの役割を熟知する。簡単なゲーム分析(PC ソフトウェアを駆使した)を行ない、プレゼンテーションにより反映をできるようにする。論文の作成、分析等をプレゼンテーション・要約する。

授業計画

第１回　スキル向上に関する研究計画１　策定（１）　スキル向上
第２回　スキル向上に関する研究計画１　策定（２）　スキル向上、競技力向上
第３回　スキル向上に関する研究計画１　実践（１）　スキル向上、競技力向上、グループ戦術
第４回　スキル向上に関する研究計画１　実践（２）　スキル向上、競技力向上、グループ戦術、中長期ビジョン
第５回　プレゼンテーション、課題の明確化（１）　プレゼン、競技力向上
第６回　プレゼンテーション、課題の明確化（２）　プレゼン、競技力向上、グループ戦術
第７回　プレゼンテーション、課題の明確化（３）　プレゼン、競技力向上、グループ戦術、リスクマネジメント
第８回　関連文献の講読3　NCAA、NBA、ユーロリーグ
第９回　関連文献の講読4　NCAA、NBA、ユーロリーグ、文献
第10回　統計処理方法を学ぶ４　統計、SPSS
第11回　統計処理方法を学ぶ５　統計、SPSS、データ分析
第12回　統計処理方法を学ぶ６　統計、SPSS、データ分析、データ整理
第13回　スキルの向上をさせるために（チーム戦術）１　グループ戦術
第14回　スキルの向上をさせるために（チーム戦術）２　グループ戦術、ゲームプラン立案
第15回　スキルの向上をさせるために（チーム戦術）３　グループ戦術、ゲームプラン立案、実践、リスクマネジメント

教科書

随時指示する。

参考文献

バスケットボールのコーチを始めるために（日本文化出版 2005、倉石平著)
知的コーチングのすすめ（大修館 2002、勝田隆著)、NBA、NCAA の関連書籍、雑誌を紹介する

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　平常点による評価
積極的な発言、姿勢。データの収集、分析などで評価

備考・関連 URL

授業科目名：	担当教員名：
トレーニング科学演習（1）A	岡田　純一、藤田　善也

授業の概要

目的に適した身体能力を備えること、身体能力を競技力へと結びつけること、そのために必要なあらゆる体力要素を向上させること、目的とする時期にその状態を整えることなど、コンディショニングが含有する意図は多様である。

授業の到達目標

アスリートばかりでなく、一般成人、子供あるいは高齢者など様々な対象に指導するという観点から、コンディショニングに関わるレジスタンストレーニングのプログラムデザイン、アスリートの体力や生理学的特性を考慮したトレーニング計画を科学的知見に基づいて構築することを学ぶ。加えて競技、選手、指導者と連携し科学的知見を活用する術を演習する。

授業計画

第1回　コーチングと科学（個人と集団）
第2回　コーチングと科学（記録と採点）
第3回　コーチングと科学（人とモノ）
第4回　研究の倫理
第5回　社会のニーズと研究
第6回　研究計画法1；文献検索
第7回　研究計画法2；文献分析
第8回　研究計画法3；問題点の抽出
第9回　研究計画法4；研究シミュレーション
第10回　研究計画法5；実験計画策定
第11回　文献抄読1；実験手法の精査
第12回　文献抄読2；事例集積
第13回　文献抄読3；論文の構成
第14回　文献抄読4；考察のポイント
第15回　文献抄読5；投稿の備えて

教科書

Essentials of strength training and conditioning　(NSCA)

参考文献

Designing Resistance Training Programs (Steven Fleck, William Kraemer)

成績評価方法

平常点評価　50%　平常点による評価
そ　の　他　50%　発表（プレゼンテーション，レジュメ，資料作成含む）に関する評価

備考・関連URL

授業科目名： トレーニング科学演習（1）B	担当教員名： 岡田　純一、藤田　善也

授業の概要

目的に適した身体能力を備えること、身体能力を競技力へと結びつけること、そのために必要なあらゆる体力要素を向上させること、目的とする時期にその状態を整えることなど、コンディショニングが含有する意図は多様である。

授業の到達目標

アスリートばかりでなく、一般成人、子供あるいは高齢者など様々な対象に指導するという観点から、コンディショニングに関わるレジスタンストレーニングのプログラムデザイン、アスリートの体力や生理学的特性を考慮したトレーニング計画を科学的知見に基づいて構築することを学ぶ。加えて競技、選手、指導者と連携し科学的知見を活用する術を演習する。

授業計画

第１回　実習発表１；プレゼンテーション技法
第２回　実習発表２；研究の背景
第３回　実習発表３；研究方法の提示
第４回　実習発表４；結果の提示
第５回　実習発表５；結論を導く
第６回　研究計画発表１；問題提起
第７回　研究計画発表２；背景の整理と目的の設定
第８回　研究計画発表３；研究方法の妥当性
第９回　研究計画発表４；分析手法の精査
第10回　研究計画発表５；統計手法と結果の推定
第11回　文献抄読６；文献考証の構成
第12回　文献抄読７；章立てとまとめ案
第13回　文献抄読８；研究の位置付けを見出す
第14回　文献抄読９；結果の示し方
第15回　文献抄読10；簡潔な結論

教科書

Essentials of strength training and conditioning 4th edition

参考文献

Designing Resistance Training Programs (Steven Fleck, William Kraemer)

成績評価方法

平常点評価　50% 平常点による評価
そ　の　他　50% 発表（プレゼンテーション，レジュメ，資料作成含む）に関する評価

備考・関連URL

授業科目名： チームスポーツコーチング論演習（1）A	担当教員名： 松井　泰二、藤田　善也

授業の概要

チームスポーツの本質は何か．その特徴を科学的に明らかにする．

授業の到達目標

コーチングをキーワードとし，「チーム」を機能させるためには何が必要なのかを自ら問いかけ，多角的に分析し明らかにする．

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　チームスポーツとは何か
第３回　個とチームについて
第４回　チームフィロソフィー
第５回　目標設定
第６回　組織とは
第７回　練習計画の作成方法（1）プレイの構造
第８回　練習計画の作成方法（2）トレーニングのタイプ
第９回　科学的視点を取り入れたコーチング(1)　ゲーム構想
第10回　科学的視点を取り入れたコーチング(2)　バイオメカニクス
第11回　科学的視点を取り入れたコーチング(3)　評価方法
第12回　リーダーシップ
第13回　コミュニケーションスキル
第14回　ディスカッション(1)個を題材として
第15回　ディスカッション(2)チームを題材として

教科書

バレーボール　基本を極めるドリル　ベースボールマガジン社

参考文献

なし。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　授業への取り組みの評価

備考・関連URL

授業科目名： チームスポーツコーチング論演習（１）Ｂ	担当教員名： 松井　泰二、藤田　善也

授業の概要

チームスポーツの本質は何か．その特徴を科学的に明らかにする．

授業の到達目標

チームスポーツにおける個々の課題を明らかにし，課題解決に向けて科学的視点から発表することができる．

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　関連論文購読（1）個人技術について
第３回　関連論文購読（2）チーム戦術について
第４回　関連論文購読（3）ゲーム構造について
第５回　関連論文購読（4）チーム戦略について
第６回　チームスポーツにおける課題解決のための研究計画の作成（1）課題設定
第７回　チームスポーツにおける課題解決のための研究計画の作成（2）課題設定と研究方法
第８回　チームスポーツにおける課題解決のための研究計画の作成（3）研究方法
第９回　チームスポーツにおける課題解決のための研究計画の作成（4）研究方法と結論
第10回　チームスポーツにおける課題解決のための研究計画の作成（5）結論と現場への示唆
第11回　チームスポーツにおける課題解決のための研究計画の作成（6）現場絵の示唆
第12回　プレゼンテーション（1）個人技術について
第13回　プレゼンテーション（2）チーム戦術について
第14回　プレゼンテーション（3）ゲーム構造について
第15回　プレゼンテーション（4）チーム戦略について

教科書

バレーボール　基本を極めるドリル　ベースボールマガジン社

参考文献

なし。

成績評価方法

レ ポ ー ト　40%　レポートによる評価
平常点評価　60%　プレゼンテーションおよび授業への取り組みの評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
武道のコーチング学演習（1）A	射手矢　岬

授業の概要

武道，特に徒手格闘技を対象に行われてきたコーチングに関する文献を抄読し，武道に関する課題を明確化，具体化する。文献の抄読を通して，実験や調査の方法、統計分析などについても理解する。

授業の到達目標

コーチングに関する科学的な研究手法の理解を深め，研究の実践能力を育成すると共に，自身の研究計画を作成する。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　武道におけるコーチングの現状①：体力トレーニング法
第３回　武道におけるコーチングの現状②：技術トレーニング法
第４回　武道におけるコーチングの現状③：練習（稽古）法
第５回　武道におけるコーチングの現状④：試合（競技）法
第６回　武道におけるコーチングの現状⑤：精神修養法
第７回　武道におけるコーチングの現状⑥：強化政策
第８回　卒業研究の発表と討論①：自然科学系の研究
第９回　卒業研究の発表と討論②：人文科学系の研究
第10回　文献抄読①：体力トレーニング
第11回　文献抄読②：コンディショニング
第12回　文献抄読③：栄養と減量
第13回　文献抄読④：技術（技）分析
第14回　文献抄読⑤：試合分析
第15回　総括とまとめ（到達度の確認を含む）

教科書

柔道コーチング論、道和書院、2008

参考文献

柔道の視点、道和書院、2000／　柔道のコーチング、大修館書店、1975

成績評価方法

平常点評価　　50%　主体的（積極的）な授業への取り組みの評価
そ　の　他　　50%　研究発表

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
武道のコーチング学演習（1）B	射手矢　岬

授業の概要

武道，特に徒手格闘技を対象に行われてきたコーチングに関する文献を抄読し，武道に関する課題を明確化，具体化する。文献の抄読を通して，実験や調査の方法，統計分析などについても理解する。

授業の到達目標

コーチングに関する科学的な研究手法の理解を深め，研究の実践能力を育成すると共に，自身の研究計画を作成する。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　データの取り扱い方①：データ入力と管理方法
第３回　データの取り扱い方②：基礎統計
第４回　データの分析方法①：ｔ検定
第５回　データの分析方法②：カイ二乗検定
第６回　データの分析方法③：相関係数
第７回　データの分析方法④：分散分析
第８回　データの分析方法⑤：図表の書き方
第９回　動作解析法①：二次元
第10回　動作解析法②：三次元
第11回　アンケート調査法①：質問紙の作成
第12回　アンケート調査法②：調査の実施方法
第13回　データ整理法①：表の書き方
第14回　データ整理法②：図の描き方
第15回　総括とまとめ（到達度の確認を含む）

教科書

統計学がわかる、技術評論社、2008

参考文献

実例リポート・論文の書き方、泰流社、1978

成績評価方法

平常点評価　50%　主体的（積極的）な授業への取り組みの評価
そ　の　他　50%　研究発表

備考・関連URL

授業科目名： 走運動・コーチング科学演習（2）A	担当教員名： 礒　繁雄

授業の概要

　演習ＩＡ・Ｂで得られた学習内容を個々のテーマにそって必要な方法論や統計処理等のデータ解析の能力を高める。さらに、コーチングの現状と役割に関して深く学習する。

授業の到達目標

・個々の研究テーマを様々な視点から検討して、作成に至るプロセスを明らかにする。

授業計画

第１回　演習概要の説明と進め方
第２回　個人の研究テーマに関して討論する
第３回　研究テーマの討論結果より課題を明らかにし、発表する
第４回　研究テーマに関する先行研究の発表
第５回　研究テーマに関する方法論
第６回　研究テーマに必要な統計手法の理解
第７回　海外コーチング事情
第８回　日本が持つべきコーチング環境
第９回　ドーピングの説明
第10回　ジュニア期のコーチング
第11回　球技種目に用いる「走り」のコーチング
第12回　トップコーチングの意義
第13回　コーチングとメンタルトレーニング
第14回　教育とコーチング
第15回　レポート課題の説明

教科書

　随時指示する

参考文献

　随時指示する

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポートによる評価
平常点評価　50%　平常点による評価
そ　の　他　30%　授業内試験

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
走運動・コーチング科学演習（2）B	礒　繁雄

授業の概要

研究テーマの分析とそれに関わるフィールドワークにより課題の検索と実践への応用視点を学ぶ。

授業の到達目標

・実践を通して研究課題の分析点の精度を高める。

授業計画

第１回　演習概要の説明と進め方
第２回　JISS と NTC の組織構造と役割
第３回　JISS にて現地説明（１）建物の構造と役割
第４回　JISS にて現地説明（２）測定現場に参加
第５回　JISS にて現地説明（３）データ分析の視点
第６回　JISS にて現地説明（４）研究者との討論
第７回　コーチングの実践（１）競技種目とその練習場の決定
第８回　コーチングの実践（２）対象団体との連携と計画参加
第９回　コーチングの実践（３）指導の実践
第10回　コーチングの実践（４）コントロールテストの測定
第11回　コーチングの実践（５）テスト結果のまとめと伝達
第12回　実践により得られた内容を個人の研究テーマに生かした視点を発表する
第13回　研究テーマの分析視点と結果・考察を報告する（１）現状内容
第14回　研究テーマの分析視点と結果・考察を報告する（２）実践での効果
第15回　全体のまとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポートによる評価
平常点評価　50%　平常点による評価
そ　の　他　30%　到達度の確認

備考・関連URL

授業科目名： トップスポーツコーチング科学演習（2）A	担当教員名： 奥野　景介

授業の概要

本講座は、トップアスリートに関連する実践的研究の理解を深め、高度なスポーツ実践専門家養成を目指す上で必要な諸知識を深める。

授業の到達目標

高度なスポーツ実践専門家養成を目指す上で必要な諸知識を深めるとともに、最新のスポーツトレーニング方法およびコーチング方法の開発（オリンピック等チャンピオンスポーツを対象として）について論議する。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　ガイダンス
第３回　データミーティング１
第４回　データミーティング２
第５回　データミーティング３
第６回　データミーティング４
第７回　データミーティング５
第８回　データミーティング６
第９回　データミーティング７
第10回　データミーティング８
第11回　データミーティング９
第12回　データミーティング10
第13回　研究計画立案
第14回　研究計画立案
第15回　実験１

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題の出来によって評価する。
平常点評価　50%　出席状況および授業時に実施する発表内容の出来によって評価する。

備考・関連URL

授業科目名： トップスポーツコーチング科学演習（2）B	担当教員名： 奥野　景介

授業の概要

本講座は、トップアスリートに関連する実践的研究の理解を深め、高度なスポーツ実践専門家養成を目指す上で必要な諸知識を深める。

授業の到達目標

高度なスポーツ実践専門家養成を目指す上で必要な諸知識を深めるとともに、最新のスポーツトレーニング方法およびコーチング方法の開発（オリンピック等チャンピオンスポーツを対象として）について論議する。

授業計画

第１回　実験２
第２回　ディスカッション１
第３回　ディスカッション２
第４回　実験３
第５回　実験４
第６回　ディスカッション３
第７回　ディスカッション４
第８回　実験５
第９回　実験６
第10回　ディスカッション５
第11回　ディスカッション６
第12回　実験７
第13回　実験８
第14回　ディスカッション７
第15回　ディスカッション８

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題の出来によって評価する。
平常点評価　50%　出席状況および授業時に実施する発表内容の出来によって評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツコーチング学演習（2）A	担当教員名： 土屋　純

授業の概要

さまざまなスポーツ種目のスポーツ技術の明確化とスポーツ技能の向上策を、スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動の観点から解明する研究を進めると同時に、関連する研究論文を分担講読する。ディスカッションを通じて科学的なスポーツコーチングの態度を養い、同時に研究方法と結果の解釈に関する知識を深める。

授業の到達目標

スポーツのコーチングを科学的な視点でとらえ、実践し、研究論文として発表することができる。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　スポーツ技術の解明に関する研究３の策定（1）：スポーツバイオメカニクス的研究
第３回　スポーツ技術の解明に関する研究３の策定（2）：スポーツ運動学的研究
第４回　スポーツ技能向上策に関する研究３の策定
第５回　関連文献の講読（1）：スポーツバイオメカニクス的研究
第６回　関連文献の講読（2）：スポーツ運動学的研究
第７回　関連文献の講読（3）：スポーツコーチング学的研究
第８回　関連文献の講読（4）：トレーニング科学的研究
第９回　スポーツ技術の解明に関する研究３実践（1）：スポーツバイオメカニクス的研究
第10回　スポーツ技術の解明に関する研究３実践（2）：スポーツ運動学的研究
第11回　スポーツ技能の向上策に関する研究３実践
第12回　体力の向上策に関する研究３実践
第13回　研究結果発表と課題の明確化（1）：プレゼンテーション
第14回　研究結果発表と課題の明確化（2）：ディスカッション
第15回　まとめ

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割り当てられた発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツコーチング学演習（2）B	担当教員名： 土屋　純

授業の概要

さまざまなスポーツ種目のスポーツ技術の明確化とスポーツ技能の向上策を、スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動の観点から解明する研究を進めると同時に、関連する研究論文を分担講読する。ディスカッションを通じて科学的なスポーツコーチングの態度を養い、同時に研究方法と結果の解釈に関する知識を深める。

授業の到達目標

スポーツのコーチングを科学的な視点でとらえ、実践し、研究論文として発表することができる。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツ技術の解明に関する研究４の策定（1）：スポーツバイオメカニクス
第３回　スポーツ技術の解明に関する研究４の策定（2）：スポーツ運動学
第４回　スポーツ技能の向上に関する研究４の策定
第５回　関連文献の講読（1）スポーツバイオメカニクス的研究
第６回　関連文献の講読（2）：スポーツ運動学的研究
第７回　関連文献の講読（3）：スポーツコーチング学的研究
第８回　関連文献の講読（4）：トレーニング学的研究
第９回　スポーツ技術の解明に関する研究４実践
第10回　スポーツ技能の向上策に関する研究４実践
第11回　体力の向上策に関する研究４実践
第12回　研究結果発表：プレゼンテーション
第13回　研究結果発表：ディスカッション
第14回　課題の明確化
第15回　まとめ

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割り当てられた課題への取り組み姿勢、発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： コーチング心理学演習（2）A	担当教員名： 堀野　博幸

授業の概要

　コーチングプロセスでは、選手とコーチの間で様々な課題が生じる。この課題を解決するために、コーチは現状を的確に分析し、課題改善の具体的方策を示さねばならない。本演習では、「コーチング科学」と「スポーツ心理学」の観点から、コーチに必要な能力と効果的なコーチング法について、スポーツフィールドを常に視野に入れながら検討する。

　授業では、具体的な研究計画の作成と実行を念頭に、先行研究と自身のアイデアをもとに、プレゼンテーションとディスカッションを継続していく。この授業は、修士２年次で履修することとする。

授業の到達目標

　コーチング科学領域に関連する研究計画の作成と研究の推進。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　プレゼン&ディスカッション
第３回　プレゼン&ディスカッション
第４回　プレゼン&ディスカッション
第５回　プレゼン&ディスカッション
第６回　プレゼン&ディスカッション
第７回　プレゼン&ディスカッション
第８回　プレゼン&ディスカッション
第９回　プレゼン&ディスカッション
第10回　プレゼン&ディスカッション
第11回　プレゼン&ディスカッション
第12回　プレゼン&ディスカッション
第13回　プレゼン&ディスカッション
第14回　プレゼン&ディスカッション
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題レポートを評価する
平常点評価　50%　プレゼンテーションと授業への取り組みを評価する

備考・関連URL

授業科目名： コーチング心理学演習（2）B	担当教員名： 堀野　博幸

授業の概要

　コーチングプロセスでは、選手とコーチの間で様々な課題が生じる。この課題を解決するために、コーチは現状を的確に分析し、課題改善の具体的方策を示さねばならない。本演習では、「コーチング科学」と「スポーツ心理学」の観点から、コーチに必要な能力と効果的なコーチング法について、スポーツフィールドを常に視野に入れながら検討する。

　授業では、具体的な研究計画の作成と実行を念頭に、先行研究と自身のアイデアをもとに、プレゼンテーションとディスカッションを継続していく。この授業は、修士２年次で履修することとする。

授業の到達目標

　コーチング科学領域に関連する研究計画の作成と研究の推進。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　プレゼン&ディスカッション
第３回　プレゼン&ディスカッション
第４回　プレゼン&ディスカッション
第５回　プレゼン&ディスカッション
第６回　プレゼン&ディスカッション
第７回　プレゼン&ディスカッション
第８回　プレゼン&ディスカッション
第９回　プレゼン&ディスカッション
第10回　プレゼン&ディスカッション
第11回　プレゼン&ディスカッション
第12回　プレゼン&ディスカッション
第13回　プレゼン&ディスカッション
第14回　プレゼン&ディスカッション
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題レポートを評価する
平常点評価　50%　プレゼンテーションと授業への取り組みを評価する

備考・関連URL

授業科目名： ボールゲーム戦術戦略論演習（2）A	担当教員名： 倉石　平

授業の概要

日本における最適なコーチングシステム（特にチームスポーツ）の検討。アナリストの役割と実践。
以下の項目について学習する。
〈1〉日本における、特にチームスポーツのコーチング及びコーチングシステムについて検討する。
〈2〉コーチングシステムの中での組織と役割の検討。
〈3〉アナリストの仕事の把握と実践。（反映の仕方（データ分析と表現、映像編集）とプレゼンテーション）
〈4〉ゲームプランの立案（反映データからの立案)、練習メニューの作成。

授業の到達目標

〈1〉コーチングにおける、アナリスト等からのデータの反映及びチェックの方法（実践での活用)。
〈2〉日々の練習等からの反省と、練習・ゲームへの反映。
〈3〉チームをつくる。

授業計画

第1回　コーチングフィロソフィについて　コーチングフィロソフィー
第2回　コーチングにおけるVision、Mission、Commitment　コーチングの方向、目標達成
第3回　コーチングにおける戦術戦略　戦術戦略
第4回　コーチングにおける情報とは　情報（スポーツ情報）
第5回　情報収集／収集の方法（種類）　情報収集
第6回　ゲーム分析について　ゲーム分析
第7回　データの反映／反映の仕方、方法　データ反映
第8回　ゲームプランの作り方、立案　データ反映、ゲームプラン
第9回　ゲーム分析ソフトについて（種類・使い方等）　ゲーム分析ソフト
第10回　ゲーム分析ソフトを使っての分析（実習）　ゲーム分析、実習
第11回　映像編集と良いイメージづくり　データ反映、映像編集、イメージ映像
第12回　チェックリスト／チェックリストのつくり方　リスクマネジメント
第13回　ピーキングについて、年間計画と意義について　トレーニング計画、ピーキング
第14回　期分け、意義と目的／月または週単位　トレーニング計画、ピーキング、実習
第15回　日々の練習メニューについて／チェックリストについて　練習メニュー、リスクマネジメント

教科書

参考文献

成績評価方法

レポート　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　積極的な授業への取り組み、発言等による評価。
（プレゼンテーション、ディベートなどを含む。）

備考・関連URL

授業科目名： ボールゲーム戦術戦略論演習（2）B	担当教員名： 倉石　平

授業の概要

日本における最適なコーチングシステム（特にチームスポーツ）の検討。アナリストの役割と実践。
以下の項目について学習する。
〈1〉日本における、特にチームスポーツのコーチング及びコーチングシステムについて検討する。
〈2〉コーチングシステムの中での組織と役割の検討。
〈3〉アナリストの仕事の把握と実践。（反映の仕方（データ分析と表現、映像編集）とプレゼンテーション）
〈4〉ゲームプランの立案（反映データからの立案)、練習メニューの作成。

授業の到達目標

〈1〉コーチングにおける、アナリスト等からのデータの反映及びチェックの方法（実践での活用)。
〈2〉日々の練習等からの反省と、練習・ゲームへの反映。
〈3〉チームをつくる。

授業計画

第1回　リスクマネジメント　リスクマネジメント
第2回　ゲームにおけるリスクマネージメント　ゲーム、コーチング、リスクマネジメント
第3回　練習におけるリスクマネージメント　練習、リスクマネジメント
第4回　ケガなどのリスクマネージメント／コンディショニングについて　コンディショニング、リコンディショニング
第5回　チームビルディング／モチベーションマネージメントについて　チームビルディング
第6回　チームビルディング／組織と役割について　リーダーシップ、組織、役割り
第7回　ボールゲームにおけるスキルについて／ファンダメンタルについて　スキル、ファンダメンタル
第8回　ボールゲームにおけるチームスキルについて／チームルールについて　チームスキル、チームルール
第9回　指導の方法／指導目的、方向性、チェックリストなど　コーチング方法、リスクマネジメント
第10回　トレーニングの原則について　トレーニング原則
第11回　JOC、JBA における一貫指導とは／公認コーチ制度について　日体協、公認コーチ、日本バスケットボール協会、指導者制度
第12回　一貫指導、育成、強化とは／文部科学省、日本体育協会、JOC　JOC、日体協、一貫指導、育成、強化、競技力向上
第13回　国際競争力をもつには／世界の動向について　国際競争力
第14回　国際競争力をもつには／条件として　国際競争力、競技力向上、エリート教育
第15回　まとめ　コーチング、バスケットボール競技、競技力向上

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　積極的な授業への参加、発言等で評価する。
　　プレゼンテーション、ディベート等を含む。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
トレーニング科学演習（2）A	岡田　純一

授業の概要

目的に適した身体能力を備えること、身体能力を競技力へと結びつけること、そのために必要なあらゆる体力要素を向上させること、目的とする時期にその状態を整えることなど、コンディショニングが含有する意図は多様である。

授業の到達目標

コンディショニングに関わるレジスタンストレーニングのプログラムデザイン、体力や対象者の生理学的、バイオメカニクス的特性に関する研究法を学ぶ。

授業計画

第１回　統計１／平均値の差の検定
第２回　統計２／分散分析
第３回　統計３／回帰分析
第４回　身体形態１（人体の線計測法・上半身）
第５回　身体形態２（人体の線計測法・下半身）
第６回　身体形態３（体脂肪）
第７回　新体力テスト／筋力
第８回　新体力テスト２／跳躍・敏捷性
第９回　新体力テスト／持久力
第10回　心拍数１（安静心電図と負荷心電図）
第11回　心拍数２（最大酸素摂取量と心拍数）
第12回　心拍数３（運動中の心拍数と主観的運動強度）
第13回　血中乳酸の分析と運動強度（運動負荷の設定）
第14回　血中乳酸の分析と運動強度（定常状態の確認）
第15回　血中乳酸の分析と運動強度（LT 強度）

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　50%　平常点による評価
そ　の　他　50%　研究発表

備考・関連URL

授業科目名： トレーニング科学演習（2）B	担当教員名： 岡田　純一

授業の概要

目的に適した身体能力を備えること、身体能力を競技力へと結びつけること、そのために必要なあらゆる体力要素を向上させること、目的とする時期にその状態を整えることなど、コンディショニングが含有する意図は多様である。

授業の到達目標

コンディショニングに関わるレジスタンストレーニングのプログラムデザイン、体力や対象者の生理学的、バイオメカニクス的特性に関する研究法を学ぶ。

授業計画

第１回　筋電図１（分析法）
第２回　筋電図２（動作と筋放電）
第３回　筋電図３（強度と筋放電量）
第４回　動作分析１（分析法）
第５回　動作分析２（デジタイズ）
第６回　動作分析３（課題測定）
第７回　無酸素パワー測定１（自転車エルゴメータ）
第８回　無酸素パワー測定２（走動作）
第９回　無酸素パワー測定３（跳躍動作）
第10回　動作パワー測定１（測定機器の操作と手順）
第11回　動作パワー測定２（試行回数の検討）
第12回　動作パワー測定３（最大パワーの決定とその妥当性）
第13回　MRI の活用１（画像データの管理）
第14回　MRI の活用２（画像分析法）
第15回　MRI の活用３（再現性の検証）

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　50%　平常点による評価
そ　の　他　50%　研究発表

備考・関連 URL

授業科目名： チームスポーツコーチング論演習（2）A	担当教員名： 松井　泰二

授業の概要

チームスポーツにおける「データ分析」の方法およびその発展的視点を創出する.

授業の到達目標

チームスポーツにおける「データ分析」の基礎的知識を習得する．また，「データ分析」における新たな視点を創出する.

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　データとは
第３回　アナリスト，スコアラーなど分析者の役割
第４回　競技のルールを理解し分析する
第５回　戦略・戦術・作戦・技術
第６回　ゲーム構造
第７回　データ分析の方法（1）プレイヤー分析
第８回　データ分析の方法（2）システム分析
第９回　データ分析の方法（1）オフェンス分析
第10回　データ分析の方法（2）ディフェンス分析
第11回　データ分析の方法（3）チーム分析
第12回　情報伝達の仕方，コミュニケーションスキル
第13回　ミーティングの方法
第14回　各競技におけるデータ分析（1）サッカー，バスケットボール，ハンドボールなどの競技
第15回　各競技におけるデータ分析（2）バレーボール，バドミントン，アメリカンフットボールなどの競技

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　授業への取り組みの評価

備考・関連URL

授業科目名： チームスポーツコーチング論演習（2）B	担当教員名： 松井　泰二

授業の概要

チームスポーツにおける「データ分析」の方法およびその発展的視点を創出する.

授業の到達目標

チームスポーツにおける「データ分析」の現状および課題を明らかにし，課題解決に向けて科学的視点から発表することができる.

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　データ分析の概要
第３回　関連文献の購読（1）個人技術について
第４回　関連文献の購読（2）チーム戦術について
第５回　自身の競技におけるデータ分析（1）プレゼンテーションの準備　　ゲーム構造
第６回　自身の競技におけるデータ分析（2）プレゼンテーションの準備　　オフェンス
第７回　自身の競技におけるデータ分析（3）プレゼンテーションの準備　　ディフェンス
第８回　自身の競技におけるデータ分析（4）プレゼンテーションの準備　　システム
第９回　自身の競技におけるデータ分析（5）プレゼンテーションの準備　　戦略
第10回　プレゼンテーション（1）ゲーム構造
第11回　プレゼンテーション（2）オフェンス
第12回　プレゼンテーション（3）ディフェンス
第13回　プレゼンテーション（4）システム
第14回　プレゼンテーション（5）戦略
第15回　総括

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　60%　レポートによる評価
平常点評価　40%　プレゼンテーションおよび授業への取り組みの評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
武道のコーチング学演習（2）A	射手矢　岬

授業の概要

武道のコーチングに関する研究課題について実験手法や発表等の演習指導を行う。科学的なアプローチで課題解決をする能力を養うため，具体的な実験や測定を行い，結果の分析や考察の方法，論理的なまとめ方を指導する。

授業の到達目標

道のコーチング研究に関する理解を深め，課題解決能力を身につける。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究テーマの決め方
第３回　実験計画と仮説の立て方
第４回　実験または測定①：力測定
第５回　実験または測定②：パワー測定
第６回　実験または測定③：筋電図
第７回　実験または測定④：映像解析法（二次元）
第８回　実験または測定⑤：映像解析法（三次元）
第９回　データ分析と結果①：データの読み方
第10回　データ分析と結果②：信頼性と妥当性の検討
第11回　データ分析と結果③：結果表記の仕方
第12回　結果の討議①：仮説検証
第13回　結果の討議②：先行研究との比較検討
第14回　結果の討議③：結果から一般化へ
第15回　総括とまとめ（到達度の確認を含む）

教科書

リサーチメソッド、朝倉書店、1998

参考文献

成績評価方法

平常点評価　50%　主体的（積極的）な授業への取り組みの評価
そ　の　他　50%　研究発表，到達度の確認

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
武道のコーチング学演習（2）B	射手矢　岬

授業の概要

武道のコーチングに関する研究課題について実験手法や発表等の演習指導を行う。科学的なアプローチで課題解決をする能力を養うため，具体的な実験や測定を行い，結果の分析や考察の方法，論理的なまとめ方を指導する。

授業の到達目標

武道のコーチング研究に関する理解を深め，課題解決能力を身につける。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　論文構成の考え方
第３回　論文の目的と仮説立案
第４回　研究方法の書き方①：対象、実験方法
第５回　研究方法の書き方②：データ分析方法、統計解析方法
第６回　結果の書き方①：図表の読み方と解説方法
第７回　結果の書き方②：仮説検証
第８回　考察の書き方①：先行研究との比較検討
第９回　考察の書き方②：問題点と研究の限界
第10回　結論と抄録（要旨）の書き方
第11回　引用参考文献リストの作成方法
第12回　英文抄録（要旨）作り方
第13回　プレゼンテーション①：基本ルール（体裁、図表、論理構成）
第14回　プレゼンテーション②：スライドの構成とストーリー性
第15回　総括とまとめ（到達度の確認を含む）

教科書

参考文献

英語論文によく使う表現、創元社、1993

成績評価方法

平常点評価　50%　主体的（積極的）な授業への取り組みの評価
そ　の　他　50%　研究発表，到達度の確認

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
武道思想史特論	志々田　文明

授業の概要

近代史における日本武道は、学校教育と警察への導入によってその発展の地盤を形成してきた。それは急速な文化の西洋化の動向に対する反動でもある日本のナショナリズム勃興の一環であったともいえる。武道は一般に日本的な「タテ社会」の人間関係の中で、基本や形の反復によって修行されるため、礼儀正しい人間を養成するためには有用である。つまり武道は、伝統的文化様式や慣行を維持するための装置として有効な機能をもつ。一方で武道は、オリンピック種目としての柔道に代表されるように、日本発祥の競技スポーツとして世界に発展している。そこでは普通の競技スポーツと同様に、勝つことが求められている。こうした両面をもつ武道は、国際社会におけるコミュニケーションのツールとして有効な文化なのである。

本年度の講義では、古い武術の価値観から近代・現代社会の価値観への転換の必要性を踏まえて、武道のあり方の問題を技術的問題を視野において「武道の現代化」として論じた富木謙治の論文を検討する。特にそこに含まれる技術上の指摘が武道の本質と関わる問題を考察する。

授業の到達目標

１．古い武術の価値観と近代・現代社会の価値観の違いを理解したか。
２．武道の形について理解したか？
３．武道の近代化・現代化の意味を理解したか。
４．宮本武蔵と柳生宗矩の思想を理解したか。
５．日本武道における自然体の意味を理解したか。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）
第２回　武道と体育思想/ 伝統の武道と現代の体育
第３回　武道と体育思想/ 伝統の武道と現代の体育
第４回　形の研究/ 礼法
第５回　形の研究/ 礼法
第６回　武道の現代化：その意義と方法
第７回　武道の現代化：その意義と方法学校武道の在り方
第８回　自然体の理論的解明
第９回　自然体の理論的解明
第10回　自然体の理論的解明
第11回　剣道論：宮本武蔵『五輪書』
第12回　剣道論：柳生宗矩『兵法家伝書』
第13回　「みち」としての柔道：嘉納治五郎の遺訓
第14回　教育愛と体育
第15回　到達度確認レポート

教科書

＊富木謙治著『武道論』（大修館書店）

参考文献

渡辺一郎校訂『五輪書』岩波文庫
渡辺一郎校訂『兵法家伝書』岩波文庫
稲垣源四郎『弓の心』

成績評価方法

平常点評価　100%　授業への出席、態度（遅刻など）、小テスト、到達度の確認などを総合して評価する。

備考・関連URL

https://sites.google.com/site/fshishidalab/
https://sites.google.com/site/dongajiawushuwudaoforamu/

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ教育学特論	友添　秀則

授業の概要

本講義では、生涯スポーツ時代を視野に入れスポーツ教育のあり方を考察する。

具体的には、スポーツ教育を取り巻く社会的な状況の考察から、スポーツ教育の存在意義や価値論、具体的な授業方法論にまで言及する。

特に、教育の存在論にまで遡って考察していく。

授業の到達目標

本講義では、スポーツ教育の存在意義やスポーツ教育を取り巻く社会的状況を理解できるようになることをめざしている。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　スポーツとは何か
第３回　スポーツの楽しさの意味と教育
第４回　スポーツ教育をめぐる諸相
第５回　スポーツの過去・現在・未来と教育
第６回　スポーツにおけるフェアとアンフェア
第７回　アスリートと教育的課題
第８回　スポーツ・身体・教育
第９回　ドーピングの倫理的問題性
第10回　スポーツ教育とスポーツ科学
第11回　アスリートのミッションと教育的意義
第12回　スポーツ教育のプロフェッション
第13回　スポーツ教育を支える論理
第14回　スポーツ教育と指導者の在り方
第15回　レポート課題と解説

教科書

スポーツのいまを考える（創文企画）

参考文献

成績評価方法

平常点評価　80%　各自に割りあてられたテーマに関する発表内容について評価する。
そ　の　他　20%　授業での発言やとりくみを評価する。

備考・関連URL

授業での積極的なとりくみや発言を期待している。

授業科目名： スポーツ社会学特論	担当教員名： 中澤　篤史

授業の概要

「ニッポン」をテーマにして、日本研究（Japanese studies）の中で、スポーツや身体がどう理解されてきたかを、社会学の立場から考える。テキストは、Wolfram Manzenreiter (2013), Sport and Body Politics in Japan, Routledge. を使用する。

授業の到達目標

スポーツと身体に関する社会学的理解を、日本研究の文脈と絡めながら深めること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　テキストの講読と討議（１）理論的枠組み
第３回　テキストの講読と討議（２）研究対象としてのニッポン
第４回　テキストの講読と討議（３）近代化
第５回　テキストの講読と討議（４）身体
第６回　テキストの講読と討議（５）資本
第７回　テキストの講読と討議（６）都市
第８回　テキストの講読と討議（７）戦争
第９回　テキストの講読と討議（８）ジェンダー
第10回　テキストの講読と討議（９）ビジネス
第11回　テキストの講読と討議（10）高齢化
第12回　テキストの講読と討議（11）健康
第13回　テキストの講読と討議（12）日韓Ｗ杯
第14回　テキストの講読と討議（13）グローバリゼーション
第15回　総括論議

教科書

Wolfram Manzenreiter (2013), Sport and Body Politics in Japan, Routledge. を使用するが、受講者にはその都度、配布する。

参考文献

なし。

成績評価方法

平常点評価　100% テキスト内容の理解度

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ史特論	石井　昌幸

授業の概要

スポーツ文化の形成と展開の過程を、主としてヨーロッパを中心に論じる。古代ギリシア、中世キリスト教社会についても触れるが、特に近代ヨーロッパ（主にイギリス）社会におけるスポーツ文化の形成過程を中心に論じる。

授業の到達目標

スポーツ文化の形成過程についての専門的知識を習得する。私たちが日常的に接しているスポーツは、どのようにして形成されたのかを、それぞれの時代社会とのつながりのなかで考察する力を身につける。

授業計画

第１回　ガイダンス：歴史学とはなにか。スポーツに「歴史」はあるか
第２回　現代スポーツと古代ギリシア：規範的イメージの形成〈1〉
第３回　現代スポーツと古代ローマ　：規範的イメージの形成〈2〉
第４回　中世ヨーロッパの社会と娯楽：宮廷文化
第５回　中世ヨーロッパの社会と娯楽：民衆文化
第６回　暦のなかの娯楽：農村社会と民俗的娯楽
第７回　工業化と改良主義：民衆娯楽の衰退と「レクリエーション」の誕生
第８回　パブリック・スクールにおける「アスレティシズム」の成立
第９回　国民国家と体操ムーヴメント
第10回　プロ・スポーツの誕生
第11回　近代日本におけるスポーツと体育
第12回　国策としてのスポーツ：ベルリンからモスクワまで
第13回　戦後日本のスポーツ
第14回　スポーツのグローバル化
第15回　到達度の確認と講評

教科書

使用しない。授業時に毎回資料を配布。

参考文献

Richard Holt, Sport and the British, Oxford University Press, 1988.

成績評価方法

試　　験	50%	第15回目の授業時間中に到達度・理解度の確認を行います。
レ ポ ー ト	20%	第７回目の授業後、前半の授業内容の理解度を確認するレポート課題を出します。
平常点評価	30%	出席を取る際に配布するコメントペーパーをもちいて、小テストを行います。
そ の 他		特になし

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
舞踊表現特論	杉山　千鶴

授業の概要

舞踊を、表現を担うとはどういうことか。これを考えるために、本講義ではバレエ・ダンサーと歌舞伎役者をと取り上げる。彼ら／彼女らが、どのような流れの中で舞踊・表現を体現しているのか、当該ジャンルと当該人物の来歴について概観した後に、ドキュメンタリー映像より一部抜粋して観賞し、ディスカッションする。そして舞踊・表現することの意味と意義、それによって課されるものについて考える。

本講義で扱う内容は、舞踊・表現に特化されるが、身体活動全般に共通するところが多い。従って本講義を通じて考えたことを、各自に最も身近な身体活動に活かすことを望む。

なお本講義に大いに資するという点から、バレエ、歌舞伎等々の公演観賞を行う。

授業の到達目標

表現とは何か。その解答を各自見つける。

授業計画

第１回　ガイダンス：本講義の概要と舞台鑑賞についての説明
第２回　歌舞伎役者：歌舞伎役者という存在について①
第３回　歌舞伎役者②：歌舞伎役者の事例：片岡仁左衛門その１
第４回　歌舞伎役者③：歌舞伎役者の事例：片岡仁左衛門その２
第５回　歌舞伎役者④：歌舞伎公演観賞を前に・・・上演作品、出演する役者、歌舞伎座という文化について
第６回　歌舞伎役者⑤：歌舞伎公演の鑑賞
第７回　歌舞伎役者⑥：歌舞伎公演鑑賞を振り返る
第８回　バレエ・ダンサー①：バレエ・ダンサーという存在について
第９回　バレエ・ダンサー②：バレエ技術の進化と変容
第10回　バレエ・ダンサー③：バレエ・ダンサーの事例①森下洋子
第11回　バレエ・ダンサー④：バレエ公演鑑賞を前に・・・作品、当該バレエ団とダンサーについて
第12回　バレエ・ダンサー⑤：バレエ公演鑑賞を振り返る
第13回　バレエ・ダンサー⑥：蘇生するバレエ作品とダンサーに求められるもの
第14回　バレエ・ダンサー⑥：現代バレエの作品とダンサーに求められるもの
第15回　まとめ：舞踊・表現を担うということを考える総括。

教科書

特になし。

参考文献

森下洋子『森下洋子ーバレリーナの情熱』（日本図書センター）
村山久美子『二十世紀の 10 大バレエダンサー』（東京堂出版）
草刈民代・浅井佳代子『舞うひと　草刈民代×古典芸能のトップランナーたち』（淡交社）
小松成美『仁左衛門恋し』（徳間文庫）
堀越一寿『歌舞伎四〇〇年の言葉』（芸術新聞社）

成績評価方法

試　　験		実施しない
レポート	50%	鑑賞した公演の感想、表現についての考え
その他	50%	出席点

備考・関連URL

公演鑑賞の日程により、上記の授業計画に変動の生じることがある。

授業科目名： 体育科教育特論	担当教員名： 吉永　武史

授業の概要

　体育科教育学は、体育授業を中心とする体育実践の改善を目的として行われる研究分野である。本講義では、カリキュラム論ならびに教授・学習指導論の両面から体育授業の構造について解説し、よい体育授業を実践するための基礎的・内容的条件について考察する。

授業の到達目標

　本講義では、カリキュラム論ならびに学習指導論の両面から体育授業の構造について解説し、よい体育授業を実践するための条件についての理解を深める。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　体育目標の変遷と体育概念の変化－身体の教育、スポーツによる教育、スポーツの中の教育－
第３回　体育の運動領域論－脱種目主義による運動の分類論－
第４回　体育の教育課程論－学習指導要領にみるカリキュラム改革の動向－
第５回　体育の学習内容論－「学習内容」の概念と構造－
第６回　体育の教材づくり論－教材づくりの基本的視点－
第７回　体育の学習指導論－指導ストラテジーと学習形態－
第８回　体育の学習過程論－学習過程モデルの選択－
第９回　体育の指導技術論－授業のマネジメントと相互作用行動－
第10回　体育の評価論－学習評価と授業評価－
第11回　体育の授業研究（１）経験的方法による研究
第12回　体育の授業研究（２）授業分析法①：授業場面期間記録法による授業のマネジメントに関する分析
第13回　体育の授業研究（３）授業分析法②：相互作用行動観察法による授業中の教師行動に関する分析
第14回　体育の授業研究（４）体育教師教育研究
第15回　総括ならびにレポート課題

教科書

　必要に応じて適宜紹介する。

参考文献

　必要に応じて適宜紹介する。

成績評価方法

レ ポ ー ト　40%　第15回目に課題を提示する。与えられた課題について講義内容と関連づけながら深く考察しているかどうかを評価する。
平常点評価　60%　授業の理解度を確認するために毎時間リアクションペーパーを作成し、評価する。また、出席状況を含めた授業への積極性を評価する。

備考・関連URL

　受講者は、体育科教育学の基本的知識を持っていることが望ましい。

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ教授学特論	深見　英一郎

授業の概要

本講義では、学校の制度的条件の下で行われる学校スポーツ、特に授業という形態で行われる学校スポーツの教授学について概説する。具体的には、これまでのスポーツ教授学研究の成果を参照しながら、技術･戦術学習や認知的学習、社会的行動の学習について詳述するとともに、VTR により実際のスポーツ授業を紹介し、優れた運動・スポーツ指導を行うために必要な観察眼と批判力の育成を図る。

授業の到達目標

①国内外におけるこれまでのスポーツ教授学研究の成果及び課題を理解する。
②スポーツ教育学における技術･戦術学習や認知的学習、社会的行動の学習について理解する。
③これまでのスポーツ教授学研究の成果及び課題をふまえ、優れたスポーツ指導のあり方を創造できるようになる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　スポーツのもつ教育的可能性－スポーツの魅力・価値・意味－
第３回　スポーツ教育の学問体系
第４回　スポーツ授業の目標論
第５回　スポーツ授業の内容論（１）技術学習、戦術学習
第６回　スポーツ授業の内容論（２）認知的学習、社会的行動学習
第７回　スポーツ授業の内容編成論
第８回　スポーツ授業の教材づくり論－教材づくりの原理と方法－
第９回　スポーツ授業の教授技術（１）－モニタリングと相互作用－
第10回　スポーツ授業の教授技術（２）－マネジメントとインストラクション－
第11回　スポーツ授業の評価論－診断的・総括的授業評価、形成的授業評価、ゲーム分析法－
第12回　スポーツ教授学の研究方法（１）授業のマネジメントと期間記録
第13回　スポーツ教授学の研究方法（２）教師の相互作用行動
第14回　スポーツ教授学の研究方法（３）学習資料とフィードバック
第15回　総括ならびにレポート課題

教科書

必要に応じて資料等を配布する。

参考文献

岡出美則・友添秀則・松田恵示・近藤智靖 編著「新版　体育科教育学の現在」創文企画，2015
コンラッド･ウィドマー，蜂屋慶「スポーツ教育学―その構造と研究法に対する理論的考察」東洋館出版社,1980
ダリル･シーデントップ 著,高橋健夫 監訳「新しい体育授業の創造―スポーツ教育の実践モデル」大修館書店,2003
ダリル･シーデントップ 著,高橋健夫 訳「体育の教授技術」大修館書店，1988
オモ･グルーペ，ミハエル･クリューガー「スポーツと教育―ドイツ・スポーツ教育学への誘い」ベースボールマガジン社，2000
高橋健夫・友添秀則ほか編著「体育科教育学入門」大修館書店，2010

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　中間レポート・期末レポート。講義内容の理解度、論理構成、表現力を評価する。
平常点評価　30%　毎時間のリアクションペーパー。講義内容を深く理解し考察しているかどうかを評価する。
そ の 他　20%　出席状況及び履修態度を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ経営学特論	木村　和彦

授業の概要

本講義では、日本および北米、ヨーロッパを中心としてスポーツ経営学（スポーツマネジメント）の学史的な流れを概観し、経営学を対照にしながらスポーツ経営学の学問的性格を検討するとともに、スポーツ経営学における研究課題や研究方法について解説する。また学校、地域、プロスポーツ、スポーツツーリズムなど、スポーツ経営の実践領域を選択し、今日的な研究的および実践的な課題について検討する。

授業の到達目標

スポーツ経営学の学問的な系譜、学的性格、研究課題や研究方法について理解するとともに、実践領域の現状と課題に対して議論できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　スポーツ経営学の系譜（１）日本、アジア
第３回　スポーツ経営学の系譜（２）北米、ヨーロッパ、オセアニア
第４回　スポーツ経営学の学的性格
第５回　スポーツ経営学の研究課題と研究方法
第６回　小テスト
第７回　スポーツ経営の実践領域（１）学校体育と地域スポーツ
第８回　スポーツ経営の実践領域（２）大学とプロスポーツ
第９回　スポーツ経営の実践領域（３）スポーツツーリズムとイベント
第10回　スポーツ経営の実践領域（４）スポンサーシップ
第11回　スポーツ経営の実践領域（５）施設マネジメント
第12回　スポーツ経営の実践領域（６）経営倫理問題
第13回　スポーツ経営の実践領域（７）契約とネゴシエーション
第14回　スポーツ経営学の課題
第15回　小テストと解説

教科書

参考文献

体育・スポーツ経営学講義（大修館書店）

成績評価方法

試　　験　40％ 小テスト２回。
平常点評価　60％ 出席と議論への参加の程度。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康スポーツマネジメント特論	中村　好男

授業の概要

　健康スポーツの推進・振興は、現代社会における社会的ニーズの一つである。本講義では、健康スポーツ振興に関わる諸問題についての実践解決技法を習得することを目標として、身体行動科学や社会マーケティングの基礎理論を踏まえたうえで、健康スポーツマーケティングの各種事例を学習する。さらに、各自が関心を持つ研究課題について発表し、具体的事例についての理解を深める。

授業の到達目標

・健康スポーツ振興に関わる諸問題についての基礎理論ならびに実線技法を理解する。
・健康スポーツに関わる具体的事例を分析・検証して発表できる。

授業計画

第１回　健康スポーツの背景～身体活動と生活習慣病～
第２回　健康スポーツにおけるマーケティングの役割
第３回　健康スポーツマーケティングの事例（１）教室型プログラム
第４回　健康スポーツマーケティングの事例（２）組織づくりと運営
第５回　健康スポーツマーケティングの事例（３）チャネルプログラム
第６回　健康スポーツマーケティングの事例（４）社会マーケティング
第７回　健康行動に関わる行動科学の諸理論
第８回　健康スポーツのプロモーション：チャネルとメッセージフレーミング
第９回　課題事例発表（１）
第10回　課題事例発表（２）
第11回　課題事例発表（３）
第12回　課題事例発表（４）
第13回　課題事例発表（５）
第14回　課題事例発表（６）
第15回　まとめ

教科書

　特になし。個別に指示。

参考文献

　特になし。個別に指示。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名： スポーツビジネスマネジメント特論	担当教員名： 原田　宗彦

授業の概要

スポーツにおける産業化と複合化によって、スポーツ産業は進化を続けている。その中でもとりわけ権利ビジネスの発展は、スポーツのメディア価値を増大させ、従来のスポーツ産業の構造をドラスティックに変化させるとともに、研究領域においても様々なパラダイムシフトをもたらした。本講義においては、スポーツビジネスのマクロ的視点として「スポーツと地域イノベーション」に関する研究、そしてミクロ的視点として「スポーツ消費者の行動学的分析」に関する研究に関心を寄せながら、様々な視覚からスポーツビジネスとマネジメントの問題を取り上げたい。例えばマクロ的視点では、スポーツ振興モデルを応用した政策提言的研究やスポーツイベントの経済効果に関する研究、ミクロ的視点ではプロスポーツにおけるファンのチームロイヤルティに関する研究や、スポーツ・フィットネス産業における経験価値マーケティングに関する研究などの研究がある。さらにメゾレベルの研究として、コミュニティビジネスとしてのクラブマネジメントの問題にも言及する。

授業の到達目標

スポーツビジネスマネジメントの基礎知識と理論的枠組み、そして現場への応用について学習する。

授業計画

第１回　授業ガイダンス：日本におけるスポーツディベロップメント
第２回　概念装置としてのスポーツ消費者
第３回　クラブ事業のマネジメント
第４回　地域スポーツ振興論
第５回　公共スポーツ施設のマネジメント
第６回　プロスポーツのマネジメント
第７回　スポーツマーケティング概論
第８回　チームロイヤルティとブランドエクイティ
第９回　スポーツが誘発する地域イノベーション
第10回　スポーツファンと経験価値マネジメント
第11回　スポーツサービス論
第12回　プレゼンテーションⅠ
第13回　プレゼンテーションⅡ
第14回　プレゼンテーションⅢ
第15回　プレゼンテーションⅣ

教科書

原田宗彦編著「スポーツ産業論第５版」杏林書院（2011 年）

参考文献

スポーツビジネス叢書（原田宗彦編著）「スポーツマーケティング」(2009 年)、「スポーツマネジメント」(2008 年)、「スポーツツーリズム」(2009 年) 大修館書店

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　第12回から15回目の授業中にチームプレゼンテーションを実施し、クォリティを評価する。
平常点評価　30%　毎回の授業に関するテーマ感想文の内容を評価する。
そ の 他　20%　出席率を評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツビジネス法特論	松本　泰介

授業の概要

　競技団体を中心とした、スポーツビジネスをめぐる法的諸問題について、実体法、手続法を一括して取扱い、総合的な視点からの解説を行う。講義では、特に、近年問題となっているホットトピックを中心にテーマ設定を行い、実践的な講義を実施する。

授業の到達目標

　スポーツビジネスをめぐる法的諸問題に関するバランス感覚のあるルール形成、適切な紛争解決の在り方を可能とする思考力を身につける。

授業計画

第１回　スポーツビジネス法概観
第２回　スポーツビジネスにおける興行契約をめぐるルール形成と契約交渉
第３回　スポーツビジネスにおけるスポンサー契約をめぐるルール形成と契約交渉
第４回　スポーツビジネスにおける放映権契約をめぐるルール形成と契約交渉
第５回　スポーツビジネスにおける商品化契約をめぐるルール形成と契約交渉
第６回　選手契約、移籍契約をめぐるルール形成と契約交渉
第７回　スポーツ団体における地位をめぐるルール形成（アマチュア資格、エージェント資格など）
第８回　スポーツ団体の組織運営とスポーツガバナンス
第９回　スポーツ団体の代表選手選考とスポーツガバナンス
第10回　スポーツ団体の懲戒処分、紛争解決とスポーツガバナンス
第11回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（アンチ・ドーピング、八百長）
第12回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（差別、暴力・セクハラ）
第13回　スポーツビジネスとインテグリティをめぐるルール形成（事故）
第14回　スポーツビジネスと国際ルール
第15回　スポーツビジネスとスポーツ基本法

教科書

　日本スポーツ法学会編、「スポーツ法標準テキスト」（第２版）、エイデル研究所

参考文献

日本スポーツ仲裁機構、「NF 組織運営におけるフェアプレーガイドライン　～NF のガバナンス強化に向けて」
その他随時紹介

成績評価方法

レ ポ ー ト　70%　毎回終了後の提出するレポート内容による
平常点評価　30%　授業の取り組みを評価する。

備考・関連URL

授業科目名： メディカルコンディショニング特論	担当教員名： 赤間　高雄

授業の概要

健康で疲労感がなく、体調面でよいコンディションにすることをメディカルコンディショニングと呼ぶ。メディカルコンディショニングの基本はアスリートの健康管理であり、コンディションの悪化要因としてのスポーツ外傷・障害および疾病について予防、早期発見、治療をおこなうことである。この講義では、アスリートの健康管理と内科的スポーツ障害について解説する。また、アスリートのコンディショニングにおいて重要なアンチ・ドーピングの最新情報を解説する。

授業の到達目標

アスリートの健康管理、内科的スポーツ障害、アンチ・ドーピングについて、アスリートのメディカルコンディショニングに必要な知識を理解する。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。
第２回　コンディショニング、健康管理、メディカルチェック
第３回　横紋筋融解症
第４回　貧血
第５回　オーバートレーニング
第６回　スポーツと感染症（かぜと免疫）
第７回　医学的コンディショニング、招聘講師を予定
第８回　熱中症
第９回　喘息、過換気、アレルギー
第10回　海外渡航（時差ボケなど）、特殊環境（高山病など）
第11回　スポーツと感染症（食中毒、血液媒介病原体）
第12回　アンチ・ドーピング（１）、規則
第13回　アンチ・ドーピング（２）、ドーピング検査
第14回　アンチ・ドーピング（３）、禁止物質
第15回　メディカルコンディショニングのまとめ

教科書

とくになし

参考文献

原則として、毎回の講義で講義資料を配布する。
参考書：スポーツ医学【内科】、赤間高雄編、化学同人.

成績評価方法

試　　験		試験は実施しません。
レ ポ ー ト	70%	Course N@vi で提出してもらいます。
平常点評価	30%	出席状況と授業中の積極性、質問に対する応答状況を総合的に評価します。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ神経精神医科学特論	西多　昌規

授業の概要

This lecture will be given in English language. No other language will be used in the classroom. Students who take this course require having a higher level of ability in English listening comprehension and conversation （i.g., TOEIC 750 or above）.

By studying this course, students will obtain basic knowledge of neuroscience, EEG, sleep and biological rhythm related to sport science, as well as an ability to sufficiently discuss their research at poster sessions. Thus, students are required to explain scientific researches of their own and others at the class.

In the last part of the lecture, occasions for interactive discussion will be provided and students could demonstrate to present the ability to express their thoughts in English language related to sport psychiatry and neurosciences.

本コースのスライドなど講義資料は、基本的に英語で記載されています。この講義を受講する学生は、英語での読解能力だけでなく、英語でのコミュニケーションが取れるよう学習していくことが求められます。

本コースの内容としては、基礎的な神経科学、脳波、スポーツ科学に関連する睡眠と生体リズム、精神医学の講義を行い、ポスターセッションで議論ができる能力を身につけることを目指します。したがって、学生は自身の科学的研究について説明・発表することが求められます。

コースの最後２回では相互討論として、学生にはスポーツ精神医科学に関して自身が勉強した内容や考えの発表の機会を持ちます。国際学会での発表などもにらみ、英語での発表を行います。

授業の到達目標

・To be able to understand basic facts and terminology in this field.
・To be able to present own interest in this field.
・To be able to discuss issues in this field with certain level knowledge.
・精神医学、睡眠医学に関する基礎的知識、用語を習得します。
・スポーツ神経精神医科学における自身の興味関心を見つけます。
・研究に関する議論ができるようにします。

授業計画

第１回　Guidance
　　導入
第２回　Neuroscience １
　　神経科学1, 脳と神経解剖学
第３回　Neuroscience ２
　　神経科学 2, 神経ネットワーク
第４回　Neuroscience ３
　　神経科学 3, 神経の生化学
第５回　EEG １
　　脳波 1, 脳波の基礎
第６回　EEG ２
　　脳波 2, 睡眠ポリグラフ
第７回　EEG ３
　　脳波 3, 研究、調査への応用
第８回　Sleep and Biological Rhythm １
　　睡眠と生体リズム 1,睡眠の生理学
第９回　Sleep and Biological Rhythm ２
　　睡眠と生体リズム 2, 時間生物学;光とメラトニン
第10回　Sleep and Biological Rhythm ３
　　睡眠と生体リズム 3, 睡眠衛生と概日リズム
第11回　Sleep and Biological Rhythm ４
　　睡眠と生体リズム 4, 睡眠障害
第12回　Biological Psychiatry １

生物学的精神医学 1, 統合失調症、気分障害など
第13回 Biological Psychiatry 2
生物学的精神医学2,発達障害, 認知症など
第14回 Interactive Discussion 2
相互議論 1,基礎編
第15回 Interactive Discussion 3
相互討論 2,応用編

教科書

Materials will be delivered at the class.
教材は教室に適宜持ち込みます

参考文献

Recommended readings will be introduced at the class.
参考図書は講義にて紹介します。

成績評価方法

試　　験		No Exam 試験はありません
レ ポ ー ト		No report レポートはありません
平常点評価	100%	Attendance rate, Activeness in Discussion Evaluation of precise knowledge through discussion. 出席率、議論への積極性、議論での知識の妥当性などで評価します。
そ の 他		No other evaluation 他の評価はありません

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ内科学特論	坂本　静男

授業の概要

スポーツによる生理的変化と病的変化に関して、内科的観点から講義する。生理的変化としては、“体力”に対する効果、生活習慣病に対する効果などに関して述べる。病的変化としては、急性内科的障害では突然死、熱中症を主に、慢性内科的障害では貧血、オーバートレーニング症候群を主に述べる。心臓リハビリテーションやアンチ・ドーピング活動といった今日的な課題に関しても、その時の世の中の話題の程度に応じて、論じていくことになる。

授業の到達目標

スポーツによる生理的変化および病的変化に関して、修士課程の学生として、一般的教養（常識）として理解してもらうことを目標とする。

授業計画

第１回　オリエンテーション：目的、概要
第２回　メタボリックシンドロームに対する運動の効果総論：生活習慣
第３回　メタボリックシンドロームに対する運動の効果各論（１）－肥満症：インスリン感受性、中等度強度運動
第４回　メタボリックシンドロームに対する運動の効果各論（２）－脂質異常症：脂質酸化量、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール、中性脂肪
第５回　メタボリックシンドロームに対する運動の効果各論（３）－高血圧症：中等度強度運動、収縮期血圧、拡張期血圧、自由運動、強制運動
第６回　メタボリックシンドロームに対する運動の効果各論（４）－糖尿病、インスリン、GLUT4
第７回　メタボリックシンドロームに対する運動処方作成：運動種目、運動強度、運動継続時間、運動頻度
第８回　スポーツ選手のコンディショニング：運動、栄養、休養
第９回　スポーツ選手に対するスポーツ医・科学サポート：スポーツドクター、管理栄養士、アスレチックトレーナー
第10回　内科的スポーツ障害総論：急性障害、慢性障害、メディカルチェック
第11回　内科的スポーツ障害各論（1）：突然死、心筋梗塞、肥大型心筋症、先天性冠動脈奇形
第12回　内科的スポーツ障害各論（2）：熱中症、水分摂取、電解質摂取、WBGT
第13回　内科的スポーツ障害各論（3）貧血：鉄欠乏、血清鉄、フェリチン、ハプトグロビン
第14回　内科的スポーツ障害各論（4）オーバートレーニング症候群、早朝起床時心拍数、POMS 検査、慢性疲労
第15回　総まとめ：健康管理、コンディショニング、運動、栄養、休養

教科書

なし

参考文献

なし

成績評価方法

レ ポ ー ト　80%　毎回課題を与え、概説してもらう。
平常点評価　20%　質疑応答内容を考慮する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動器発育・発達特論	鳥居　俊

授業の概要

　スポーツや身体活動において用いられ損傷を受ける筋・腱、骨・軟骨、靭帯、神経などの運動器について、形態の発育や機能の発達がどのように生じているか、またどのような刺激により変わりうるか、などに関して論じる。可能な限り、この分野の最新の研究を題材に、論文抄読も含めて学生参加型で行う。

授業の到達目標

　運動器の各組織の発育･発達様式に関して知識を会得すること。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　体格の発育：講義
第３回　体格の発育：学生発表
第４回　骨の発育発達：講義
第５回　骨の発育発達：学生発表
第６回　筋の発育発達：講義
第７回　筋の発育発達：学生発表
第８回　腱の発育発達：講義
第９回　腱の発育発達：学生発表
第10回　軟骨の発育発達：講義
第11回　軟骨の発育発達：学生発表
第12回　神経の発育発達：講義
第13回　神経の発育発達：学生発表
第14回　靭帯の発育発達：トピックス講義
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　70%　レポートによる評価
平常点評価　30%　平常点による評価

備考・関連URL

授業科目名： アスレティックトレーニング特論	担当教員名： 広瀬　統一

授業の概要

本講義では、アスレティックトレーニングの中でも主にスポーツ傷害発症に関わる身体要因（内的要因）について、身体運動を観察しながら分析、検討する。

授業の到達目標

〈1〉「身体運動観察学」の観点から、スポーツの基本動作の分析と、誤った身体操作に影響する要因を説明できる。
〈2〉誤った身体操作と傷害発症の関連を説明できる。
〈3〉上述した諸問題を改善するための方法を提示することができる。

授業計画

第1回　オリエンテーション・アスレティックトレーニングにおける動作分析の例
第2回　オリエンテーション・アスレティックトレーニングにおける動作分析の例
第3回　スポーツ傷害予防の科学的基礎と実際（アスレティックトレーニング）
第4回　スポーツ傷害予防の科学的基礎と実際（アスレティックトレーニング）
第5回　発育発達
第6回　発育発達
第7回　動作の分析1
第8回　動作の分析1
第9回　身体の材質的見方（ゲストスピーカー）
第10回　身体の材質的見方（ゲストスピーカー）
第11回　動作の分析2
第12回　動作の分析2
第13回　動作の分析3
第14回　動作の分析3
第15回　動作の分析4

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　毎回のプレゼン内容やディスカッションへの参加姿勢を受講者全員で相互に評価し、成績に反映させる

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
運動代謝学特論	宮下　政司

授業の概要

　生体の機能を理解するうえで、「代謝」を体系的に理解ができるよう概説する。また、運動との関連を深めるために運動生理学・応用健康科学の分野における、人を対象とした実験手法を学びながら、補助的に実験実習を行う。

授業の到達目標

・代謝学を総体的に学び、運動時やその後の反応も含め運動との関係性について体系的に理解ができるようになる。
・運動代謝学に関連する実験手法を学び実践的に応用ができるようになる。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　消化と吸収
第３回　エネルギーの産生
第４回　実験実習（１）：運動負荷試験
第５回　肝臓における代謝
第６回　骨格筋における代謝
第７回　腎臓における代謝
第８回　脳における代謝
第９回　運動と糖質代謝
第10回　運動と脂質代謝
第11回　運動とタンパク質代謝
第12回　実験実習（２）：血液分析（脂質・糖質）
第13回　実験実習（３）：血液分析（タンパク質）
第14回　発表と討議（１）運動代謝とパフォーマンス
第15回　発表と討議（２）運動代謝と健康

教科書

　なし。

参考文献

　「代謝ガイドブック」霜田幸雄（著）株式会社技術評価論社, 東京, 2014 年
　「Exercise Metabolism」 Hargreaves M and Lawrence S (Editors), Human Kinetics, 2005

成績評価方法

平常点評価　100% 発表・討議などにおける積極性や発表内容を総合的に評価する。

備考・関連URL

　内容が前後したり変更することもある。

授業科目名：	担当教員名：
運動器スポーツ機能解剖学特論	熊井　司

授業の概要

スポーツ選手にとって、運動器に発生する外傷・障害はパフォーマンス低下を引き起こすだけでなく、キャリアエンディングにも関わる重要な課題となる。運動器のスポーツ機能解剖学的観点から病態を把握し、治療・予防法を考案、実施するための手法について学び、研究の方向性を模索する。

これまでに報告されているスポーツ機能解剖学に関する代表的な研究論文を抄読し、新たな研究テーマを導き出すためのディスカッションを行う。

授業の到達目標

運動器スポーツ外傷・障害を克服するための新たな研究テーマを確立する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　機能解剖学的研究手法の解説１：肉眼解剖学的手法
第３回　機能解剖学的研究手法（肉眼解剖学的手法）に関する論文抄読とディスカッション
第４回　機能解剖学的研究手法の解説２：組織学的手法
第５回　機能解剖学的研究手法（組織学的手法）に関する論文抄読　routine histology
第６回　機能解剖学的研究手法（組織学的手法）に関する論文抄読　immunohistochemistry
第７回　機能解剖学的研究手法の解説３：組織形態計測による手法
第８回　機能解剖学的研究手法（組織形態計測による手法）に関する論文抄読とディスカッション
第９回　機能解剖学的研究手法の解説４：生体力学的手法
第10回　機能解剖学的研究手法（生体力学的手法）に関する論文抄読とディスカッション
第11回　機能解剖学的研究手法の解説５：超音波特性計測による手法
第12回　機能解剖学的研究手法（超音波特性計測による手法）に関する論文抄読とディスカッション
第13回　機能解剖学的研究手法の解説６：各種機器を用いた介入研究
第14回　機能解剖学的研究手法（各種機器を用いた介入研究）に関する論文抄読とディスカッション
第15回　総括　レポート提出

教科書

Orthopaedic Basic Science (AAOS), Netter’s Sports Medicine (Elsevier)

参考文献

最新のスポーツ医学系雑誌

成績評価方法

レ ポ ー ト　80% 研究テーマと研究計画の立案についてのレポートを提出
平常点評価　20% 受講態度、出席状況、課題到達度を評価。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康教育学特論	石井　香織

授業の概要

本講義では、健康づくり・ヘルスプロモーションに活用される健康教育の理論やモデルの基本的考え方について学ぶとともに、それを応用したさまざまな実践例について学ぶ。講義を通じ、人々のQOLの向上に向けたライフステージや生活の場の視点から、健康教育の知識・技術を理解する。また、各理論のフレームを用いて学校、地域、職域における健康教育の実践方法などを学び、プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をディスカッションやレポートで深める。

授業の到達目標

健康教育学の考え方を応用して、健康行動（特に、身体活動・運動）を推進させるための支援方法に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。

授業計画

第１回　ガイダンス　健康および健康教育・ヘルスプロモーションの定義
第２回　個人内の理論・モデル　保健行動、病者役割行動、動機づけ理論、自己決定理論
第３回　個人内の理論・モデル　ヘルスビリーフモデル、計画的行動理論、合理的行為理論
第４回　個人内の理論・モデル　トランスセオレティカルモデル
第５回　個人間の理論・モデル　社会的認知理論
第６回　個人間の理論・モデル　ソーシャル・サポート、ソーシャル・ネットワーク
第７回　研究の方法論　事例研究法、混合研究法、介入研究法
第８回　健康教育の評価法
第９回　健康教育と学校
第10回　健康教育と職域
第11回　健康教育と地域
第12回　ライフスタイルと健康教育
第13回　ライフステージにあわせた健康教育
第14回　健康行動を推進させるための支援方法立案
第15回　総復習（到達度の確認を含む）とレポート課題　定期試験は実施しない。

教科書

特に指定しない。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

新しい健康教育―理論と事例から学ぶ健康増進への道（特定非営利活動法人日本健康教育士養成機構）、健康教育マニュアル（岡山明）

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポート内容
平常点評価　50%　授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
生体ダイナミクス特論	川上　泰雄

授業の概要

運動生理学・バイオメカニクスの分野における、人間を対象とした実験手法や、筋骨格系の知識を学び、補助的に実験実習を行います。

対象となる手法は、筋力・筋パワー計測、超音波法やMRIなどの組織画像解析などを予定しています。

授業の到達目標

実験手法の理解と応用をめざす。

授業計画

第１回　オリエンテーション（本講義の目的と概要について説明します）
第２回　関連分野の知見についての学習（１）人間の身体形状
第３回　関連分野の知見についての学習（２）筋骨格系の解剖学１
第４回　関連分野の知見についての学習（３）筋骨格系の解剖学２
第５回　関連分野の知見についての学習（４）筋骨格系の解剖学３
第６回　関連分野の知見についての学習（５）筋収縮のメカニズム
第７回　関連分野の知見についての学習（６）筋腱複合体の機能１
第８回　関連分野の知見についての学習（７）筋腱複合体の機能２
第９回　関連分野の知見についての学習（８）筋腱複合体の機能３
第10回　実験実習（２）身体組成と骨格筋量の計測
第11回　データ分析（１）
第12回　発表と討議（１）実習データに関して
第13回　発表と討議（２）データに基づく考察に関して
第14回　総合討議（１）
第15回　総合討議（２）

教科書

授業時に適宜指示します。

参考文献

授業時に適宜指示します。

成績評価方法

レ ポ ー ト　50％ 授業中心、適宜レポートを課します。
平常点評価　50％ 発表・討議などにおける積極性を評価します。

備考・関連URL

関連URL：http://www.f.waseda.jp/ykawa/indexj.htm

授業科目名：	担当教員名：
運動生化学特論	樋口　満

授業の概要

Gordon S. Lynch 編集　Sarcopenia -Age-Related Muscle Wasting and Weakness Mechanisms and Treatments, Springer　2011　を用いて講義・発表・討論を行う。

授業の到達目標

サルコペニアと運動・加齢との関連について運動生化学的視点から理解を深める。

授業計画

第１回　Overview of Sarcopenia
(サルコペニアに関する概要)
【キーワード】サルコペニア

第２回　Alterations in Mitochondria and Their Impact in Aging Skeletal Muscle ①Age-Related Changes in Mitochondrial Function
(加齢による骨格筋におけるミトコンドリアの変化とその影響　①ミトコンドリア機能の加齢変化)
【キーワード】ミトコンドリア

第３回　Alterations in Mitochondria and Their Impact in Aging Skeletal Muscle ②Role of Mitochondria in Age-Related Muscle Deterioration
(加齢による骨格筋におけるミトコンドリアの変化とその影響　②加齢による骨格筋の萎縮に対するミトコンドリアの役割)
【キーワード】ミトコンドリア

第４回　Skeletal Muscle Collagen: Age, Injury and Disease
(骨格筋のコラーゲン：年齢、障害と疾患)
【キーワード】コラーゲン

第５回　Nuclear Apoptosis and Sarcopenia
(核のアポトーシスとサルコペニア)
【キーワード】アポトーシス

第６回　Age-Related Changes in the Molecular Regulation of Skeletal Muscle Mass
(骨格筋量の分子的制御における加齢変化)
【キーワード】骨格筋量、分子的制御

第７回　Genetic Variation and Skeletal Muscle Traits: Implications for Sarcopenia
(遺伝的差異と骨格筋の特性：サルコペニアとの関連性)
【キーワード】遺伝的差異

第８回　Proteomic and Biochemical Profiling of Aged Skeletal Muscle
(加齢した骨格筋のプロテオミクス的・生化学特徴)
【キーワード】プロテオミクス

第９回　Exercise and Nutritional Interventions to Combat Age-Related Muscle Loss ①Food Intake and Muscle Protein Turnover
(加齢に伴う筋の減少に対抗する運動と栄養による介入　①食物摂取と筋たんぱく質の代謝回転)
【キーワード】食物摂取

第10回　Exercise and Nutritional Interventions to Combat Age-Related Muscle Loss ②Exercise and Muscle Protein Turnover
(加齢に伴う筋の減少に対抗する運動と栄養による介入　②運動と筋たんぱく質の代謝回転)
【キーワード】運動

第11回　Reactive Oxygen Species Generation and Skeletal Muscle Wasting - Implications for Sarcopenia
(活性酸素種の発生と骨格筋の減少　ーサルコペニアとの関連性)
【キーワード】活性酸素

第12回　Exercise as a Countermeasure for Sarcopenia
(サルコペニア予防対策としての運動)
【キーワード】サルコペニア予防

第13回　Role of IGF-1 in Age-Related Loss of Skeletal Muscle Mass and Function
(加齢に伴う骨格筋量と機能の低下における IGF-1の役割)

【キーワード】IGF-1

第14回　Role of Myostatin in Skeletal Muscle Growth and Development: Implications for Sarcopenia
(骨格筋の成長・発達におけるミオスタチンの役割：サルコペニアとの関連性)
【キーワード】ミオスタチン

第15回　Role of β-Adrenergic Signalling in Skeletal Muscle Wasting:Implications for Sarcopenia
(骨格筋量の減少におけるアドレナリン作動性シグナリングの役割：サルコペニアとの関連性)
【キーワード】アドレナリン作動性シグナリング

教科書

参考文献
「スポーツ現場に生かす運動生理・生化学」(市村出版、2011)
「からだの発達と加齢の科学」(大修館書店、2012)

成績評価方法
レ ポ ー ト　50% 担当部分のレジメ提出
平常点評価　50% 主体的な授業参加度と発表、議論への参加状況

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
バイオメカニクス特論	矢内　利政

授業の概要

身体運動解析にて計測された数値情報から人体の運動メカニズムを明らかにするために必要な力学的解析方法を学ぶことを目的とする。とりわけ、人体を剛体のリンクとみなしてモデル化し、各身体部位の運動を3D 剛体運動として解析する手法を学ぶ。

授業の到達目標

オイラー角やオイラーパラメータを含む回転運動分析を中心とした3D Kinematic analysis を行うための基礎知識を習得し、ニュートンとオイラーの運動方程式を用いた3D Kinetic analysis を実施できるようになる。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　平面上の物体の位置
第３回　観測点の移動
第４回　空間内の物体の位置
第５回　観測点の位置と向きの移動
第６回　物体の向き
第７回　ある物体の他の物体に対する向き
第８回　回転の中心と回転軸
第９回　復習
第10回　力と運動との関係
第11回　回転運動の分析
第12回　力の回転効果
第13回　回転運動の勢い（角運動量）
第14回　回転運動における慣性（慣性モーメント）
第15回　復習

教科書

とくに定めないでテーマに沿った論文や配布資料を参考に行う。

参考文献

成績評価方法

試　　験　70%　試験による評価
平常点評価　30%　出席点：２%×15＋クイズ10%

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ生理学特論	村岡　功

授業の概要

運動・スポーツは健康づくりや競技力向上のために広く行われており、生活習慣病を予防するためには、規則的な運動およびスポーツ活動が必要であると言われている。そこで、本特論では第一に、疾病（生活習慣病）と運動に関して、〈1〉生活習慣病と運動療法の適応、〈2〉肥満症と運動、〈3〉糖尿病と運動、高脂血症と運動、〈4〉高尿酸血症と運動、〈5〉高血圧症と運動、について概説することとする。一方、競技成績（パフォーマンス）を高めるために、スポーツ選手はトレーニング以外に様々な補助的手段（Ergogenic aids）を用いていることも知られている。そこで第二に、広く用いられている種々の補助的手段を取り上げて、その効果や倫理的問題についても概説する。さらに、これらに関連する運動・スポーツ生理学に関する論文を各自が紹介・発表する形で授業を進めることとしたい。

授業の到達目標

スポーツ生理学が深く関与する競技力向上と健康づくりに関する講義および発表を通じて、競技力向上のための補助手段と疾病予防のための運動・スポーツ活動について理解を深めるとともに、運動・スポーツ生理学に関する最新の情報に触れるようにする。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　競技力向上のための補助手段〈1〉
第3回　競技力向上のための補助手段〈2〉
第4回　競技力向上のための補助手段〈3〉
第5回　競技力向上のための補助手段〈4〉
第6回　競技力向上のための補助手段〈5〉
第7回　競技力向上のための補助手段（6）
第8回　運動･スポーツ生理学関連文献の紹介（1）
第9回　運動･スポーツ生理学関連文献の紹介（2）
第10回　運動・スポーツ生理学関連文献の紹介（3）
第11回　運動・スポーツ生理学関連文献の紹介（4）
第12回　運動・スポーツ生理学関連文献の紹介（5）
第13回　運動・スポーツ生理学関連文献の紹介（6）
第14回　運動・スポーツ生理学関連文献の紹介（7）
第15回　運動･スポーツ生理学関連文献の紹介（8）

教科書

毎週、授業ごとにプリント等を配布する。

参考文献

授業時間内に、適宜紹介する。

成績評価方法

試　　験		試験による評価
レ ポ ー ト		試験を受験できない場合は、レポートを提出する。
平常点評価	50%	平常点による評価
そ の 他	50%	文献発表による

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ情報処理特論	誉田　雅彰

授業の概要

近年、スポーツを対象とするマルチメディア情報処理技術、コンピュータを用いたスポーツ身体動作の解析及びシミュレーション技術など、スポーツ分野における情報処理技術の重要性が増してきている。本講義では、画像・音声情報処理を中心とするスポーツマルチメディア情報処理技術、コンピュータ処理によるスポーツ身体動作の解析技術など、スポーツを対象とする高度な情報処理技術を扱う。

授業の到達目標

スポーツ映像処理およびスポーツ動作解析に関する仕組みを理解するとともに、それらを実現するための方法論を習得すること。

授業計画

第１回　講義ガイダンス
第２回　映像のデータ構造
第３回　画像処理技術
第４回　動作映像のデジタイズ処理の仕組み
第５回　スポーツ映像における選手位置検出処理の仕組み
第６回　スクリーン座標とフィールド座標の関係
第７回　３次元動作映像処理
第８回　動作データの平滑化処理
第９回　２次元動作データのキネマティック処理
第10回　２次元動作データのキネティック処理
第11回　３次元動作データのキネマティック処理
第12回　３次元動作データのキネティック処理
第13回　移動カメラ映像によるスポーツ映像処理
第14回　スポーツ映像検索処理
第15回　まとめと課題

教科書

適宜講義資料を配布する

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題レポートにより評価する
平常点評価　50%　出席回数により評価する

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
脳・運動の生理学特論	宝田　雄大

授業の概要

本授業は、主に、講義、出席者による論文（書籍）紹介と議論から構成される。紹介される論文選定については、履修者の興味や修論テーマを尊重した上で、科目名あるいは授業毎に提示しているキーワードに関連していることが望ましい。担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論するので、出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。なお、取り扱うテーマの理解を深めるために、関連の実験、検査体験などを行うこともある。

授業の到達目標

科目名に関連した論文（書籍）の精読を通じて、身体運動に関わる脳の機能理解し、身体運動をシステムという観点から、統合的に捉えることができるようになることを目指す。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　筋力と潜在能力
第３回　運動指令に関わる脳機能の概要
第４回　努力の感覚と力の知覚
第５回　“超軽い”重量、でも、“超キツイ”加圧トレーニングの不思議～筋力と乖離した力の知覚～
第６回　担当教員による関連論文紹介
第７回　関連論文紹介と議論（１）　Maximal voluntary force and “psychological” inhibiting factors
第８回　関連論文紹介と議論（２）Hypnotic suggestion and motor system state
第９回　関連論文紹介と議論（３）Preparing and Motivating Behavior Outside of Awareness
第10回　関連論文紹介と議論（４）　The Unconscious Will
第11回　関連論文紹介と議論（５）　Maximal voluntary force and motor system state　with special reference to barely conscious goal pursuit
第12回　関連論文紹介と議論（６）　Brain mechanisms underlying automatic and unconscious control of motor action
第13回　関連論文紹介と議論（７）　Accute effects of resistance training with vascular occlusion
第14回　関連論文紹介と議論(８)　Inhibition of the primary motor cortex can alter one’s “sense ofeffort”
第15回　関連論文紹介と議論（９）　Chronic effects of resistance training with vascular occlusion

教科書

授業中に適宜紹介

参考文献

標準生理学（医学書院)、カールソン神経科学テキスト　脳と行動（丸善)、脳と運動（共立出版)、タッチ（医学書院)、意識の探求　ー神経科学からのアプローチ（岩波書店)
Principles of neural science　(McGraw-Hill Medical)
Skeletal muscle structure, function & plasticity　(Lippincott Williams & Wilkins)

成績評価方法

平常点評価　100% 出席、発表、質疑応答により評価する。

備考・関連URL

本授業は、特に、各自の自主性や独創性が重視されるので、積極的な姿勢をもたない学生、目的意識がない学生などには履修は勧められない。また、生理学や神経科学の基礎知識がない学生にも履修は勧められない。(加圧)トレーニングなどに興味ある学生も大歓迎！なお、履修者の人数、理解度、進捗状況等により授業計画の変更を行う場合もある。

関連URL：http://researchers.waseda.jp/profile/ja.2a4c95e8182a613cb97bfd1b7340fabc.html
http://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ認知神経科学特論	正木　宏明

授業の概要

スポーツ場面で観察される巧みな動作の背景メカニズムを脳内情報処理の観点から検討する。ここでは、人間と環境との関わりを重視する心理学のアプローチを加えながら、スキル動作を認知神経科学的に理解する。

スポーツでは外界からの視覚情報を瞬時に認知し、適切な動作を選択・実行しなければならない。その過程には、注意、情動、動機づけ、意思決定、動作モニタリングなどが密接に関連している。これら脳内情報処理と巧みな動作発現との関係について概説する。パフォーマンスに影響を与えるスポーツ場面での情動体験やアスリートの性格特性についても概説する。予習として配布資料の事前読了を求める。

授業の到達目標

スポーツ場面で生み出される巧みな動作の背景メカニズムについて、認知神経科学的に説明できるようにする。

授業計画

第１回　ガイダンス（スポーツ認知神経科学のねらい）／本講義の目的と概要について説明する。
第２回　情動と動機づけ１（情動の脳内処理、情動理論）
第３回　情動と動機づけ２（スポーツと情動体験）
第４回　脳による運動制御１（大脳基底核、小脳、帯状皮質などの機能）
第５回　脳による運動制御２（大脳基底核、小脳、帯状皮質などの機能）
第６回　学習と記憶１（学習の脳内処理／運動学習）
第７回　学習と記憶２（学習の脳内処理／運動学習）
第８回　注意と空間認知
第９回　脳と意識１
第10回　脳と意識２（意思決定プロセス）
第11回　動作の認知表象１
第12回　動作の認知表象２
第13回　スキル動作の脳内情報処理１（行動指標を用いた研究の概説）
第14回　スキル動作の脳内情報処理２（生理指標を用いた研究の概説）
第15回　到達度の確認と総括

教科書

特になし。毎回プリントを配布する。

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　60%　レポートによる評価
平常点評価　40%　平常点による評価

備考・関連URL

すべての講義のなかからもっとも興味の強かったテーマについてレポートしてもらう。

授業科目名： コーチング特論	担当教員名： 礒　繁雄

授業の概要

　スポーツの持つコーチングの現状を選手、研究者、管理運営者の立場から実践研究をもとに明らかにする。これらの現状からトップアスリート育成のためのコーチングシステムの構築について講義する。

授業の到達目標

　コーチング実践から理論的背景を高めるための研究視点を芽生えさせる。さらに、理論の可能性と現状における限界を理解し、解決策等をディスカッションする能力を高める。

授業計画

第１回　演習概要の説明と進め方
第２回　コーチングの語源とスポーツコーチングの方向性
第３回　スポーツコーチングと教師との歴史的変遷
第４回　近代オリンピックの変遷とコーチングの役割変化
第５回　地域経済とスポーツコーチングの共存
第６回　（コーチングと教師・オリンピック・地域）グループ分けと討論
第７回　討論内容の発表（１）
第８回　討論内容の発表（２）
第９回　アナリストデータの活用（個人種目）
第10回　アナリストデータの活用（チーム種目）
第11回　招聘講師による講義と内容まとめ
第12回　強化策の策定視点と周囲との調整内容
第13回　タレント発掘の視点
第14回　トップアスリートが代表者と持つべき資質と学習内容
第15回　レポート課題とそのまとめ方

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　40％ 出席等
そ　の　他　60％ 到達度の確認とレポートで60％

備考・関連URL

授業科目名： コーチ学特論	担当教員名： 奥野　景介、杉山　千鶴、礒　繁雄、松井　泰二、岡田　純一、土屋　純、射手矢　岬、倉石　平

授業の概要

　コーチングの対象者はレベル、種目など多様である。本講座では、コーチング現場で起こる様々な事象や情報を提供し、スポーツ科学の観点から分析し、理解を深める。講義は総合講座形式で行うが、種々のコーチングの情報を体系化することを試み、スポーツ科学の実践的応用を視野に入れて展開する。

授業の到達目標

　本講座では、コーチング現場で起こる様々な事象や情報を提供し、スポーツ科学の観点から分析し、理解を深める。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　コーチングの実際１（水泳）
第３回　各競技における連盟・協会の取り組みほか１（水泳）
第４回　コーチングの実際２（体操）
第５回　各競技における連盟・協会の取り組みほか２（体操）
第６回　コーチングの実際３（サッカー）
第７回　各競技における連盟・協会の取り組みほか３（サッカー）
第８回　コーチングの実際４（バレーボール）
第９回　各競技における連盟・協会の取り組みほか４（バレーボール）
第10回　コーチングの実際５（舞踊）
第11回　各競技における連盟・協会の取り組みほか５（バスケットボール）
第12回　コーチングの実際６（陸上競技）
第13回　各競技における連盟・協会の取り組みほか６（柔道）
第14回　コーチングの実際７（ウェイトリフティング）
第15回　各競技における連盟・協会の取り組みほか７（ウェイトリフティング）

教科書

トップパフォーマンスへの挑戦（大修館書店）

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　70%　レポート課題の出来によって評価する。
平常点評価　30%　出席回数、授業参加状況、授業時の課題の出来によって総合的に評価する。

備考・関連URL

　その他に補講期間に授業を実施する場合がある。

授業科目名：	担当教員名：
コーチングバイオメカニクス特論	土屋　純

授業の概要

　スポーツ技術の明確化あるいはスポーツ技能の評価のひとつの手法として、スポーツバイオメカニクスの研究方法を用いた運動の定量化が行われる。スポーツのコーチにとってはそうした定量値のもつ意味の把握が技術指導の際の有益な情報となりえる。ここではスポーツ運動のコーチングの際に必要となるバイオメカニクス的視点とその方法について取り扱う。

授業の到達目標

　コーチに必要なバイオメカニクスの知識を修得し、選手の動きをバイオメカニクス的に記述・評価できる。

授業計画

第１回　受講ガイダンス
第２回　バイオメカニクスの基本的知識：Kinematics（１）質量、変位、速度、加速度
第３回　バイオメカニクスの基本的知識：Kinematics（２）慣性モーメント、角度、角速度、角加速度
第４回　バイオメカニクスの基本的知識：Kinematics（３）　運動量、角運動量
第５回　バイオメカニクスの基本的知識：Kinetics（１）力、トルク、パワー
第６回　バイオメカニクスの基本的知識：Kinetics（２）エネルギー
第７回　バイオメカニクスの基本的知識：Kinetics（３）運動の法則
第８回　スポーツ動作のバイオメカニクス（１）走る
第９回　スポーツ動作のバイオメカニクス（２）投げる
第10回　スポーツ動作のバイオメカニクス（３）跳ぶ
第11回　スポーツ動作のバイオメカニクス（４）蹴る
第12回　スポーツ動作のバイオメカニクス（５）回る
第13回　スポーツ動作のバイオメカニクス（６）持ち上げる
第14回　スポーツ動作のバイオメカニクス（７）競技スポーツのバイオメカニクス的研究報告
第15回　総括とまとめ

教科書

なし

参考文献

スポーツバイオメカニクス２０講　阿江通良・藤井範久著　朝倉書店　3200円
Biomechanics and motor control of human movement D.A.Winter 著　John Wiley & sons,Inc

成績評価方法

平常点評価　100%　各個人に割り当てられた発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
コーチング心理学特論	堀野　博幸

授業の概要

スポーツパフォーマンスは、技術・体力・戦術要因から構成される。そして、心理要因が、それら３つの要素を総合的に支えている。本講義では、アスリートとコーチを中心として、コーチングプロセスに関与する人間の心理的課題を考察する。スポーツフィールドで発生する様々な心理的問題を取り上げ、その問題の本質を精査し、その問題解決の方向性について、受講生のプレゼンテーションとディスカッションを通して検討する。

授業の到達目標

コーチングフィールドにおける諸課題の理解と改善アプローチへの理論的接近。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　コーチング
第３回　心理学
第４回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・個人基礎
第５回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・個人応用
第６回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・グループ基礎
第７回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・グループ応用
第８回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・チーム基礎
第９回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・チーム応用
第10回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・心理学からの分析（個人）
第11回　グループワーク：事例研究の資料収集
第12回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・心理学からの分析（グループ）
第13回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究・心理学からの分析（チーム）
第14回　プレゼンテーション&ディスカッション：事例研究の総合分析
第15回　まとめ：コーチングと心理学の総合分析

教科書

特になし。

参考文献

スポーツ心理学ハンドブック

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題レポートを評価する
平常点評価　50%　プレゼンテーションと授業への取り組みを評価する

備考・関連URL

上記の内容を適宜進めていく。
授業に関する連絡は、コースナビを通じて行いますので、定期的にコースナビを確認してください。

授業科目名：	担当教員名：
コンディショニング特論	岡田　純一

授業の概要

目的に適した身体能力を備えること、身体能力を競技力へと結びつけること、そのために必要なあらゆる体力要素を向上させること、目的とする時期にその状態を整えることなど、コンディショニングが含有する意図は多様である。コンディショニングに関わるレジスタンストレーニングのプログラムデザイン、アスリートの体力や生理学的特性を考慮したトレーニング計画を科学的知見に基づいて構築することを専門書より学ぶ。

授業の到達目標

レジスタンストレーニングのプログラムデザインについて理解するとともに専門用語を習得する。

授業計画

第１回　オリエンテーション、プログラムデザインの概要、実践例
第２回　コンディショニング研究の背景
第３回　Program Design １　(Need Analysis)
第４回　Program Design ２　(Exercise selection)
第５回　Program Design ３　(Training Frequency)
第６回　Program Design ４　(Exercise Order)
第７回　Program Design ５　(Training load & repetitions)
第８回　Program Design ６　(Volume)
第９回　Program Design ７　(Rest periods)
第10回　Conditioning tool １　(Plyometric)
第11回　Conditioning tool ２　(Stretching)
第12回　Conditioning tool ３　(Speed & Agility)
第13回　Conditioning tool ４　(Aerobic endurance)
第14回　Conditioning tool ５　(Periodization)
第15回　Conditioning tool ６　(Facility & Equipment)

教科書

Essentials of Strength Training and Conditioning　(Human Kinetics)

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　授業でのプレゼンテーション

備考・関連URL

授業科目名： パフォーマンス評価	担当教員名： 奥野　景介

授業の概要

　スポーツのパフォーマンスは技術面、体力面、心理面、戦術面等の側面から評価することができる。本講座ではスポーツの現場では実際にどのようなパフォーマンス評価がなされているかを知り、ツールとしてのスポーツ科学の活用方法について論議する。

授業の到達目標

　スポーツの現場で確認されるパフォーマンスがどのように評価されているかを知り、スポーツ科学の活用方法についての論議から理解を深める。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　パフォーマンス評価概論
第３回　「走」のパフォーマンス評価
第４回　「跳」のパフォーマンス評価
第５回　「投」のパフォーマンス評価
第６回　「泳・漕」のパフォーマンス評価
第７回　「採点競技」のパフォーマンス評価
第８回　「記録競技」のパフォーマンス評価
第９回　「球技（ゴール)」のパフォーマンス評価
第10回　「球技（ネット)」のパフォーマンス評価
第11回　「チームスポーツ」のパフォーマンス評価
第12回　「武道・格闘技」のパフォーマンス評価
第13回　「トップアスリート」のパフォーマンス評価
第14回　「ラケットスポーツ」のパフォーマンス評価
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト	50%	発表内容および当日の論議をまとめた形でレポート課題とし、その出来によって評価する。
平常点評価	50%	出席状況および授業時に実施する発表内容の出来によって評価する。 発表はテーマに応じた研究論文の紹介または情報提供を1回以上行う。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
スポーツ戦術戦略特論	倉石　平

授業の概要

スポーツが高度化するとともに不可欠なことは、データの収集、分析、反映である。特にトップパフォーマンスにおけるデータの収集、収集方法、データの分析、PC のソフトを使った分析、分析の考え方、データの反映などはスポーツが高度化するにつれ、欠くことができない。これらの手法を身につけることはコーチ、アナリスト等に関しては重要な問題である。本講義ではこれらの手法について学習する。

ゲームに勝利するためには、ゲームプラン（作戦）の立案が不可欠である。それらを立案するためには、自ら（個人、もしくはチーム）を熟知すること、そして相手（個人、もしくはチーム）を熟知すること、さらにはそれらを対比することが重要となる。先人達の戦い方（いくさの仕方など）から学びながら、現在のスポーツゲームに照らしあわせて科学的に検証してゆく。

この授業ではスポーツにおける情報収集、分析、反映を主たる内容とし、どのようにして収集をするのか、またその収集をする方法はどのようなものか、道具は何を用いるかなどを学ぶ。さらに、その収集したデータをどのように分析や解析を行うのか、それらの作業で得られた情報（データ）の反映をどのようにするのか検証する。

そして実際のゲームを題材にしてゲーム分析を行い、個々が行った分析結果を発表し、客観的な分析がなされているか、妥当性があるのかなどを討論する。

授業の到達目標

スポーツコーチングにおける情報の収集・分析・反映を把握したうえで、実践での実例を踏えて、ゲームプランを修正等をするアイデアを学び表現する。

授業計画

第１回　オリエンテーション　講義の目的、概要
第２回　情報とは　情報
第３回　情報の収集と分析　情報収集、情報分析
第４回　情報の反映　情報反映、コーチングへの反映
第５回　競技別情報の扱いと現状（プレゼンテーション１）　プレゼン、情報
第６回　競技別情報の扱いと現状（プレゼンテーション２）　プレゼン、情報、収集、分析、反映、実践例
第７回　競技別情報の扱いと現状（プレゼンテーション３）　プレゼン、情報、収集、分析、反映、リスクマネジメント
第８回　情報の収集（カメラを使っての収集）　情報収集、実習
第９回　情報の収集（オープンソースインテリジェンスでの収集）　情報収集、オープンソースインテリジェンス
第10回　情報の分析（ゲーム分析ソフトを使っての実習１）　情報分析、ゲーム分析ソフト、実習、タギング
第11回　情報の分析（ゲーム分析ソフトを使っての実習２）　情報分析、ゲーム分析ソフト、実習、タギング、反映
第12回　情報の分析（ゲーム分析ソフトを使っての実習３）　情報分析、映像編集、反映データ作成
第13回　情報の反映（データの反映）　情報反映、ゲームプランへの反映
第14回　プレゼンテーション１（反映）　プレゼン、ゲームプラン
第15回　プレゼンテーション２（反映）　まとめ　プレゼン、ゲームプラン、実践、リスクマネジメント

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　40%　レポートによる評価
平常点評価　60%　平常点による評価
プレゼンでの評価、習得（ゲーム分析ソフトの実用）状況の評価
ゲームプラン作成評価

備考・関連URL

授業科目名： チームスポーツコーチング特論	担当教員名： 松井　泰二

授業の概要

チームスポーツにおける「組織」に着目し，「組織」の本質を多角的に分析する．

授業の到達目標

「組織」について科学的な観点から理解し，「発展的組織」の創出について提案ができる．

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　チームとは，組織論
第３回　組織行動
第４回　個の存在
第５回　モチベーション
第６回　コミュニケーション
第７回　リーダーシップ
第８回　マネジメント
第９回　リスクマネジメント
第10回　組織におけるコーチの役割
第11回　コーチング・フィロソフィー
第12回　さまざまな戦術論から組織を学ぶ
第13回　組織の戦術行動と戦術トレーニング
第14回　プレゼンテーション等のアウトプット手法
第15回　総括

教科書

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　レポートによる評価
平常点評価　50%　授業への取り組みの評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
武道のコーチング学特論	射手矢　岬

授業の概要

　競技としての柔道はグローバル化し、伝統的なコーチングでは世界で勝つ事が難しくなってきた。柔道の歴史、技術・体力構造、現代のシニア・ジュニアのコーチングについて解説する。

授業の到達目標

　柔道の基礎知識を学び、自分自身の競技力向上やコーチングについて考える能力を高める。

授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　嘉納治五郎と柔道の歴史
第３回　柔道の特性
第４回　技術の構造
第５回　体力の構造
第６回　柔の理合い（崩し、てこ）
第７回　柔道のコーチングに関する基本的な考え方
第８回　シニア・シニア選手に対するコーチング
第９回　コーチングと性差
第10回　階級制と無差別に関するコーチング
第11回　ジュニア期の減量、コンディショニング
第12回　体力トレーニング法
第13回　技術トレーニング法
第14回　試合映像の分析
第15回　総括とまとめ（到達度の確認を含む）

教科書

なし

参考文献

柔道のコーチング、松本芳三、大修館書店、１９７６
ジュニア選手育成のための柔道コーチング論、山口香、射手矢岬他、道和書院、２００８

成績評価方法

レ ポ ー ト　50%　課題レポートの評価
平常点評価　50%　主体的（積極的）な授業への取り組みの評価

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
応用統計学　01	松本　史郎

授業の概要

　スポーツ科学研究科の学生にとって、自然科学の研究ばかりでなく、将来必要になってくるのが「統計」である。高度な研究をする上で統計の基礎の部分の見直しは重要である。その上で学生の既習知識に応じて応用部分にも触れる機会をつくる。

　本講座では、「記述統計学」から始め基礎的な内容を、‘数学的裏付け’を基盤にしながら解説し，統計的推定・検定に至るスタンダードな統計学を伝える。さらに学生の既習知識等を確認した上でベイズ統計学等にも触れたい。

授業の到達目標

　統計的手法の根本的な考え方を紹介し，スポーツ科学の研究の裏付けになるようなデータ処理の一助になることを目標にする。

授業計画

第１回　統計学ガイダンス
　　データについて
第２回　記述統計１
第３回　記述統計２
第４回　確率分布１
第５回　確率分布２
第６回　統計的推定１
第７回　統計的推定２
第８回　統計的推定３
第９回　検定１
第10回　検定２
第11回　検定３
第12回　検定４
第13回　発展的内容１
第14回　発展的内容２
第15回　総まとめ

教科書

　「統計学演習」　村上正康・安田正實　共著　（培風館）

参考文献

　講義の中でその都度推薦する。

成績評価方法

試　　験　　特に試験は行わない。
平常点評価　100%　毎回の授業の理解度の確認のため、演習やディスカッション等を実施します。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
応用統計学　02	松本　史郎

授業の概要

スポーツ科学研究科の学生にとって、自然科学の研究ばかりでなく、将来必要になってくるのが「統計」である。高度な研究をする上で統計の基礎の部分の見直しは重要である。その上で学生の既習知識に応じて応用部分にも触れる機会をつくる。

本講座では、「記述統計学」から始め基礎的な内容を、‘数学的裏付け’を基盤にしながら解説し，統計的推定・検定に至るスタンダードな統計学を伝える。さらに学生の既習知識等を確認した上でベイズ統計学等にも触れたい。

授業の到達目標

統計的手法の根本的な考え方を紹介し、スポーツ科学の研究の裏付けになるようなデータ処理の一助になることを目標とする。

授業計画

第１回　統計学ガイダンス
　　データについて
第２回　記述統計１
第３回　記述統計２
第４回　確率分布１
第５回　確率分布２
第６回　統計的推定１
第７回　統計的推定２
第８回　統計的推定３
第９回　検定１
第10回　検定２
第11回　検定３
第12回　検定４
第13回　発展的内容１
第14回　発展的内容２
第15回　総まとめ

教科書

「統計学演習」村上正康・安田正實　共著　（培風館）

参考文献

講義の中でその都度推薦する。

成績評価方法

試　　験　　特に試験は行わない。
平常点評価　100%　毎回の授業の理解度の確認のため、演習ディスカッション等を実施します。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツクラブマネジメント演習（1）A	担当教員名： 間野　義之

授業の概要

一年制修士課程の演習として、地域スポーツクラブのマネジメントの基礎を身につけ、修士論文の作成を計画的に導くことを目的とする。

学生参加型の演習とし、交代での発表と、全員での討論を行う。

授業の到達目標

地域スポーツマネジメントの基礎を理解し、修士論文作成に結び付けられること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　スポーツクラブビジネスの歴史（1）
第３回　スポーツクラブビジネスの法律（1）
第４回　スポーツクラブビジネスの指導者（1）
第５回　スポーツクラブビジネスのマネジメントスタッフ（1）
第６回　スポーツクラブビジネスのボランティア（1）
第７回　スポーツクラブビジネスの活動拠点（1）
第８回　スポーツクラブビジネスのクラブハウス（1）
第９回　スポーツクラブビジネスの財源（1）
第10回　スポーツクラブビジネスの事業収支計画（1）
第11回　スポーツクラブビジネスのリスクマネジメント（1）
第12回　スポーツクラブビジネスのガバナンス（1）
第13回　スポーツクラブビジネスの今日的課題（1）
第14回　スポーツクラブビジネスの将来像（1）
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　演習での定められた時間内での発表内容・発言で評価する。要点を押さえること。

備考・関連URL

授業科目名： スポーツクラブマネジメント演習（1）B	担当教員名： 間野　義之

授業の概要

一年制修士課程の演習として、地域スポーツクラブのマネジメントの基礎を身につけ、修士論文の作成を計画的に導くことを目的とする。

学生参加型の演習とし、交代での発表と、全員での討論を行う。

授業の到達目標

地域スポーツマネジメントの基礎を理解し、修士論文作成に結び付けられること。

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　スポーツクラブビジネスの歴史（2）
第3回　スポーツクラブビジネスの法律（2）
第4回　スポーツクラブビジネスの指導者（2）
第5回　スポーツクラブビジネスのマネジメントスタッフ（2）
第6回　スポーツクラブビジネスのボランティア（2）
第7回　スポーツクラブビジネスの活動拠点（2）
第8回　スポーツクラブビジネスのクラブハウス（2）
第9回　スポーツクラブビジネスの財源（2）
第10回　スポーツクラブビジネスの事業収支計画（2）
第11回　スポーツクラブビジネスのリスクマネジメント（2）
第12回　スポーツクラブビジネスのガバナンス（2）
第13回　スポーツクラブビジネスの今日的課題（2）
第14回　スポーツクラブビジネスの将来像（2）
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

平常点評価　100%　演習での定められた時間内での発表内容・発言で評価する。要点を押さえること。

備考・関連URL

授業科目名： 健康スポーツマネジメント演習（1）A	担当教員名： 中村　好男

授業の概要

本授業では、まず、マーケティングならびに社会マーケティングについての基礎理論を学習した上で、各々の受講生が関与する実務分野の状況に応じて、体力科学、運動生理学、栄養学、行動科学などの関連諸領域の基礎理論を学び、それらの基礎知識を前提として、地域行政あるいは健康関連組織における健康増進のマネジメントを行う上での実務的・専門的能力を習得する。

授業の到達目標

・健康スポーツマネジメントに関する基礎理論を理解すること。
・各自の修士論文の研究計画を策定できること。

授業計画

第１回　健康スポーツのマネジメントとは
第２回　健康スポーツマーケティングの具体事例（1）フィットネス業界
第３回　健康スポーツマーケティングの具体事例（2）地域スポーツクラブ
第４回　健康スポーツマーケティングの具体事例（3）特定保健指導
第５回　健康スポーツマーケティングの具体事例（4）ウォーキング
第６回　健康スポーツマーケティングの具体事例（5）栄養指導
第７回　健康スポーツのマーケティングとマネジメント
第８回　健康スポーツマネジメントの調査演習（1）フィットネス業界
第９回　健康スポーツマネジメントの調査演習（2）地域スポーツクラブ
第10回　健康スポーツマネジメントの調査演習（3）健康増進施策
第11回　健康スポーツマネジメントの調査演習（4）ウォーキング
第12回　健康スポーツマネジメントの調査演習（5）栄養指導
第13回　予備調査結果発表準備
第14回　予備調査結果発表
第15回　夏期休業中の個別研究推進に向けた課題提示と解説

教科書

特になし。個別に指示。

参考文献

特になし。個別に指示。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名： 健康スポーツマネジメント演習（1） B	担当教員名： 中村　好男

授業の概要

本授業では、健康スポーツマネジメントに関する問題設定技法ならびに仮説検証技法を習得し、各自が取り組む修士論文の課題に応じた実践検証に取り組む。

授業の到達目標

・各自の修士論文の研究に着手できること。
・各自の提出した修士論文の口頭諮問のためのプレゼンテーション技法を習得すること。

授業計画

第１回　夏期研究成果中間報告準備
第２回　夏期研究成果中間報告
第３回　研究計画書の作成技法
第４回　論文作成技法（１．構成）
第５回　論文作成技法（２．表記ならびに引用法）
第６回　論文作成技法（３．問題設定・仮説提示から研究目的まで）
第７回　論文作成技法（４．問題解決のための方法・結果の一貫性）
第８回　論文作成技法（５．データ分析）
第９回　論文作成技法（６．統計分析と検定）
第10回　論文作成技法（７．研究目的と考察の一貫性と結論）
第11回　研究成果発表準備
第12回　研究成果発表
第13回　プレゼンテーション技法（１）課題の抽出と伝達技法
第14回　プレゼンテーション技法（２）効果検証技法
第15回　まとめ：口頭試問演習

教科書

なし。

参考文献

なし。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名： 介護予防マネジメント演習（1）A	担当教員名： 岡　浩一朗

授業の概要

本演習では、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルのトレーニングを中心に演習を進める。

授業の到達目標

介護予防に関する最新情報や基礎知識、実践手法に関するリテラシーを高め、リサーチペーパーをまとめるための研究能力および問題解決能力を高めることを主な目標にする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　情報検索トレーニング（1）
第３回　情報検索トレーニング（2）
第４回　情報検索トレーニング（3）
第５回　論文読解トレーニング（1）
第６回　論文読解トレーニング（2）
第７回　論文読解トレーニング（3）
第８回　論文読解トレーニング（4）
第９回　論文読解トレーニング（5）
第10回　統計解析トレーニング（1）
第11回　統計解析トレーニング（2）
第12回　統計解析トレーニング（3）
第13回　統計解析トレーニング（4）
第14回　統計解析トレーニング（5）
第15回　講評とレポート課題

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポート内容20%
平常点評価　80%　出席状況50%、発表内容15%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢15%

備考・関連URL

授業科目名： 介護予防マネジメント演習（1）B	担当教員名： 岡　浩一朗

授業の概要

本演習では、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルのトレーニングを中心に演習を進める。

授業の到達目標

介護予防に関する最新情報や基礎知識、実践手法に関するリテラシーを高め、リサーチペーパーをまとめるための研究能力および問題解決能力を高めることを主な目標にする。

授業計画

第1回　演習の進め方、プレゼンテーションスキルトレーニング（1）
第2回　プレゼンテーションスキルトレーニング（2）
第3回　プレゼンテーションスキルトレーニング（3）
第4回　プレゼンテーションスキルトレーニング（4）
第5回　プレゼンテーションスキルトレーニング（5）
第6回　クリティカルリーディングトレーニング（1）
第7回　クリティカルリーディングトレーニング（2）
第8回　クリティカルリーディングトレーニング（3）
第9回　クリティカルリーディングトレーニング（4）
第10回　クリティカルリーディングトレーニング（5）
第11回　ダイレクトリーディングトレーニング（1）
第12回　ダイレクトリーディングトレーニング（2）
第13回　ダイレクトリーディングトレーニング（3）
第14回　ダイレクトリーディングトレーニング（4）
第15回　講評とレポート課題

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

成績評価方法

レポート　20%　レポート内容20%
平常点評価　80%　出席状況50%、発表内容15%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢15%

備考・関連URL

授業科目名： エリートコーチング演習（1）A	担当教員名：土屋　純、礒　繁雄、射手矢　岬、 岡田　純一、奥野　景介、倉石　平、 堀野　博幸、松井　泰二

授業の概要

　オリンピックや世界選手権への出場といった高い競技力を獲得する過程で経験知や暗黙知、科学的視点を豊富にもつ優れたスポーツ選手および指導者に対して、彼らが競技経験および指導経験から蓄積してきた知識や視点を個人内に留めおくのではなく、それらを研究論文といういわゆる「形式知」にまとめ、その情報を発信できる能力を養成し、さらに優れたスポーツ指導者へと育成する。

授業の到達目標

A．高いレベルのコーチングに関する研究論文を執筆できるようになる。
B．高度な理論を背景としたトップレベルのコーチングを行えるようになる。

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　コーチング研究とは
第3回　暗黙知・経験知の確認と記述
第4回　コーチング研究：事例研究
第5回　コーチング研究：実践研究
第6回　コーチング研究の計画（1）：技術の把握方法
第7回　コーチング研究の計画（2）：技術の指導方法
第8回　コーチング研究の計画（3）：技術指導の記述方法
第9回　コーチング研究の計画（4）：体力の把握と指導
第10回　コーチング研究の計画（5）：事例の提示方法
第11回　コーチング研究の実践
第12回　コーチング研究の実践報告とディスカッション（1）：技術分析・指導研究
第13回　コーチング研究の実践報告とディスカッション（2）：戦術分析・指導研究
第14回　コーチング研究の実践報告とディスカッション（3）：体力分析・トレーニング研究
第15回　中間まとめ　定期試験は実施しない。

教科書

トップパフォーマンスへの挑戦 早稲田大学スポーツ科学学術院（編）

参考文献

必要に応じて授業中に紹介する

成績評価方法

平常点評価　100%　発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： エリートコーチング演習（1）B	担当教員名：土屋　純、礒　繁雄、射手矢　岬、 岡田　純一、奥野　景介、倉石　平、 堀野　博幸、松井　泰二

授業の概要

　オリンピックや世界選手権への出場といった高い競技力を獲得する過程で経験知や暗黙知、科学的視点を豊富にもつ優れたスポーツ選手および指導者に対して、彼らが競技経験および指導経験から蓄積してきた知識や視点を個人内に留めおくのではなく、それらを研究論文といういわゆる「形式知」にまとめ、その情報を発信できる能力を養成し、さらに優れたスポーツ指導者へと育成する。

授業の到達目標

A．高いレベルのコーチングに関する研究論文を執筆できるようになる。
B．高度な理論を背景としたトップレベルのコーチングを行えるようになる。

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　研究計画書の作成
第3回　論文作成技法（1．構成）
第4回　論文作成技法（2．表記と引用法）
第5回　論文作成技法（3．目的）
第6回　論文作成技法（4．方法－文章）
第7回　論文作成技法（4．方法－図）
第8回　論文作成技法（5．結果－文章）
第9回　論文作成技法（5．結果－図表）
第10回　論文作成技法（6．考察）
第11回　論文作成技法（7．結論、抄録）
第12回　プレゼンテーション技法
第13回　研究成果発表1：プレゼンテーション
第14回　研究成果発表2：ディスカッション
第15回　まとめ　定期試験は実施しない。

教科書

トップパフォーマンスへの挑戦 早稲田大学スポーツ科学学術院（編）

参考文献

必要に応じて授業中に紹介する

成績評価方法

平常点評価　100%　課題への取り組み姿勢、発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名： エリートコーチング総合演習	担当教員名：土屋　純、礒　繁雄、岡田　純一、 奥野　景介、倉石　平、堀野　博幸、 間野　義之、矢内　利政、彼末　一之、 広瀬　統一、石井　昌幸、友添　秀則

授業の概要

スポーツ科学の様々な領域とコーチングとの接点に関する演習を行う。

授業の到達目標

コーチングとスポーツ科学の各領域の関わりについて理解を深め、競技指導あるいは国際競技大会において直面する諸問題の解決法を導く。

授業計画

第１回　世界を舞台にした組織戦：生涯スポーツ政策（間野・倉石）
第２回　世界を舞台にした組織戦：競技力向上政策（間野・倉石）
第３回　世界を舞台にした組織戦：オリンピック・パラリンピック政策（間野・倉石・土屋）
第４回　けがのリスクを凌駕する技術：「痛み」の原理とその対処法（礒・彼末）
第５回　けがのリスクを凌駕する技術：「ケガ」のリスク回避をトレーナー視点で実践を踏まえとらえる（礒・広瀬）
第６回　けがのリスクを凌駕する技術：痛みに関する課題報告とトレーナー実践技術評価（礒・広瀬・彼末）
第７回　世界で戦う心を育てる：スポーツ心理学からのアプローチ（松井・正木）
第８回　世界で戦う心を育てる：プレゼンテーション（松井・正木）
第９回　世界で戦う心を育てる：ディスカッション（松井・正木）
第10回　極限を超えるための肉体：バイオメカニクス的視点で競技を捉える（川上・岡田）
第11回　極限を超えるための肉体：競技力を規定する因子を探る（川上・岡田）
第12回　極限を超えるための肉体：トレーニング課題の策定：プレゼンテーションとディスカッション：（川上・岡田）
第13回　スポーツという文化とその歴史：スポーツ教育の視点から：（友添・奥野）
第14回　スポーツという文化とその歴史：スポーツ史の視点から：（石井・奥野）
第15回　スポーツという文化とその歴史：コーチングの視点から：（奥野）　定期試験は実施しない。

教科書

授業中に紹介する

参考文献

トップパフォーマンスへの挑戦 早稲田大学スポーツ科学学術院（編）

成績評価方法

平常点評価　100%　発表の内容とディスカッションへの貢献度について評価する。

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
経営と戦略	間野　義之

授業の概要

地域スポーツクラブの経営と戦略について、現地を訪問し、その実際を学ぶ。

授業の到達目標

各地域スポーツクラブの経営と戦略の特徴を理解し、ビジネスの要点を明示できること。

授業計画

第１回　横浜カントリー&アスレチッククラブの歴史
第２回　横浜カントリー&アスレチッククラブのプログラム
第３回　横浜カントリー&アスレチッククラブの経営と戦略
第４回　横浜インターナショナルテニスコミュニティの歴史
第５回　横浜インターナショナルテニスコミュニティの経営と戦略
第６回　グランセナフットボールクラブの歴史
第７回　グランセナフットボールクラブの経営と戦略
第８回　新潟聖篭スポーツセンターの歴史
第９回　新潟聖篭スポーツセンターの経営と戦略
第10回　中間まとめ
第11回　スポーツコミュニティ軽井沢の歴史
第12回　スポーツコミュニティ軽井沢の経営と戦略
第13回　カーリング体験（１）
第14回　カーリング体験（２）
第15回　まとめ

教科書

「奇跡の３年　2019・2020・2021　ゴールデン・スポーツイヤーズが地方を変える」、徳間書店、2015 年

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　100%　視察したスポーツクラブの経営と戦略に関するレポート

備考・関連URL

交通費等は本人負担。

授業科目名： スポーツクラブマネジメント研究法	担当教員名： 間野　義之

授業の概要

　主として一年制修士向けの講義科目として、地域スポーツクラブマネジメントの研究方法について理論と事例を紹介する。

　アンケート調査やインタビュー調査などの実務実践について学習する。

授業の到達目標

　地域スポーツクラブマネジメントの研究方法について理解すること。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　研究方法論（１）
第３回　研究方法論（２）
第４回　研究方法論（３）
第５回　定量的研究方法（１）
第６回　定量的研究方法（２）
第７回　定量的研究方法（３）
第８回　定性的研究方法（１）
第９回　定性的研究方法（２）
第10回　定性的研究方法（３）
第11回　参与観察
第12回　実験
第13回　統計解析
第14回　論文技法
第15回　まとめ

教科書

参考文献

成績評価方法

そ　の　他　100%　発表内容を評価する。

備考・関連URL

　履修に際しての前提条件：スポーツクラブマネジメント演習（１）を履修していること。

授業科目名： ヘルスプロモーション演習	担当教員名： 岡　浩一朗

授業の概要

本演習では、ダイレクトリーディング（特定の領域を決めて、一定数の論文を読み、その要旨をプレゼンテーションする）を中心に演習を進める。

授業の到達目標

ヘルスプロモーションに関する研究の最新情報を整理し、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決能力を高めることを主な目標にする。

授業計画

第１回　演習の概要と進め方
第２回　ヘルスフィットネス研究論文読解（１）
第３回　ヘルスフィットネス研究論文読解（２）
第４回　ヘルスフィットネス研究論文読解（３）
第５回　ヘルスフィットネス研究論文読解（４）
第６回　ヘルスコミュニケーション研究論文読解（１）
第７回　ヘルスコミュニケーション研究論文読解（２）
第８回　ヘルスコミュニケーション研究論文読解（３）
第９回　ヘルスカウンセリング研究論文読解（１）
第10回　ヘルスカウンセリング研究論文読解（２）
第11回　ヘルスカウンセリング研究論文読解（３）
第12回　ヘルスマーケティング研究論文読解（１）
第13回　ヘルスマーケティング研究論文読解（２）
第14回　ヘルスマーケティング研究論文読解（３）
第15回　講評とレポート課題

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポート内容
平常点評価　80%　出席状況60%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢20%

備考・関連URL

授業科目名：	担当教員名：
健康スポーツマネジメント研究法	中村　好男

授業の概要

本授業では、春学期に学習したマーケティングならびに体力科学、運動生理学、栄養学、行動科学などの関連諸領域の基礎理論の学習成果を確認した上で、各々の受講生が関与する実務分野の状況に応じて必要とされる具体的な研究技法を学習する。

授業の到達目標

各自の研究に必要とされる準備作業を成就し、研究計画書を作成すること。

授業計画

第１回　学術文献データベース利用法
第２回　文献検索実践技法
第３回　論文読解技法（１）論文を見つける
第４回　論文読解技法（２）論文を要約する
第５回　健康スポーツに関する調査データの分析（１）データの収集
第６回　健康スポーツに関する調査データの分析（２）基礎統計
第７回　健康スポーツに関する調査データの分析（３）検定の基本構造
第８回　健康スポーツに関する調査データの分析（４）研究デザインと統計検定
第９回　統計と検定（１）集計と代表値
第10回　統計と検定（２）回帰分析とノンパラメトリック検定
第11回　論文作成技法（１）問題設定
第12回　論文作成技法（２）仮説の提示と検証
第13回　質問調査紙作成技法
第14回　インタビュー調査法
第15回　研究計画作成技法

教科書

特になし。個別に指示。

参考文献

特になし。個別に指示。

成績評価方法

平常点評価　100%　授業中の発表内容を評価

備考・関連URL

授業科目名： 介護予防マネジメント研究法	担当教員名： 岡　浩一朗

授業の概要

本講義は、介護予防に関連した研究の調査・実験法、データ解析法、論文のまとめ方を中心に授業を行う。

授業の到達目標

介護予防に関連した修士論文をまとめるための研究技法の獲得を目指す。

授業計画

第１回　講義の概要と進め方
第２回　介護予防に関する調査・実験法（１）
第３回　介護予防に関する調査・実験法（２）
第４回　介護予防に関する調査・実験法（３）
第５回　介護予防に関する調査・実験法（４）
第６回　介護予防に関する研究データ解析法（１）
第７回　介護予防に関する研究データ解析法（２）
第８回　介護予防に関する研究データ解析法（３）
第９回　介護予防に関する研究データ解析法（４）
第10回　介護予防に関する研究論文のまとめ方（１）
第11回　介護予防に関する研究論文のまとめ方（２）
第12回　介護予防に関する研究論文のまとめ方（３）
第13回　介護予防に関する研究論文のまとめ方（４）
第14回　介護予防に関する研究論文のまとめ方（５）
第15回　全体解説とレポート課題

教科書

特になし。資料は講義中に適宜配布する。

参考文献

成績評価方法

レ ポ ー ト　20%　レポート内容
平常点評価　80%　出席状況60%、授業中の積極性や勤勉性といった取組姿勢20%

備考・関連URL